Express5800シリーズ

PowerChute[™] Business Edition Basic v9.1.1

UL1057-702

インストールガイド/リリースノート

インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

1

このたびは『PowerChute[™] Business Edition Basic v9.1.1』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。 本ガイドは、PowerChute[™] Business Edition Basic v9.1.1 のインストール方法および関連する情報について説明 しています。『PowerChute[™] Business Edition Basic v9.1.1』をご使用になる前に必ずお読みください。

なお、本書を日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

ライセンスおよび商標

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows Server[®]、Hyper-V[®]、Internet Explorer[®]は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Smart-UPS[™]、PowerChute[™]、Share-UPS[™]、APC[™]、APC のロゴは、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標ま たは商標です。

Pentium®は、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat[®]、Red Hat Enterprise Linux は、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

ESMPRO は、日本電気株式会社の登録商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

インストールガイド/リリースノート

PowerChute[™] Business Edition Basic v9.1.1

Schneider Electric IT Corporation - ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェア使用許諾契約書(以下「契約書」)は、「ライセンサー」である Schneider Electric IT Corporation(以下「SE」)およびユ 一ザ(以下「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約であり、本契約書が付属している SE ソフトウェアに関するものです。

「lagree (同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことになります。

* ユーザは、お客様(ユーザが代表となることを許可された法人)の代表としてこれらの条件を承諾する権限を得ている。

* ユーザは、お客様として本契約書の条件に従い個人的に契約する意思がある。

ユーザが代表となることを許可された法人の代表者としてこれらの条件を承諾した場合、ユーザはその法人の代表としてのみ本ソフトウ ェアを使用できます。個人的に契約した場合、本ソフトウェアの使用はユーザ個人での使用に限られます。

ユーザが企業またはその他の法人の代表としてこれらの条件を承諾する権限を得ていない、もしくは個人的に契約する意思がない場合、 SE は本ソフトウェアをライセンスいたしませんので、直ちに、ダウンロード、インストール、ロード、コピーあるいは、他の方法による 本ソフトウェアの使用を中止してください。

本契約書の条件に違反して本ソフトウェアをインストールまたは使用すると、米国著作権法および国際条約に違反することになります。 本ソフトウェアにサードパーティ製ソフトウェアが付属している場合、当該サードパーティ製ソフトウェアは本契約条件の対象外となり ます。当該サードパーティ製ソフトウェアのライセンス契約が、当該ソフトウェアに関するお客様および SE の責任を規定します。しかし、 許容範囲内で、SE は本契約によって本ソフトウェアに付属のソフトウェアのサードパーティライセンサから SE に付与された保証を、お 客様に譲渡します。

1. ライセンスの許可

これにより、SE は本契約書の条件に従って本ソフトウェアの使用に関する非独占的、譲渡不可能なライセンスを許可し、お客様はその ライセンスを受諾することに同意します。ソフトウェアは、SE またはそのサプライヤが所有し、著作権を保有しています。ライセンス はお客様にソフトウェアの所有権または権限を付与するものではなく、本ソフトウェアにおける権利を販売するものでもありません。 SE は、本ソフトウェアおよびすべての修正に関する所有権および権限をすべて保持しています。

2. 使用権

本ソフトウェアは、本契約書の本「使用権」セクション、または関連した送り状に記載された人数のユーザによる使用、または記載された台数のコンピュータ上での使用(あるいはその両方)に関してのみライセンスされます。

お客様は、本ソフトウェアを次のいずれかの方法で使用できます。

* 無停電電源装置、配電ユニット、コンピュータルーム空調装置、環境監視ユニットまたはこれらの類似装置など他の SE 製品の付属品 としてソフトウェアが配布されている場合は、それらのコンピュータに関連する SE 製品が設置されている(それらのコンピュータに 対して SE 製品が電源を供給、冷却、環境管理を行っているなど)、または1台または複数のコンピュータによる SE ハードウェア製品 のリモート管理を可能にするためという条件で、1台または複数のコンピュータに本ソフトウェアをインストールできます。

* 物理サーバ(サーバアプライアンスなど)のプレインストールソフトウェアとして配布されている場合は、本ソフトウェアはそのサ ーバ上で使用され、他のコンピュータからのリモートアクセスが可能です。

* 内蔵ネットワーク管理カードのファームウェアとして配布されている場合は、本ソフトウェアはそのネットワーク管理カード上で使用され、他のコンピュータからのリモートアクセスが可能です。

*本ソフトウェアと共に、追加ソフトウェアが無効な形式で配布され、有効化するために別途ライセンスキーを購入する必要がある場合 もあります。このような追加ソフトウェアは、ライセンスキーを購入しその後追加ソフトウェアを有効化した場合にのみ、本契約の条件に基づく使用ライセンスが与えられます。

3. アップグレード規定

SE はソフトウェアのアップグレード、または製品の別バージョン、もしくはその両方を適宜作成できます。SE の単独裁量権として、 お客様が適切な料金を支払うことによって、このようなアップグレードまたは別バージョンが有効化されるよう選択することができま す。お客様は、本ライセンスの条件に従ってソフトウェアのアップグレードまたは別バージョンを使用することに合意します。

4. 複製権

お客様は、次の目的に限り、本ソフトウェアのコピーを作成できます。

* お客様は、障害からの回復、保管、およびバックアップを目的として、本ソフトウェアのコピーを1部作成できます。

* お客様は、本契約書、または本ソフトウェアに付属のドキュメンテーション(あるいはその両方)の記述に従って、認可および意図 された方法で本ソフトウェアを使用するために必要な場合に限り、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションの追加コピーを作成で きます。

すべてのコピー(保存用コピーを含む)には、SE 著作権表示、およびソフトウェアに付属しているその他の所有権表示が含まれている 必要があり、また本契約書の条件に完全に従っている必要があります。

お客様は、本ソフトウェアを再配布してはならず、また再配布の目的でコピーを作成してはなりません。

5. 制限事項

お客様は、次のことを行ってはなりません。

* 逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、またはその他の方法による本ソフトウェアから、または本ソフトウェア を介してアクセス可能な SE の独自開発プロトコルからのソースコードの抽出または生成の試み。

* 本ソフトウェアまたはそのあらゆる部分の派生品の作成。

* 文書による SE の事前承諾なしに、本ソフトウェアに実行したベンチマークテスト結果のサードパーティへの発行または提供。

* 貸与、リース、先取特権の付与、またはその他の方法による本ソフトウェアに対する権利の譲渡または移行。また、文書に明記された SE の承諾なしに、本ソフトウェア内の商標、ロゴ、著作権等の所有権表示、銘板、シンボル、またはラベルの除去または改変。

*本ソフトウェアの商用共同使用、外注環境、レンタル業務またはサービス機関への使用、またはアプリケーションサービスプロバイダとしての使用。

* ユーザの組織外部への委託販売、サブライセンス、リース、アクセスまたは配布を目的とする製品またはサービスの構成要素または 基礎として、本ソフトウェアの部分を使用。

* SE 以外の、PowerChute を使用する無停電電源装置の監視。

6. 差し止めによる救済

必要に応じて、SEは、一時的または予備的な(あるいはその両方)差し止めによる救済を要求および受領することで、管轄裁判所によって本ライセンスを明示的に強制する権利および補償を有するものとします。

7. 本契約の期間および終了

本ライセンスは、お客様が本契約に従って本ソフトウェアを使用し、適用されるライセンス料を支払う限り継続するものとします。お 客様が義務のいずれかに違反した場合、本ライセンスは終了するものとし、SEによる通告および要求に応じて、お客様は本ソフトウェ アのコピーすべてと、本ソフトウェア用に提供された、または本ソフトウェアに付属していた資料すべてを破棄または返却することに 同意するものとします。お客様は、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションのコピーすべてを SE に返却することによって、本契 約を終了できます。

8. 限定保証

本ソフトウェアに対する SE 限定保証は、お客様が本ソフトウェアを受け取った時点から 90 日間適用されます。SE は、限定保証期間 中に、本ソフトウェアがオンラインヘルプを含む付属のソフトウェアユーザドキュメンテーションに記載されているとおりに機能する こと、および通常の適切かつ意図された使用条件では、本ソフトウェアが収録されている媒体の材料および品質に欠陥がないことを保 証します。

本保証は、次の場合には適用されません。

* 本ソフトウェアが、ドキュメンテーションに指定されたもの以外のマシン、または指定されたバージョン以外のオペレーティングシ ステム上で使用された場合(たとえば、サポートされていない構成)。

* 本ソフトウェアが、誤用、過失、事故、またはドキュメンテーションに指定された条件を超える環境条件にさらされたことにより、 損傷を受けた場合。

* SE が提供する修正プログラムの一部を適用していないバージョンのソフトウェアを使用した場合。

* 本ソフトウェアがお客様により改造された場合。

SEは、本ソフトウェアが中断またはエラーなしに使用できること、プログラムエラーが修正されること、本ソフトウェアがウィルスまたはマルウェアの影響を受けないこと、本ソフトウェアが特定のハードウェアまたはソフトウェアプラットフォームと互換性があること、または本ソフトウェアがお客様の要求に適合することを保証しません。

本保証において SE が負う義務、およびお客様が受けられる補償は、SE の判断に基づく、ソフトウェア全体または一部の修理または交換、または支払われたライセンス料金の払い戻しのみです。本限定保証は、SE が 90 日の保証期間中に書面による通告を受け取った場合にのみ有効です。

9. 責任制限

本契約書のセクション8「限定保証」に明示的に規定されたものを除き、以下の制限があります。(i) SE は本ソフトウェアに関し、お 客様または第三者に対して、過失に関する義務を含むいかなる義務も負いません。(ii) 明示的なもの、暗黙的なもの、法律上のもの、 本契約書のその他の規定にあるもの、もしくはその他の連絡手段にあるものを問わず、SE は一切の保証を行わず、お客様は一切の保証 を受けません。(iii) SE は、商品性、特定目的に対する適合性、権限、特許権無侵害を含む、いかなる保証も行いません。

ソフトウェアによる結果および動作に関するすべての危険性の責任は、お客様が負います。さらに、SE は本ソフトウェアの使用または 使用の結果、または関連文書の正確さ、精密さ、品質、信頼性、アプリケーションの特定機能の妥当性、最新性に関する保証または抗 議を行いません。

SEは、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用または使用不能から生起する、またはそれに関連する派生的損害、間接的損害、 特別損害、複合損害、または付随的損害に関して、お客様または他の当事者からの請求に対して一切責任を負わないものとします。た とえ SE がかかる損害の可能性に関して知らされていた場合でも同様です。特に SE は、利益の損失、設備の損傷、設備の使用不能によ る損失、ソフトウェアの喪失、データ喪失、代替費用、第三者の主張など、いかなる損害に対しても責任がないことをここに明言しま す。

国または地域によっては、暗黙的保証の除外、または付随的あるいは派生的な損害の制限が許可されていないため、前述の制限または 除外が適用されない場合があります。ただし、該当する法律によって許可されたすべての範囲で、法律上必須の保証(存在する場合) の有効期間は、90 日の保証期間に制限されます。

SE のディーラ、代理店、従業員、お客様は、本限定保証を変更、拡張、追加することを許可されていません。本ソフトウェアに関連した請求に対する、お客様への SE の累積負担は、お客様が本ソフトウェアに対して SE に支払ったライセンス料金すべての合計額を超えないものとし、また別途ライセンス料金が不要であった場合は、ソフトウェアの交換を超えないものとします。

10. 危険な状況、リスクの高い状況、または人命に関わる状況における無保証

本ソフトウェアはフォールトトレラントではなく、安全の保証された動作を必要とする危険な環境(ソフトウェアの障害が、死亡、け が、または重大な物理的損害、環境汚染に直接つながる原子力施設、航空機のナビゲーションシステムまたは通信システム、航空交通 管制、直接生命維持装置、兵器システム等の操作)での制御機器として使用または再販売するために設計または製造されておらず、そ のような目的のものではありません。したがって、SE およびそのサプライヤは、このような危険な活動、リスクの高い活動、または人 命に関わる活動に対する明示または暗黙の適合性の保証を一切行いません。

11. カスタマサポートに関連した技術情報の使用

お客様は、技術/カスタマサポートサービスを受けている間にお客様が提供した技術情報を、SE が使用することに同意するものとしま す。SEは、かかる情報を自社の業務上の目的(製品のサポートや開発等)に利用できますが、お客様の身元が分かるような形態でかか る情報を使用しないことに同意します。

12. 譲渡に関する制限

本契約書、本契約書のもとで許可されるライセンス、本ソフトウェア、および本ソフトウェアに対するすべての修正は、事前の書面に よる SE の承諾がなければ、譲り受けることも、いかなる方法で譲渡することもできません。

13. 契約書の言語および地域

本契約書の原典は英語で書かれています。本書の関係者は、別の法律または裁判所を規定する可能性のある規則、法律、または規制の 適用、または英語以外で書かれた本契約書を所持することを要求しないものとします。本契約書を英語以外の言語に翻訳したものは、 お客様の便宜のみを目的として提供されるものであり、本契約書の法的拘束力を持つ版ではありません。

本契約書の条件は、米国マサチューセッツ州の法律に準拠して解釈され、当州の法の抵触に関する原則、または法律の選択には効力を 及ぼしません。SE とお客様は、物品の国際売買契約に関する国連協定 (United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods)を本契約書に適用しないものとします。

14. 米国政府の制限された権利の説明

本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは、「商業用品目」(48 C.F.R. 2.101 (1995 年 10 月) で定義されている用語に従う) であ り、「商業用コンピュータソフトウェア」および「商業用コンピュータソフトウェアドキュメンテーション」(48 C.F.R. 227.7202-1、 227.7202-3、および 227.7202-4 (1995 年 6 月) で使用されている用語に従う) で構成されます。お客様が米国政府、またはその機関 または省である場合、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは商業用品目としてのみライセンスされ、本契約書の条件に準ずる 他のすべてのエンドユーザに対して許可される権利だけが与えられます。ライセンサーは、Schneider Electric IT Corporation, P.O.Box 278, 132 Fairgrounds Rd., West Kingston, RI 02892, U.S.A.です。

15. 輸出規制

本ソフトウェア、またはその基礎となる情報または技術は、次のいずれに対しても、ダウンロード等の方法により再輸出することはできません。

* 米国が通商禁止品目を指定している対象国(あるいは国民または在住者)

* 米国財務省の特別指定国民(Specially Designated Nationals)リストに記載されている者

* 米国商務省の発注拒絶表(Table of Denial Orders)に記載されている者

本ソフトウェアのダウンロードまたは使用により、お客様は前述のことに同意したものとし、お客様がかかる国に所在しないこと、か かる国の管理下にないこと、かかる国の国民または在住者でないこと、かかるリストに記載されていないことを保証するものとします。 お客様は、本ソフトウェアの輸出入または使用に影響する可能性のある、地域の法律を遵守する義務があり、本ライセンスを実施可能 にするために当該法律が要求する規制や登録手順を遵守していることを意思表示したものとします。

16. 免責

お客様は、お客様による本ソフトウェアの使用から生起した、またはそれに関連するあらゆる請求、行動、訴訟、責任、損失、損害、 費用または支出(裁判費用を含むがこれに限らない)に対して、SE およびその取締役、役員、代理人、従業員、会員、子会社および支 社がその責任を負うことがないよう弁護、免責および保護するものとします。





目 次

1	PowerChute Business Edition 製品の内容	11
2	ハードウェア要件	12
3	ソフトウェア要件	16
4	PowerChute Business Edition 概要	17
4.1	はじめに	
4.2	2 PowerChute Business Edition のコンポーネント	
4.3	3 サーバノード数の制限	
4.4	シーン・シーン システム構成例とインストールコンポーネント	20
	4.4.1 UPS を接続した管理対象サーバが 25 台以下の場合	20
	4 4 2 UPS を接続した管理対象サーバが 26 台以上の場合	23
5	PowerChute Business Edition インストール (Windows 版)	25
5 1	PowerChute Business Edition エージェントのインストール	20
0.1	「 「 」 」 CD パネル付き Smart UPS の提合	21
	5.1.2 LCDパネルなL Smart UPS の場合	2/ 30
Б 0	し、1.2 LOD バイジジネ Contait-OT O ジョー	
5.2	と FowerChule Business Educit リーハのインストール	
	5.2.1 リー $M_1 / N_1 /$	
- 0	5.2.2 設定ノロノアイル変更時のエノーのよびスナーダスグッセーシ	40
5.3	BewerChute Business Edition コンソールのインストール	
6	PowerChute Business Edition インストール(Linux 版)	
6.1	」 対象サーハで直接インストール作業を行う場合	
6.2	2 VMware vSphere 5 /6 境境へのインストール	
6.3	3 Ielnet を使用してリモートサーバからインストールする場合	
7	PowerChute Business Edition アンインストール	50
7.1	Windowsの場合	
	7.1.1 Windows の場合(エージェント、サーバ、コンソール共通)	50
	7.1.2 Server Core 環境の場合	50
7.2	2 Linux の場合	51
	7.2.1 対象サーバで直接アンインストール作業を行う場合	51
	7.2.2 VMware vSphere 5/6 環境でアンインストール作業を行う場合	51
	7.2.3 Telnet を使用してリモートサーバからアンインストールする場合(Linux の場合)	51
8	コンソールの操作	52
8.1	リー・サーバへの接続	52
8.2	2 エージェントの登録	52
8.3	3 エージェントの削除	57
8.4	1 サーバが自動検出されない場合の対処方法	58
8.5	5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ	60
9	WebUI での操作	64
9.1	ニージェントへの接続	65
9.2	2 エージェントの設定	65
9.3	3 イベントアクションの設定	68
9.4	ト セルフテスト診断スケジュールの設定	72
10	初期セットアップ(LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合のみ)	73
10	.1 コンセントの設定	74
10	.2 シャットダウンの設定	76
10	.3 コンセントシーケンス	77
10	.4 スケジュールされたシャットダウン	78
11	シャットダウンプロセスについて	79
11	.1 シャットダウンシーケンスの設定	
-	11.1.1 LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合	
	11.1.2 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合(コントロールコンセントグループの	つみを有する
1	機種) 84	

1 1.1.3 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合(メインコンセントグループを有する機種)	89
11.2 シャットダウンタイプの設定(Windows サーバのみ)	94
11.2.1 「シャットダウン」を選択した場合	94
11.2.2 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合	95
11.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス	95
11.4 電源障害時のシャットダウンプロセス	96
11.4.1 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)	96
11.4.2 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタイム重視」の場合)	97
11.4.3 電源障害の設定	101
12 スケジュールシャットダウンの設定	103
12.1 LCD パネルなし Smart-UPS の場合	103
1 2.2 LCD パネル付き Smart-UPS の場合	
13 コンセント管理	110
14 負荷制限機能	112
15 UPS との通信設定について	113
151 シグナリングタイプの変更	114
- 0.1 - アファッティンシス 1511 スマートシグナリングからシンプルシグナリングへの変更	115
1519 、 シンプルシグナリングからスマートシグナリングへの変更	110
15.2 通信ポートの変更	122
16 コーザタ パスワードの変更	125
161 コーザタ パフロードの変更	125
162	120
10.2 ΨΕΝΟ/J/Δ	120
171 / アンス、コンビューテロの友史	107
「 / . 」 F / F レベを多史り ③ 場口	121
17.2 コンレユージロど変更りの場面	120
「 /.3	129
10 (第9 Lの間照片に注意する)	101
19 連用上の问題品と注思事項	400
	133
	133
19.1.2 エーシェントインストール時に「OpenService failed」というエフーメッセーンが表示される	7.134
19.1.3 OS イベンドビューア:アノリケーションに「ソース: crypt32 ID:8/エラー」か記録される	5 134
19.1.4 OS アッフクレートおよび Service Pack 適用	134
19.1.5 PowerChute Business Edition アンインストール時の UPS 通信ケーフルの取り外し	134
19.1.6 PowerChute Business Edition エージェントのバージョンについて	134
19.2 UPS とサーバ間の通信問題関連	135
19.2.1 セットアッププログラムが UPS を自動検出できない	135
19.2.2 PowerChute Business Editionの状態が「通信なし」「通信切断」となる場合	135
19.2.3 DNS サーバが見つからない場合のネットワーク通信上の問題	136
19.3 スケジュール運転関連	137
19.3.1 OSのスタンバイ機能作動により設定したスケジュールシャットダウンの時間がずれる問題.	137
19.3.2 PowerChute Business Edition のスケジュール機能を使用する際の注意	137
19.3.3 ランタイム較正を実行中にスケジュールシャットダウンを行っても UPS がオフされない	137
19.3.4 スケジュールシャットダウンにおける最大スリープ時間について	137
19.3.5 「スケジュールされたシャットダウン」の設定について	137
19.3.6 スケジュールシャットダウン開始時刻前のエージェントサービス起動によりコマンドファイ	イルが
実行されない問題	137
19.3.7 N8142-33 Smart-UPS にてスケジュールによる自動起動が行われない現象について	138
19.4 WebUI、デバイスのプロパティ関連	139
19.4.1 [エネルギー使用量]画面を表示する際に発生する現象について	139
19.4.2 WebUIの「連絡先の名前」「システムの場所」に入力可能な文字について	141
1943 最終バッテリ交換日に設定可能な日付	141

19.4.4	WebUI のタイムアウト時間について	. 141
19.4.5	WebUIからスレーブサーバのコマンドファイル設定を「なし」に変更した場合の注意事項	. 141
19.4.6	負荷制限機能の画面について	. 141
19.4.7	[診断]画面のステータス表示について	. 142
19.4.8	UPS LCD の読み取り専用設定	. 142
19.4.9	「デバイスのプロパティ」で表示される UPS の情報欄について	. 142
19.5 Linux	OS 関連	143
19.5.1	Linux 環境へのインストールについて	. 143
19.5.2	RedHat Enterprise Linux 5.x 環境ヘインストールする場合の注意	. 143
19.5.3	RedHat Enterprise Linux 6.x (x64)環境ヘインストールする場合の注意	. 144
19.5.4	RedHat Enterprise Linux 7.x 環境ヘインストールする場合の注意	. 144
19.5.5	Linux 環境で使用する際の注意	. 146
19.5.6	Red Hat Enterprise Linux 5.x、Red Hat Enterprise Linux 6.x 環境で使用する際の注意事項	. 146
19.6 UPSS	leep 仕様関連	147
19.6.1	UPSSleep実行の際に引数として指定可能な最小の次回起動時間	. 147
19.6.2	UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間	. 147
19.6.3	UPSSleepの引数に指定した次回起動時間と実際の起動時間	. 147
19.7 シャッ	トダウンシーケンス、雷源障害時の動作関連	
19.7.1	OSのシャットダウン期間について	. 148
1972	「雷源障害時のシャットダウン開始」の設定値について	148
1973	スレーブサーバのイベントログへ「ランタイム不足が検出されました」と記録される現象	148
1974	雷源暗害(停雷など)によるシャットダウン後 サーバ装置本体の仕様によりサーバが UPS に	: 140
「て記動」が		149
	* 、	150
19.0 010	FYFILTNの理論によるシャットダウン動作について	150
1982	$\Box = 3$	150
19.8.2	コープンティムになるシャットアプシンコービスについて	150
	アイフコンピンドアル・アピコンドロールコンピンドアル・フを休住すの吸信の工态争項 Chute Business Edition サーバ・コンソール関連	150
19.9 1000	PowerChute Business Edition サーバ コンソールの必要性について	150
19.9.1	TowerChalle Dusiness Educity ハ、コンフ $\pi 000$ 安田に $\pi 0.00$ で	151
19.9.2	同じエージェントを複数のコンソールがら同時アノビベビル物目の「主日	. 151
19.9.3	「ロバーノョンのFOWel Chute Dusiness Edition コンノールから V9.1.1 9 - / べの接触に ジャ C	151
1010Zの世	「IDCFOWEICHULE Dusiness Edition リーバマロ時ロノイノCCの収度数	150
10101	3 フタンバイエー ビズ Λαορτ が一時的に休田できたい	152
19.10.1		152
19.10.2	SNVIP リーレス	152
19.10.3	PowerChule Business Edition の削出に いい C	. 152
19.10.4	PowerChule Business Edition の E-Mail 受信有に使用できる文子について	. 152
19.10.5	エクス小一下の区切り又子についての制限事項	. 152
19.10.6	サービスにて表示されるハス情報について	. 152
19.10.7		. 152
19.10.8	設定ノロノアイルの週用時に初期化される項目について	. 152
19.10.9	Windows ファイアワオール機能を有効にして使用する場合の注意事項	. 153
19.10.1	0 リスクアセスメントの警告表示について	. 156
19.10.1	1 UPS 診断テストが実行できない	. 156
19.10.1	2 デバイス情報フレームの表示切れについて	. 157
19.10.1	3 仮想化環境での使用について	. 157
10101		
19.10.1	4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意.	. 158
19.10.1	 4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意. 5 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて 	. 158 . 159
19.10.1 19.10.1 19.10.1	 4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意. 5 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて	. 158 . 159 . 159
19.10.1 19.10.1 19.10.1 19.10.1	 4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意. 5 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて 6 PowerChute Business Edition のサービスの起動に失敗する 7 一部機種で自動セルフテストが実行されなくなるについて 	. 158 . 159 . 159 . 159 . 160
19.10.1 19.10.1 19.10.1 19.10.1 20 障害発生時	 4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意. 5 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて 6 PowerChute Business Edition のサービスの起動に失敗する 7 一部機種で自動セルフテストが実行されなくなるについて	. 158 . 159 . 159 . 160 . 161
19.10.1 19.10.1 19.10.1 19.10.1 20 障害発生時 20.1 Windo	 4 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意. 5 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて 6 PowerChute Business Edition のサービスの起動に失敗する 7 一部機種で自動セルフテストが実行されなくなるについての資料採取方法	. 158 . 159 . 159 . 160 . 161 161

20.1.1	PowerChute Business Edition のログ	161
20.1.2	OS のイベントログの採取	162
20.1.3	システム情報ファイル	163
20.1.4	Collect ログの採取	163
20.1.5	確認事項	164
20.2 Linux	環境	173
20.2.1	PowerChute Business Edition のログ	173
20.2.2	シスログの採取	174
20.2.3	確認事項	174
20.2.4	Collect ログの採取	174
20.3 VMwa	are 環境	175
20.3.1	PowerChute Business Edition のログ	175
20.3.2	シスログの採取	175
20.3.3	確認事項	176
20.4 障害調	1111111111111111111111111111111111111	
2 1 UPS 交換後	後の設定	180
21.1 同一型	型番の UPS に交換する場合(LCD パネルなし Smart-UPS)	180
21.2 同一型	』 番の UPS に交換する場合(LCD パネル付き Smart-UPS)	181
21.3 異なる	5型番の UPS に交換する場合	183
21.4 UPS (の各種設定項目の確認および設定方法	183

1 PowerChute Business Edition 製品の内容

PowerChute Business Edition の製品内容は、同梱されている「構成品表」に記載されています。 添付品が全てそろっているかどうか、確認してください。

- 注意: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 CD-ROM 媒体内の、Windows¥Bin(フォルダ)直下の relnotes_jp.chm (relnotes.chm) および getstart_jp.chm (getstart.chm) は、本製品のインストールガイ ド/リリースノート (本書) とは製品条件および使用時の注意等、一部内容が異なりますので参照しないで ください。
- ※ユーザーズガイド:HTML 形式のオンラインヘルプ(コンパイル済み HTML ファイル)が用意されています。HTML 形式のオンラインヘルプを参照するには、以下のいずれかの方法にて参照してください。
- ・ PowerChute Business Edition の各 GUI 上の [ヘルプ] ボタンをクリックする。
- ・ PowerChute Business Edition コンソール画面の [ヘルプ] → [目次] および [現トピックのヘルプ] を選択する。
- ・ $[スタート] \rightarrow [プログラム] \rightarrow [APC PowerChute Business Edition] \rightarrow [コンソールのヘルプ] を選択する。$

2 ハードウェア要件

本製品を使用するには以下の環境が必要です。

① PowerChute Business Edition エージェントの要件

要件	最小	
プロセッサ	Pentium 4	1.3GHz
RAM	256 MB	

② PowerChute Business Edition サーバの要件

要件	最小	
プロセッサ	Pentium 4	1.3GHz
RAM	512 MB	

③ PowerChute Business Edition コンソールの要件

要件	最小
プロセッサ	Pentium 4 1.3GHz
RAM	256 MB
解像度	1024 × 768
表示色数	16 ビットカラー
DP 設定	96 dpi

- ※ PowerChute Business Edition サーバコンポーネントに含まれる「デバイスリストウィザード」、「設定プロファ イルウィザード」についても上記要件を満たす必要があります。
- ※ PowerChute Business Edition コンソールをインストールマシンには、PowerChute Business Edition でサポートしているブラウザ(Internet Explorer)がインストールされている必要があります。 PowerChute Business Edition でサポートしている Internet Explorer は IE8、IE9、IE10 および IE11 です。

<u>空きディスク容量</u>

- ・エージェント: Windows版 479.5MB以上 (うちJRE409.2MB)
 - Linux版 526.2MB以上 (うちJRE462MB)
- ・サーバ : 476.9MB以上 (うちJRE409.2MB)
- ・コンソール : 47.6MB以上

本体装置

Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズ

<u>BIOS の設定</u>

■シリアルポート(COM ポート)の設定

BIOS の設定で保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを、UPS 用に使用した場合に UPS が誤作動 することがあるため、保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを UPS 用として使用しないでください。

また、同様にUPS に使用している COM ポートを保守コンソール用として割り当てないでください。

注意:使用しているサーバ装置によっては、使用可能なシリアルポートが限定されている場合があります。使用しているサーバ装置のユーザーズガイドを参照し、使用可能なシリアルポートを確認してください。

■iLO 機能ある機種の設定

下記 iLO 機能あるサーバにおいて、 Express5800/R120h-1E Express5800/R120h-2E Express5800/R120h-1M Express5800/R120h-2M Express5800/T120h UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を「**Disabled**」にしてください。 1. System Utilities(F9) > System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port

2. System Utilities(F9) > System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status

■AC-LINK の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK(AC 連動モード)を「Power ON」 (サーバ機種により「Always Power On」の場合があります)にしていただく必要があります。BIOS の設定方法 については、サーバにより異なります。サーバ装置のユーザーズガイドを参照してください。

「Power ON」相当の設定の可否により、提供できる機能が異なります。

注意: AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure 」あるいは「Automatic Power-On」と記載されている場合があります。

	電源障害(停電など)発生による安全なシャットダウンはできますが、電源障害回復後のサー バ自動起動はできません。
設定不可	また、スケジュールによるサーバの自動シャットダウンはできますが、スケジュールによるサーバの自動記動はできません。
	電源障害(停電など)シャットタワン後の電源障害回復によるサーハの自動起動、およびスケ
	ジュールによるサーバの自動シャットダウン/自動起動運転ができます。
設定可能	電源障害(停電など)シャットダウン後の電源障害回復によるサーバの自動起動、あるいはス
	ケジュールによるサーバの自動起動を行われる場合は、「Power ON」に設定してください。
	注意 : サーバによっては工場出荷時に「Last State」と設定されているものがありますので、
	運用前にサーバ装置の BIOS 設定を確認することを強くお奨めします。

TCP/IP通信の確立

PowerChute Business Edition では各コンポーネント間(エージェント、サーバ、コンソール)の通信に TCP/IP による ネットワーク通信を使用しており、TCP/IP によるネットワーク接続が必要です。

ネットワークカードが「有効」となっていることや、IP アドレスが設定されていることなどをご確認ください。

無停電電源装置

- ーN 型番で販売されている NEC 製 Smart-UPS(ただし、下記3機種は旧世代機のため、サポート対象外です。)
 - N8580-01 (Smart-UPS 600J)
 - N8580-02 (Smart-UPS 900J)
 - N8580-09 (Smart-UPS 1250J)

N 型番の付かない UPS での本製品の使用は、<u>サポート対象外</u>になります。

-冗長無停電電源装置(N8142-17/17A/17B)はサポート対象外になります。

※使用上のご注意をはじめ、UPS を使用する上で必要な情報が記載されていますので、UPS に添付の取扱説明書 も併せてご参照ください。

接続ケーブル

PowerChute Business Edition エージェントは、UPS との通信ケーブルを介して UPS との通信を行います。UPS との通信ケーブルは、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバと UPS 間に接続されます。使用するケーブルは次の表を参照してください。

UPS 関連装置		接続するケーブル の型番	補足
		(UPS に添付)	シリアルケーブル(940-0625A)
LCD パネル付き Smart-UPS		K410-283(4A)	シリアルケーブル (940-1525A)
		K410-248(1A)	USB ケーブル
UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)		(UPS インタフェー	シリアルケーブル (940-0020E)
		ス拡張ボードに添付)	※スレーブサーバマシンに使用
LCD パネルなし Smart-UPS		K410-313(1A)	シリアルケーブル(940-0024 E)
		N0500.04	シリアルケーブル(940-0020E)
UPS インタフェース拡張ボード(N8180-14 A)		N8580-04	※スレーブサーバマシンに使用
マルチサーバ接続 BOX(Share	Advanced Port に接	K410-313(1A)	シリアルケーブル(940-0024 F)
	続		
(N8180-/14)	Basic Port に接続		シリアルケーブル(940-0020E)
		10000-04	※スレーブサーバマシンに使用

注意事項 : USB ケーブル接続について

USB インタフェースはLCD パネル付き Smart-UPS を使用した環境において、

・ Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 / Windows 8.1 でのみ使用できます。

1 つの UPS にシリアルケーブルと USB ケーブルを同時に接続することはできません。択一です。

注意事項: UPS アクセサリについて

PowerChute Business Edition を使用する場合は、SNMP カードは使用できません。UPS には実装しないでください。

また、LCD パネル付き Smart-UPS と LCD パネル無し Smart-UPS では、利用できる UPS アクセサリが異なり ますのでご注意ください。

LCD パネル付き Smart-UPS: UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)

LCD パネルなし Smart-UPS: マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)、UPS インタフェース拡張ボード(N8180-14A)

注意事項: LCD パネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用する場合

・2015 年 7 月時点で、UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を接続してマルチサーバ構成を利用できる UPS および、そのファームウェアバージョンは以下の通りとなっております。LCD パネル付き Smart-UPS の ファームウェアバージョンの確認方法については、ご使用の UPS 装置に添付のマニュアルを参照してください。

N8142-33/-100 (fw9.8 以上) N8142-41/-101 (fw9.3 以上) N8142-42/-102 (fw9.3 以上) N8180-64/-66/-67/-68x/-69 (fw9.3 以上)

・LCD パネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成とす る場合には、マスターサーバマシンと同じコントロールコンセントグループに、スレーブサーバマシンの電源 <u>を接続</u>してください。

・マスタサーバの通信ケーブルは対応しているシリアルケーブルを使用してください。

3 ソフトウェア要件

本製品の対応OSについては、下記サイトで確認してください。

http://jpn.nec.com/esmpro_um/

- →動作環境
 - →対応OS一覧

PowerChute Business Edition

- PowerChute Business Editionでは、TCP/IPによるネットワーク接続されていることが必要です。
 詳細は、「2 ハードウェア要件」-「TCP/IP通信の確立」を参照してください。
- - 旧バージョンのPowerChute Business Editionが既にインストールされている場合は、旧バージョンのPowerChute
 Business Editionをアンインストールした後、本バージョンのPowerChute Business Editionをインストールしてく
 ださい。

4 PowerChute Business Edition 概要

4.1 はじめに

PowerChute Business Edition ソフトウェアは、図のように PowerChute Business Edition エージェント、PowerChute Business Edition サーバ、および PowerChute Business Edition コンソールの3種類の独立したコンポーネントから 成り立っています。各サーバにインストールされるコンポーネントの組み合わせは、特に制限がありません。例え ば、1つのサーバに全てのコンポーネントをインストールすることも可能です。



これらのコンポーネントの詳細については「4.2 PowerChute Business Edition のコンポーネント」を参照してく ださい。各コンポーネントのインストールの概要は、Windows OS にインストールする場合は「5 PowerChute Business Edition インストール (Windows 版)」を、Linux / VMware OS にインストールする場合は「6 PowerChute Business Edition インストール (Linux 版)」を参照してください。

4.2 PowerChute Business Edition のコンポーネント

 PowerChute Business Edition エージェント UPS ステータス監視機能、および長時間の停電時に UPS が保護するコンピュータのシステムシャットダウン 機能を提供しています。 このソフトウェアは、UPS に直接接続されている各サーバ上にインストールする必 要があります。

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために、PowerChute Business Edition サーバ および PowerChute Business Edition コンソールが必要となります。

PowerChute Business Edition サーバ
 PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために用いられます。PowerChute Business
 Edition サーバは PowerChute Business Edition エージェントから情報を収集して、イベントの追跡や通知、
 PowerChute Business Edition コンソールと通信を行います。

1 台の PowerChute Business Edition サーバで管理できる PowerChute Business Edition エージェントの最大数 は 25 台です。25 台を超える PowerChute Business Edition エージェントを管理する場合には、PowerChute Business Edition サーバは2 台以上必要となります。

- PowerChute Business Edition コンソール
 PowerChute Business Edition サーバに接続して、UPS で保護されているシステムの管理と設定を行います。
 同じ PowerChute Business Edition サーバへ同時にログインできる PowerChute Business Edition コンソールは 5 台です。
 - ※ LCD パネルなし Smart-UPS を使用した環境にて、PowerChute Business Edition で自動運転を行う場合、ス ケジュールシャットダウンの設定は PowerChute Business Edition コンソールでのみ行うことができます。

4.3 サーバノード数の制限

ネットワーク上にインストールできる PowerChute Business Edition エージェント、PowerChute Business Edition サ ーバ、および PowerChute Business Edition コンソールの数に制限はありません。しかし、1 台の PowerChute Business Edition サーバで管理できる PowerChute Business Edition エージェントの最大数は 25 台までです。25 台を超える PowerChute Business Edition エージェントを管理する場合には、PowerChute Business Edition サーバは2 台以上必 要となります。

以下に構成図の一例を示します。なお、図中の「エージェント」、「サーバ」、「コンソール」という表現はそれぞれ 「PowerChute Business Edition エージェント」、「PowerChute Business Edition サーバ」、「PowerChute Business Edition コンソール」を指していますので注意してください。

<エージェントの台数が25台以下の場合>







※この図は、PowerChute Business Edition エージェントが 26 台~50 台の場合を例としています。PowerChute Business Edition サーバは、PowerChute Business Edition エージェント 25 台毎に最低 1 台は用意する必要があり ます。

4.4 システム構成例とインストールコンポーネント

4.4.1 UPS を接続した管理対象サーバが 25 台以下の場合

UPS を接続した管理対象となるサーバマシンの管理をどこから行うかによって、インストール方法は以下の選択肢 があります。各マシンの OS がサポート対象の Windows であれば(1),(2)のいずれの構成も可能です。ただし、リモ ートデスクトップ接続を使用してサーバを管理する場合は(2)の構成となります。UPS を接続したサーバマシンが、 Server Core 環境、Linux および VMware 環境の場合には、(3)の構成となります。

シグナリングタイプの設定は、「5.1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール の 5.1.2 LCD パネルなし Smart-UPS の場合 の ⑥項」を参照してください。

- (1) UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成
- (2) リモートデスクトップ接続で管理する構成
- (3) UPS に接続するサーバをリモートのマネージャマシンから管理する構成

(1) UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成

サーバ OS が Windows であれば、サーバ本体に全コンポーネントをインストールして UPS の制御/管理を行うことが可能です。

サーバ	インストールするコンポーネント	備考
サーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	UPS との通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア
	ト PowerChute Business Edition サーバ	要件」の "接続ケーブル" を参照してください。
	PowerChute Business Edition コンソール	

LAN



(2) リモートデスクトップ接続で管理する構成

iStorage NS シリーズなど、リモートデスクトップ接続にてサーバ管理を行うようなシステムの場合、サーバマシン にすべてのコンポーネントをインストールし、管理マシンから「リモートデスクトップ接続」を使用して接続するこ とで管理できます。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
サーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	UPS との通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア要
	۲	件」の "接続ケーブル" を参照してください。
	PowerChute Business Edition サーバ	
	PowerChute Business Edition コンソール	
管理マシン	なし	



(3) UPS に接続するサーバをリモートのマネージャマシンから管理する構成

管理対象となる UPS を接続したサーバマシンの台数が 25 台以下であるシステムにおいて、マネージャマシンで各 サーバを管理する場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをイ ンストールしてください。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシンA	PowerChute Business Edition エージェン	UPS との通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア要
	۲	件」の "接続ケーブル" を参照してください。
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲ ۲	
マスタサーバマシンB	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
マネージャマシン	PowerChute Business Edition サーバ ※	
	PowerChute Business Edition コンソール	

マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、必ず 『マスタサーバ』としてセットアップしてください。

※2台以上のマネージャマシンで運用する場合、1台のマネージャマシンのみに PowerChute Business Edition サー バをインストールしてください。



4.4.2 UPS を接続した管理対象サーバが 26 台以上の場合

サーバの台数が26台以上の環境において、PowerChute Business Edition を使用したサーバの電源制御を行う場合には構成上の注意が必要です。

管理対象となる UPS を接続したサーバマシンの台数 25 台(以内)毎に、PowerChute Business Edition サーバを インストールしたマシンが1台ずつ必要となります。

PowerChute Business Edition の各コンポーネントのシステム構成は、特に PowerChute Business Edition サーバを どのマシンにインストールするかの観点で、以下の2パターンから選択可能です。

- (1) 複数台のマネージャマシンで管理する構成
- (2) 一台のマネージャマシンで管理する構成

(1) 複数台のマネージャマシンで管理する構成

- PowerChute Business Edition サーバの必要台数分について、マネージャマシン上に、PowerChute Business Edition コンソールと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。
- PowerChute Business Edition サーバをインストールしたマネージャマシンのそれぞれが25 台以内のエージェントを管理します。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシンA	PowerChute Business Edition エージェン	UPS との通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア
	۲	要件」の "接続ケーブル" を参照してください。
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
マスタサーバマシンB	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
マネージャマシン	PowerChute Business Edition サーバ	
	PowerChute Business Edition コンソール	

マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、各サーバは『マスタサーバ』としてセットアップしてください。



- (2) 一台のマネージャマシンで管理する構成
- 一台のマネージャマシン上に、PowerChute Business Edition コンソールと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。このマネージャマシン(PowerChute Business Edition サーバ)で、25 台のエー ジェントを管理します。
- 残りの PowerChute Business Edition サーバの必要台数分は、UPS を接続した Windows サーバマシン上に、 PowerChute Business Edition エージェントと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。 (図中の管理サーバ)

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシンA	PowerChute Business Edition エージェン	UPSとの通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア
	۲	要件」の "接続ケーブル" を参照してください。
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
マスタサーバマシンB	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
管理サーバマシン	PowerChute Business Edition エージェン	
	۲	
	PowerChute Business Edition サーバ	
マネージャマシン	PowerChute Business Edition サーバ	
	PowerChute Business Edition コンソール	

マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、各 サーバは『マスタサーバ』としてセットアップしてください。

PowerChute Business Edition サーバは Windows 版のみ提供されているため、管理サーバには Windows サーバを 使用してください。



インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

5 PowerChute Business Edition インストール(Windows 版)

- ※ すべてのインストール作業は administrators 権限を持つユーザで実施してください。
- ※ PowerChute Business Edition では、TCP/IP によるネットワーク接続されていることが必要です。
- <u>詳細は、「2 ハードウェア要件」-「TCP/IP 通信の確立」を参照してください。</u>
- ※ PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていない環境ではサーバと UPS をシリアル ケーブルで接続しないでください。これは、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされ ていない場合に、サーバと UPS がシリアルケーブルで接続されていると、接続された UPS がシリアルマウス と誤認識され、UPS と通信することができなくなることがあるためです。
- ※ サーバ機種によっては、使用可能なシリアルポートが限られている場合があります。 使用されるサーバ機種にて使用可能なシリアルポートを確認し、PowerChute Business Edition で使用するシ リアルポートとして設定してください。
- ※ <u>サーバと UPS の通信ケーブルは、CD-ROM 媒体を挿入後(PowerChute Business Edition エージェントのインストール前)に接続してください。</u>

<u>使用するケーブルの詳細は、「2 ハードウェア要件」-「接続ケーブル」を参照してください。</u>

- ※ iStorage NS シリーズ以外のサーバでは①②の作業は必要ありません。手順③から作業を開始してください。
- ※ <u>Server Core 環境では、PowerChute Business Edition エージェントのみインストール可能です。</u>PowerChute Business Edition サーバおよびコンソールはインストールできません。
- ① 使用している環境がiStorage NS シリーズの場合は、管理マシンからリモートデスクトップ接続にてiStorage NS にアクセスします。
- ② リモートデスクトップ上でエクスプローラを起動します。(以降の CD-ROM ドライブはインストールするサーバのドライブに読み替えてください。)
- ③ CD-ROM ドライブに PowerChute Business Edition の CD-ROM 媒体を挿入すると、次の画面が表示されます。 自動で表示されない場合は、"E:¥Windows¥launch.exe"(CD-ROM ドライブが E:の場合)を実行してください。



④ ここで「製品のインストール」をクリックすると次の画面が表示されます。

PowerChute Business Editionのቲያ ነ ምንን 🗙		
製品のインストール		
PowerChute Business Edition エージ゙ェントは、UPSに保護された各コンt*ュータ上にインストール して下さい。PowerChute Business Edition サーハ*は、各PowerChute Business Edition エージ*ェントを集中管理するために1台のコルt*ュータにインストールして下さい。 PowerChute Business Editionエンシールは、各PowerChute Business Edition エージェント の参照や設定を行うデスフトッブ、リークステーション、または5ップトップコンt*ュータ上にインストールして 下さい。		
Windowsエージェント 未心ストール インストール		
Windowsサーハ゛		
Windowsコンソール 未行ストール インストール		
Linuxエージェント Linuxフォルダ内にあります		
マウスポインダをそれぞれの項目上に移動すると、各コンポーネントの説明が表示されます。		
━ 前へ ━ スタートアップガイド		
→ 終了 → リリースノート BUSINESSEDITION		

く注意>

PowerChute Business Edition エージェントをインストールする場合、ここでサーバと UPS の通信ケーブルを接続してください。

インストールする各コンポーネントの「インストール」ボタンを押します。エージェントのインストール手順は「5. 1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール」、サーバのインストール手順は「5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール」、コンソールのインストール手順は「5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインストール」をそれぞれ参照してください。

※必要な PowerChute Business Edition コンポーネントをインストールした後、必ずサーバの再起動を行ってくだ さい。 5.1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール

LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合は「5.1.1 LCD パネル付き Smart-UPS の場合」を LCD パネルなし Smart-UPS を使用する場合は「5.1.2 LCD パネルなし Smart-UPS の場合」を参照してください。

- 5.1.1 LCD パネル付き Smart-UPS の場合
- ① エージェントのインストールでは、まず下記の画面が表示されます。「OK」を押します。

PowerChute Business Edition		
v9.1.1 PowerChuteIージェントを一元管理するには、v9.1.1 PowerChuteサーバー/コンソールをインストールする必要があります。 このPCBE v9.1.1サーバー/コンソールは、任意の古いインストールされたIージェントも管理することができます。互換性のあるハージョンは対応表で確認してください。		
<u>ОК</u> <u></u> ++>tel		

※UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用している場合、下記画面が表示されます。ここでは『DB9』 を選択し「OK」を押してください。以降は、「5.1.2 LCD パネルなし Smart-UPS の場合」の手順②以降を 参照してインストールを進めてください。

PowerChute Business Edition - 手動によるUI	PSの選択 ×	
PowerChuteは接続されているUPSのタイフを自動的に検出できませんでした。 UPS省面の具なる監視ボートが使用可能ですくUPSのモデルによって異なります)。		
下記の該当するオフションを選択して、インストールのプロセスに進んで下さい。		
通信トラブルシューティング		
UPSの背面にあるUPS監視ポートのタイプを示して下さい。		
с <u>DB</u> 9		
C RJ45		
OK	キャンセル	

次に下記の画面が表示されます。「次へ」を押します。



③ 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business EditionI-ジェント	x
使用許諾契約 次の製品使用許諾契約を主意深くお読みください。	
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。	
Schneider Electric IT Corporation - ソフトウェア使用許諾契約書]
本ソフトウェア使用許諾契約書(以下「契約書」)は、「ライセンサー」であるSchneider Electric IT Corporation(以下「SE」)およびユーザ(以下「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約であ り、本契約書が付編しているSEソフトウェアに関するものです。	
「I seree(同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー 等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことにな ります。	,
ー 使用許諾契約の条項にすべて同意しますか?[しいえ]を選択した場合、セットァップログラムは終了し ます。PowerChute Business Editionをクストールするには、使用許諾契約に同意する必要がありま す。	_
[はい] いいえ	

 ④ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォ ルダを指定してください。「次へ」を押します。

(既にサーバまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business EditionI-ジェント 🛛 🗙
クストール先の選択 セットアップがファイルをインストールするフォルダを選択してください。
PowerChute Business Editionを次のフォルタラこインストールします。
このフォルタiこインストールする場合は、[次へ]をクレックして下さい。別のフォルタiこインストールする場合は、[参 照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。
- 1)ストール先フォルダ
C:¥Program Files (x86)¥APC¥PowerChute Business Edition 参照
(前へ) 「次へ > 」 キャンセル

⑤ 以下のメッセージボックスが表示されます。UPS を自動検出する場合は「はい」を押し⑦へ進みます。



⑥ ⑤で「いいえ」を選択すると UPS タイプと通信ポートの選択画面が表示されます。使用する通信ポートを選択してください。

PowerChute Business Editionのセットアップ			
PowerChute BUSINESS EDITION	以下のリストから通信ボードを避決して下さい。セットアップフログラムに UPSを決出させる場合は、「自動狭出を実行」をかったして下さ い。さらに詳細な情報記こついては、「通信のヘルプ」ホタッをグックし て下さい。		
	UPS外/7°と通信术~->		
	UPSが7 ^か RJ45ジJ7ルボートを備えた任意の Smart-UPSおよびスマードがサリング(SMX、 SMT、SMC、SURTD、FJT、NMM、HTM72 ど)の使用		
	通信ポート: 📔 🗸		
	自動検出の実行 通信のヘルプ		
	<前へ 次へ> キャンセル		

- 注意:『通信ポート』の選択を誤ってインストールした場合、PowerChute Business Edition エージェントの 再インストールが必要になります。
- ⑦ エージェントへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3~16文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./_の15文字が使用可能)で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。
 - ※ここで入力するユーザ名・パスワードは、PowerChute Business Editionの各コンポーネントで共通でなければ なりません。異なるユーザ名・パスワードを設定している PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに追加したり管理したりすることは出来ません。また、 ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

PowerChute Business Editionのጀፃኑアፃフ° 🛛 🗙		
PowerChute business edition	PowerOhute Business Editionで使用するユーザ名とハスワートを入 カして下さい。注意ここで入力するユーザ名とハスワートは、エバール サーバ、および管理対象エージント共通でなければなりません。異な るバスワードを持つエージンハがある場合、管理には複数のサーバが必 要になります。	
\mathbf{O}	ユーザ名 apc	
	ν,2∂−μ,00,00882 [●●●	
<前へ 次へ> キャンプル		

⑧ エージェントのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押します。



⑨ 「製品のインストール」の画面に戻ります。エージェントが「インストール済」となっていることを確認してください。

[※]Server Core 環境では、「通信のヘルプ」がグレーアウトされ使用できません。

5.1.2 LCD パネルなし Smart-UPS の場合

 N8580-04 UPS インタフェース拡張ボードを使用している場合、下記画面が表示されます。『DB9』を選択し「OK」 を押します。

PowerChute Business Edition - 手動によるUPS	の選択
PowerChuteは接続されているUPSのタイフを自動的に検出できませんでした。 UPS背面の異なる監視ボートが使用可能です(UPSのモデルによって異なります)。 下記の該当するオフションを選択して、インストールのフロセスに進んで下さい。 通信トラブルシューティング UPSの背面にあるUPS監視ホートのタイフを示して下さい。	
C [DB9	(******) *****)
C RJ45	
ОК	キャンセル

2 次に下記の画面が表示されます。「次へ」を押します。



③ 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business EditionI-ジェント
使用許諾契約 次の製品使用許諾契約を主意深くお読みください。
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNHーを押して下さい。
Schneider Electric IT Corporation - ソフトウェア使用許諾契約書
本ソフトウェア使用許諾契約書(以下「契約書」)は、「ライセンサー」であるSchneider Electric IT Corporation(以下「SE」)およびユーザ(以下「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約であ り、本契約書が付属しているSEソフトウェアに関するものです。
「Lacree(同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー 等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことにな ります。
使用許諾契約の条項にすべて同意しますか?[しいえ]を避択した場合、セットアップウログラムは終了します。PowerChute Business Editionをクストールするには、使用許諾契約に同意する必要があります。
はい いいえ

④ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォ ルダを指定してください。「次へ」を押します。

(既にサーバまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business EditionI-ジェント	x	
インストール先の選択 セットアップがファイルをインストールするフォルタを選択してください。		
PowerChute Business Editionを次のフォルタॊこインストールします。		
このフォルタiこインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタiこインストールする場合は、[参照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。		
イッストールキフォルダ		
C:¥Program Files (x86)¥APC¥PowerChute Business Edition 参照]	
(前へ) 次へ) キャンセル		

⑤ 以下のメッセージボックスが表示されます。この時点でサーバと UPS をシリアルケーブルで接続してください。
 シリアルケーブルを接続した後に UPS を自動検出する場合は「はい」を押し⑦へ進みます。
 注意: UPS インタフェース拡張ボードやマルチサーバ接続 BOX(Share UPS)を使用してスレーブサーバとして

運用する場合は、自動検出を行わずに「いいえ」を選択して⑥に進んでください。

質問
? UPSの通信ポートを自動検出しますか?
(北ハ(Y) いいえ(N)

- ⑥ ⑤で「いいえ」を選択すると UPS タイプと通信ポートの選択画面が表示されます。 接続されている UPS タイプ と通信ポートを選択してください。 使用するシリアルケーブルや UPS インタフェース拡張ボード、マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)を使用する 場合など、以下を参照し適切な「UPS タイプ」を選択してください。
 - ーK410-313(1A)(940-0024E)で接続している場合 -N8580-04 (940-0020E) で接続している場合 「UPS インタフェース拡張ボード」を使用

:「Interface Expander のベーシックポート」

「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」を使用 :「Share-UPS のベーシックポート」

: [Smart-UPS]

-N8180-80 「UPS インタフェース拡張ボード」に

添付のシリアルケーブル (940-0020E) で接続している場合 :「Interface Expander のベーシックポート」

Powe	erChute Business Editionのቲያኑፆፃን°
PowerChute BUSINESS EDITION	以下のリストからUPSとCOMはペードを登択して下さい。 セットアップフログラムにUPSを検出させる場合は、【自動検出の実行】を グックルで下さい。さらに詳細な情報については、【通信のヘルプ】 本別をグックして下さい。
\mathbf{e}	UP\$\$47°2·通信术"~ ト UP\$\$47° [通信术"~ ト:
	自動検出の実行 通信のへルフ 通信のへルフ (
	く前へ 次へ> キャンセル

※Server Core 環境では、「通信のヘルプ」がグレーアウトされ使用できません。

- 注意:『UPS タイプ』の選択時に UPS タイプを誤ってインストールした場合や、『通信ポート』の選択時に "COM1、COM2 等のシリアル接続"と"USB 接続"を誤ってインストールした場合、PowerChute Business Edition エージェントの再インストールが必要になります。
- ⑦ エージェントへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3~16文字の半角英数文字(大 文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./の15文字が使用可能)で、ユーザ名およびパスワードを入力 してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。

※ここで入力するユーザ名・パスワードは、PowerChute Business Edition の各コンポーネントで共通でなければ なりません。異なるユーザ名・パスワードを設定している PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに追加したり管理したりすることは出来ません。また、 ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

Pov	verChute Business Ed	itionのセットアッフ°	x
PowerChute BUSINESS EDITION	PowerChute Business カレて下さい。注意に、 サーバ、および管理対象 るパスワードを持つエージェ 要になります。	Editionで使用するユーザ名とパスワートを入 こで入力するユーザ名とパスワートを入 エーシェント共通でなければなりません。異な ンかがある場合、管理には複数のサーバがい	13.477
	ユーサギ名 パスワード [*] パ*スワード*の確認	apc	
	< 前	うへ 次へ 、 キャンセル	

⑧ エージェントのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押します。



- ⑨ 「製品のインストール」の画面に戻ります。エージェントが「インストール済」となっていることを確認してください。
- 5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール
- 5.2.1 サーバのインストール

※ Server Core 環境へは、PowerChute Business Edition サーバをインストールできません。

① サーバのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。



② 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business Editionサーバー	x
使用許諾契約 次の製品使用許諾契約を主意深くお読みください。	
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。	
Schneider Electric IT Corporation – ソフトウェア使用許諾契約書	-
本ソフトウェア使用許諾契約書(以下「契約書」)は、「ライセンサー」であるSchneider Electric IT Corporation(以下「SE」)およびユーザ(以下「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約であ り、本契約書が付属しているSEソフトウェアに関するものです。	
「Lagree(同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー 等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことにな ります。	~
ー 使用許諾契約の条項にすべて同意しますか?[しいいえ]を選択した場合、セットァップログラムは終了し ます。PowerChute Business Editionを行ストールするには、使用許諾契約に同意する必要がありま す。	-
[はい] いいえ	

インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

③ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォ ルダを指定してください。「次へ」を押します。

(既にエージェントまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business Edition#-//*-
インストール先の選択 セットアップがファイルをインストールするフォルダを選択してください。
PowerChute Business Editionを次のフォルタラこインストールします。
このフォルタにインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタにインストールする場合は、[参照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。
194r- <i>h</i> 9t/#//%
C #Program Files (x86)#APC #PowerChute Business Edition 参照
<前へ 次へ> キャンセル

④ サーバへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3~16 文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./_の15 文字が使用可能)で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。

※ここで入力するユーザ名・パスワードは、PowerChute Business Editionの各コンポーネントで共通でなければ なりません。異なるユーザ名・パスワードを設定している PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに追加したり管理したりすることは出来ません。また、 ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

Pow	rerChute Business Editionのቲፇኑアッフ°
PowerChute BUSINESS EDITION	PowerChute Business Editionで使用するユーザ名とハスワードを入 カレて下さい。注意ここで入力するユーザ名とハスワードは、エハール、 サーバ、あよび管理対象エージェント共通でなければなりません。異な るハスワード名号つエージェンナがある場合、管理には複数のサーバが必 要になります。
	ユーザ名 apc ハ*スワード ●●● ハ*スワードの確認 ●●●
	<前へ 次へ> キャンセル

⑤ サーバのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押すと設定プロファイルの作成が始まります。



⑥ 設定プロファイルの作成を行います。次の画面が表示されたら「次へ」を押します。(この設定は後で行うことも可能ですが、ここで設定することをお薦めします。後から設定する場合は、PowerChute Business Edition コンソールにて PowerChute Business Edition サーバに接続し、デバイスリストを設定する際に再び設定プロファイルの作成画面が表示されます。)

設定プロファイルの作	FØ.
PowerChute BUSINESS EDITION	設定フ [°] ロファイルの作成 このウィザートでは、テウォルト設定フロファイル用のご通知手段と電源保護方 計の設定を選択することができます。 このテウォルト設定フロファイルは、PowerChute Business Editionサーパー のデッイスリストル内のマイての学いメスに適用されます。フロファイルは デッイスリストルのロット・ショントを打撃に、個別にカスなイス可能です。 統行するには、Dたへい]をクリックします
(H)	

⑦ 電源障害や電源に関する問題を通知する手段を選択します。通知手段は「ポケベル」、「E-Mail 通知」があります。
 利用したい通知手段にチェックを入れて「次へ」を押します。ポケベルを選択した場合は⑧へ、E-Mail 通知を選択した場合は⑨へそれぞれ進みます。(複数選択することも可能です。)
 通知が必要ない場合は通知手段にチェックを入れずに「次へ」を押して⑩へ進みます。

設定プロフ	ァイルの作風	×
POWER	Chute'	通知手段の設定
		PowerChute Business Editionには、電源障害や電源に関する問題を ユーザに通知するための様々な手段が用意されています。
- ið	-	通知手段
4Å	10	□ ホ° ケベル
72 25	-	E-Mailj通知
12	-	
44	-	
	√l7°(<u>H</u>)	<前へ(<u>B</u>) 次へ(<u>N</u>) (キャンセル(<u>C</u>))

⑧ ポケベルを選択すると次の画面が表示されます。ここでは <u>E-Mail をサポートしているポケベルにのみメッセージを送信することができます。「次へ」を押して⑨の E-Mail パラメータの設定に進みます。
</u>

設定プロフ	ァイルの作成	$\overline{\mathbf{x}}$
Power	Chate'	ポ ケベルのサ ポ ート
BUSINESS	EDITION	
		PowerChute Business Editionは、電子ナールをサポートしているホウベル しだけカウセーンを送信することができます。電子ナールの設定画面から 木ウベルの設定を行って下さい。
- 65	14	
vð.	10	
12	10	
- 62	10	
vit.	10	
12	10	
	л7°(<u>Н</u>)	(前へ(<u>B</u>) 次へ(<u>N</u>) (キャンセル(<u>C</u>))

⑨ E-Mail 通知を選択すると次の画面が表示されます。(ポケベルを選択した場合にも表示されます。)
 画面の例を参考にして、"SMTP サーバー"、"送信元 E-mail アドレス"、"送信先 E-mail アドレス"を設定してください。

送信先 E-Mail アドレスは「追加」ボタンを押すことにより登録します(最大5つ登録可能です)。

設定プロフ	ァイルの作成	$\overline{\mathbf{x}}$
POWER	Chute	E-Mailパ [®] ラメータの設定 PowerChute Business EditionからE-Mail通知を送信するためには、 次の3種類の項目を正しく設定する必要があります。
		<u>SMTPサーバの設定</u> SMTPサーバの設定
við -	No.	
14	10	送信元E-Mailアドレス:(username@domain.comなど)
14	14	
43	**	送信先E-Mailアドレス:(username@domain.comなど)
vit.	**	
ið.	-	追加(A) 削除(B) 変更(n)
		「テスト(丁」 テスト結果
	√17°(<u>H</u>)	

"SMTP サーバー"の設定は、「SMTP サーバの設定」ボタンを押し、下記画面にて設定してください。 E-Mail 送信を行う際、ベーシック認証が必要な場合は、「E-Mail ベーシック認証」にチェックを入れ、ユーザ名、 パスワードを設定してください。

入力が終わると「OK」ボタンを押し画面を閉じます。

SMTPサーバー設定
SMTPサーバー名またはIP7ドルスを入力して、 PowerChuteからE-Mailによる通知が送信されるよう にします。
ご使用のSMTPサーバーのE-Mail設定がベーシック認証 LE設定されている場合は、このチェックボックスをチェックし てください。この場合ユーザ名とパスワードのフィールト1よ 空欄でもかまいません。
SMTPサーバー:
smtp.domain.com
(mailserver.domain.comなど)
E-Mailへ ^s ーシック記念証
サーバーのユーザー名
pcbe-server
サーバーのバスワード
•••••
バスワードの確認
••••••
OK(O) (++)/th(C)
設定した内容が正しいかどうかを確認するためには、「テスト」ボタンを押してください。設定内容が正しい場 合、以下のように「メッセージ送信完了」と表示され、送信先 E-Mail アドレスにテストメールが送信されます。 設定が完了したら「次へ」を押します。

設定プロフ	ァイルの作成			
PowerChute BUSINESS EDITION		E-Mailハ [°] ラメータの設定 PowerChute Business EditionからE-Mail通知を送信するためには、 次の3種類の項目を正しく設定する必要があります。		
		SMTPサー/切設定		
4		smtr 0 =//~:		
-		i 美信元F-MailZkill 7: (username@domain.comなど)		
		pcbe-server@domain.com		
	-	送信先E-Mailアドレス:(username@domain.comなど)		
5	-	pcbe@domain.com		
ið.	-	追加(<u>A</u>) 肖۱除(<u>B</u>) 変更(ŋ)		
-				
	"И7" <u>(Н</u>)			

① 電源保護方針の設定を行います。電源障害やUPS ハードウェア障害に対するシステムの対処方法に応じて、「サ ーバの稼働時間を最大限にする(ランタイムを重視)」または「バッテリ容量を保持する(安全性を重視)」を選択 することができます。どちらかを選択し、「次へ」を押します。

設定プロフ	7イルの作員	x 🛛
Power	Chuite"	電源保護方針
BUSINESS	EDITION	電源障害やUPSハートウェア障害に対するシステムの対処方法を選択しま す。
		○ サーバの稼働時間を最大限にする(ランタイムを重視)
		パックアック作時間が安全なシャットタウンに必要な時間まで減少 した場合、またはUPSに致命的な故障が発生した場合のみ シャットタウンを開始します。
- 68	10	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
12	10	◉ バッテリ容量を保持する(安全性を重視)
12	-	UPSが1分間バッテリ運転状態になった場合、またはUPS障害が発生した場合にシャットダウンを開始します。
10	10	
vă.	10	
it.	-	注意・電源保護方針の設定は、デハイスリスト中の各システムごとに個別に 設定することも可能です。
ヘルフ"(<u>H</u>)		(前へ(B) 次へ(N) (キャンセル(C))

電源障害によりシャットダウンが行われた場合、バッテリが 15%充電された時点で UPS からサーバへの電源供給が再開されます。(注1)

次のいずれかのイベントが発生した場合に PowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャット ダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照してください。)

- ・ ローランタイム状態
- ・ ローバッテリ状態 (注2)
- ・ UPS 内部温度しきい値超過
- ・ バッテリ状態時に通信切断
- ・ UPS 過負荷

[バッテリ容量を保持する(安全性を重視)]は、システムの動作時間を高めるよりも安全にシャットダウンすることの方が重要な場合に選択します。
 この項目を選択した場合、電源障害時にUPSのバッテリ状態が1分間(デフォルト値)継続すると、シャットダウンが開始されます。

電源障害によりシャットダウンが行われた場合、バッテリが 90%充電された時点で UPS からサーバへの電源供給が再開されます。(注1)

- 次のいずれかのイベントが発生した場合にPowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャットダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照してください。)
 - ・ バッテリ状態しきい値超過
 - ・ ローランタイム状態
 - ・ ローバッテリ状態(注2)
 - ・ UPS 内部温度しきい値超過
 - ・ バッテリ状態時に通信切断
 - ・ UPS 過負荷
- 注1: LCD パネル付き Smart-UPS では電源回復時の再起動条件としてバッテリ容量の指定はありません。 UPS のバッテリ残量(ランタイム時間)による起動条件を設定し運用する場合は、「コンセントグループの電源 をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム」を設定してください。
- 注2: LCD パネル付き Smart-UPS では[電源障害設定]にて「ランタイム制限で」以外に設定すると"ローバッテリ 状態"イベントによるシャットダウンは行われません。([イベントの設定]の「ローバッテリ状態」イベントの シャットダウンのチェックが外れた状態となります。)
- ※ 選択した電源保護方針や電源障害時のシャットダウン開始時間はインストール後、PowerChute Business Edition コンソールから変更できます。
- ① システムのシャットダウンについての説明が表示されます。内容を読んで「次へ」を押します。



 ② ここまでに設定した内容が表示されます。内容が正しければ「次へ」を押します。変更が必要な場合は「前へ」 を押して変更箇所まで戻り、再度設定を行ってください。



③ 次の画面が表示されると終了です。「完了」を押します。

設定プロフ	ァイルの竹	成
POWER		変更が完了しました
12	-	
14	10	UPS設定プロファイルの変更が完了しました。ウィザートを閉じるには、「完
12	10	11#3/@/////UCF206
10	10	
18	10	
	л7"(<u>H</u>)	

- (4) 以降、デバイスリストの設定画面が表示されます。操作手順は「8.2 エージェントの登録」を参照してください。
- ① デバイスリストの設定が終わると、「製品のインストール」の画面に戻ります。サーバが「インストール済」となっていることを確認してください。

5.2.2 設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ

(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ

ウィザードを使って設定プロファイルの作成や変更を行う際に表示される可能性のあるメッセージを次に 示します。

メッセージ	説明
設定プロファイル中に次のエラーが検出されま	次のような問題が発生していることを表しています。
した。	・ 指定されていない E-mail パラメータがある。
	 ブロードキャスト通知アドレスが指定されていない。
	・ 1つ以上の通知手段を指定する必要があります。
	この問題を解決するためには、適切な通知手段を設定して下さい。
新しい設定プロファイルはまだ保存されていま	[いいえ] を選択するとダイアログボックスに戻ります。[はい] を選択した
せん。 本当に終了しますか?	場合、変更内容は破棄されます。
電源保護の設定を変更する場合、新しい設定プロ	[いいえ] を選択すると、デバイスリスト中のシステムに設定プロファイル
ファイルをデバイスリスト中のすべてのデバイ	を再適用しないで、プロファイルの通知手段を変更することができます。[は
スに適用し直す必要があります。 この設定は	い]を選択すると、新しいプロファイルがデバイスリスト中のシステムに適
UPS 個別に行った設定を上書きすることがあり	用されます。この場合、独自の設定を行っていたシステムは、再び設定し直
ます。 処理を続行しますか?	す必要があります。

(2) 設定プロファイル適用時のログメッセージ

設定プロファイルの適用ログメッセージは、デバイスリスト中のシステムの設定プロファイルの変更ステータスを 表しています。次のいずれかの作業を行った場合に報告されます。

・ [設定プロファイルの作成/変更] ダイアログボックス(設定プロファイルの変更を参照)を使用した後、デバイス リスト中のすべてのシステムへのプロファイルの適用を選択した。

・デバイスリスト中のシステムへの設定プロファイルの再適用を選択した(設定プロファイルの再適用を参照)。 このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
<ホスト名>からの応答がありません。	設定プロファイルをもう一度適用して下さい。それでも問題が解決しない場
	合は、「8.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ(5)
	通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
<ホスト名>がデバイスリストにありません。	システムがデバイスリストに登録されていません。該当するシステムの設定
	プロファイルは更新されません。
設定プロファイルを<ホスト名>に適用できま	設定プロファイルの適用時に、システムのシャットダウンが開始されていた
せんでした。	かまたは通信(UPS またはネットワーク)が失われました。
<ホスト名>に適したプロファイルが見つかり	サポートされていない UPS を使用しているか、またはシステムの
ません。	PowerChute Business Edition エージェントが UPS と通信できません。
<ホスト名>にプロファイルが正しく適用され	このシステムのプロファイルが更新されました。
ました。	

メッセージ	説明
設定プロファイルの適用時にエラーが発生しま	デバイスリスト中のシステムへの新規プロファイルの適用が完了しました
した。	が、一部のシステムは新規プロファイルで更新できませんでした。
一部の変更は完了していません。今終了すると、	変更を完全に行わないままダイアログボックスを終了しようとしています。
設定プロファイルが正しく適用されたかどうか	[はい] を選択すると、すでに更新された内容だけが有効になります。
を確認することはできません。 本当に終了しま	
すか?	

- 5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインストール
- ※ Server Core 環境へは、PowerChute Business Edition コンソールをインストールできません。
 コンソールのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。

Pov	werChute Business Edition]ンソール
PowerChute BUSINESSEDITION	PowerChute Business Editionコンソールのセットストールウィザ・トド ヘようこそ。 PowerChute Business Edition コソノールのセットアップウログラムへようこ そ。このフログラムはよ、PowerChute Business Edition コソノールをあな たのコンピュール上Iこインストールします。
	次へ> キャンセル

② 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

PowerChute Business Edition]ンソール
使用許諾契約 次の製品使用許諾契約を主意深くお読みください。
使用許諾契約の残りの部分を表示するには、PAGE DOWNキーを押して下さい。
Schneider Electric Π Corporation - ソフトウェア使用許諾契約者
本ソフトウェア使用許諾契約書(以下「契約書」)は、「ライセンサー」であるSchneider Electric IT Corporation(以下「SE」)およびユーザ(以下「お客様」)の間で結ばれた法律上の契約であ り、本契約書が付属しているSEソフトウェアに関するものです。
「Lagree(同意します)」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー 等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことにな ります。
使用許語契約の条項にすべて同意しますか?しいえ」を選択した場合、セットアッププログラムは終了し ます。PowerChute Business Editionを行ストールするには、使用許諾契約に同意する必要がありま す。
[はい] いいえ

③ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先フォル ダを指定してください。「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。

(既にエージェントまたはサーバがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

PowerChute Business Edition]ンソール
インストール先の選択 セットアップがファイルをインストールするフォルダを選択してください。
PowerChute Business Editionを次のフォルタोこインストールします。
このフォルタにインストールする場合は、[次へ]をクリックして下さい。別のフォルタにインストールする場合は、[参 照]をクリックして目的のフォルタを選択して下さい。
インストール先フォルダ C.¥Program Files (x86)¥APC¥PowerChute Business Edition 参照
<前へ 次へ> キャンセル

④ コンソールのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押します。



⑤ 「製品のインストール」の画面に戻ります。コンソールが「インストール済」となっていることを確認してください。

- 6 PowerChute Business Edition インストール(Linux 版)
- ※ <u>すべてのインストール作業は root で実施してください。</u>
- ※ PowerChute Business Edition がインストールされていない環境では、サーバと UPS をシリアルケーブルで 接続しないでください。
- ※ サーバ機種によっては、使用可能なシリアルポートが限られている場合があります。 使用されるサーバ機種にて使用可能なシリアルポートを確認し、PowerChute Business Edition で使用するシ リアルポートとして設定してください。
- ※ Linux には、PowerChute Business Edition エージェントのみインストールします。
- ※ <u>必要な rpm パッケージをインストールした後、必ずサーバの再起動を行ってください。</u>
- ※ <u>PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために、PowerChute Business Edition サー</u> <u>バおよびコンソールが必要となります。Windows マシンへ PowerChute Business Edition サーバおよびコン</u> <u>ソールをインストールし各種設定を行ってください。</u>
- ※ 下記の注意事項を確認し該当する場合は回避策を実施してください。
 - 「19.52 RedHat Enterprise Linux 6.x (x64)環境ヘインストールする場合の注意」
 - 「19.53 RedHat Enterprise Linux 5.x 環境ヘインストールする場合の注意」
 - 「19.59 RedHat Enterprise Linux 7.x 環境ヘインストールする場合の注意」
- ※ InterSec/CS400i、LB400i、MW400i など InterSec シリーズ環境については、Web ブラウザから操作する 「Management Console」による PowerChute Business Edition (Linux 版)のインストールは行わないでくだ さい。必ず、ローカルコンソール、または ssh や Telnet などにてログインした後、コマンドラインからのイン ストールを行ってください。
- 6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合
- ※使用している環境によっては、メッセージ等の日本語表示ができない場合があります。この場合、「kon」コマンド 等で日本語表示モードにすることにより、日本語表示することが可能となります。
- CD-ROM ドライブに PowerChute Business Edition の CD-ROM 媒体を挿入し「mount」コマンドにて CD-ROM ドライブをマウントします。
 例) mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
- 「install_pbeagent_linux.sh」があるディレクトリへ移動します。
 例)cd /mnt/cdrom/Linux
- ③ 「install_pbeagent_linux.sh」を実行して PowerChute Business Edition をインストールします。 例)sh install_pbeagent_linux.sh
 - ※ InterSec/CS400i、LB400i、MW400i など InterSec シリーズ環境については、コマンドラインから 「install_pbeagent_linux.sh」を実行する際は、以下のように環境変数 LANG に"日本語 UTF-8"の情報を指 定して実行してください。
 例) env LANG=ja JP.UTF-8 sh install pbeagent linux.sh

④ 以下のような表示になります。

LCD パネルなし Smart-UPS を使用する場合は"1"を、LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合は"2"を 入力してください。

※LCD パネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を利用し、スレーブサーバとして インストールをする場合は、"1"を入力してください。

== PowerChute Business Edition Agent Installation == For instructions on upgrading PowerChute, please refer to the readme file in the Linux install folder.

Different monitoring ports are available on the back of the UPS depending on the UPS model.

Please select the appropriate option below to proceed with the installation process.

What type of UPS monitoring port is on the back of your UPS ?

- 1) DB9
- 2) RJ45
- 3) Cancel Agent installation.

Please select option 1, 2 (Press 3 to cancel):

<"1)" を選択した場合> ⑤の手順に進んでください。

<"2)"を選択した場合> ⑩の手順に進んでください。 ■LCD パネルなし Smart-UPS を使用する場合

⑤ 以下のような表示になります。

最初にユーザ名、パスワードの設定を行います。ユーザ名、パスワードは3~16文字の半角英数文字(大文字・ 小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./_の15文字が使用可能)を使用して設定してください。 以下の画面でユーザ名を入力します。

Schneider Electric IT Corporation

PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility

New Username

>

ユーザ名を入力すると、次はパスワードの設定になります。以下の表示になりましたら設定するパスワードを入 力してください。確認のためにパスワード入力は2回求められます。

※ここで入力するユーザ名・パスワードは、PowerChute Business Editionの各コンポーネントで共通でなければ なりません。異なるユーザ名・パスワードを設定している PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに追加したり管理したりすることは出来ません。また、 ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

注意:パスワード入力の際はWindowsの時とは異なり「*」も表示されません。

New Password ← (1回目入力時)	
>	
Confirm New Password ←(2回目入力時)	
>	

⑥ 次はシグナルタイプの設定を行います。以下の画面が表示されます。

Select the Signal Type [1] : Smart [2] : Simple >

使用するシリアルケーブルにより、以下を入力してください。 -K410-313(1A) (940-0024E) で接続している場合 :「[1]: Smart」 -UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)に添付のケーブル または N8580-04 (940-0020E) で接続している場合 :「[2]: Simple」

<[1]を選択した場合> ⑦の手順に進んでください。 <[2]を選択した場合> 以下が表示されます。 Is the device a Share UPS? (Yes or No) >

マルチサーバ接続 BOX (Share UPS)または UPS インタフェース拡張ボードを使用している場合は、Yes を入力 してください。 ⑦ 次は使用するシリアルポートを選択します。以下のように表示されます。

Select the serial port [1] : /dev/ttyS0 [2] : /dev/ttyS1 [3] : Other

>

シリアルケーブルを接続しているポートが COM1 の場合は「[1]:/dev/ttyS0」、COM2 の場合は「[2]:/dev/ttyS1」、 それ以外のシリアルポートに接続している場合は「[3]: Other」を選択してください。ここでの選択も同様に数字 の"1"、"2"、"3"のいずれかを入力してください。

<"1"または"2"を選択した場合> ⑧の手順に進んでください。
<"3"を選択した場合> 以下の表示になりますので、使用するシリアルポートのデバイス名をキーボード入力してください。
Please type in the serial port
*Case-sensitive (ex: /dev/ttyS0)
>

⑧ これまで設定してきた内容を確認するメッセージが表示されます。

Signal Type : Smart Share UPS : No Serial Port : /dev/ttyS0 Are the UPS settings correct? (Yes or No)

設定したシグナルタイプおよび使用するシリアルポートの情報が表示されますので、設定内容が正しければ 「Yes」、誤りがあり修正をする必要があれば「No」を入力してください。 「No」を入力した場合は⑥の画面に戻りますので、再設定してください。

 ⑨ 設定内容確認後に、PowerChute Business Edition エージェントを今すぐ起動させるかどうかの確認メッセージ が表示されます。

Start PowerChute Business Edition Agent? (Yes or No) >

このメッセージが表示されてから、サーバにシリアルケーブルを接続してください。 すぐに PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は「Yes」、後で手動起動またはサーバを再 起動により PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は「No」を入力してください。

以上でLinux サーバにおけるインストール作業は終了です。後は「8 コンソールの操作」を参照してLinux サーバを デバイスリストに登録してください。 ■LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合

10 以下のような表示になります。

"2"を入力してください。

Are you connected to a Share UPS, Interface Expander or in Simple Signalling mode ?

Yes
 No
 Cancel Agent installation.

Please select option 1, 2 (Press 3 to cancel):

① 以下のような表示になります。

最初にユーザ名、パスワードの設定を行います。ユーザ名、パスワードは3~16文字の半角英数文字(大文字・ 小文字)・記号(%=-~^@{[+]},./_の15文字が使用可能)を使用して設定してください。 以下の画面でユーザ名を入力します。

Schneider Electric IT Corporation PowerChute Business Edition Agent Configuration Utility

New Username

>

ユーザ名を入力すると、次はパスワードの設定になります。以下の表示になりましたら設定するパスワードを入 力してください。確認のためにパスワード入力は2回求められます。

※ここで入力するユーザ名・パスワードは、PowerChute Business Editionの各コンポーネントで共通でなければ なりません。異なるユーザ名・パスワードを設定している PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに追加したり管理したりすることは出来ません。また、 ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。

注意:パスワード入力の際はWindowsの時とは異なり「*」も表示されません。

New Password	\leftarrow	(1回目入力時)
>		
Confirm New Passwor	rd	←(2回目入力時)
 		

② 次はケーブルタイプの設定を行います。以下の画面が表示されます。
 ※環境によっては「USB」は表示されません。

"1"を入力してください。

Cable Type:
[1]: Serial
[2]: USB
>

(1) 次は使用するシリアルポートを選択します。以下のように表示されます。

Select the serial port [1] : /dev/ttyS0 [2] : /dev/ttyS1 [3] : Other

>

シリアルケーブルを接続しているポートが COM1 の場合は「[1]:/dev/ttyS0」、COM2 の場合は「[2]:/dev/ttyS1」、 それ以外のシリアルポートに接続している場合は「[3]: Other」を選択してください。ここでの選択も同様に数字 の"1"、"2"、"3"のいずれかを入力してください。

<"1 "または" 2 "を選択した場合> ④の手順に進んでください。 <"3 "を選択した場合> 以下の表示になりますので、使用するシリアルポートのデバイス名をキーボード入力してください。 Please type in the serial port *Case-sensitive (ex: /dev/ttyS0) >

(1) これまで設定してきた内容を確認するメッセージが表示されます。

== Selected Configuration: == Cable Type: Serial Serial Port: /dev/ttyS0 Are the UPS settings correct? (Yes or No)

設定したケーブルタイプおよび使用するシリアルポートの情報が表示されますので、設定内容が正しければ 「Yes」、誤りがあり修正をする必要があれば「No」を入力してください。 「No」を入力した場合は¹⁰の画面に戻りますので、再設定してください。

 設定内容確認後に、PowerChute Business Edition エージェントを今すぐ起動させるかどうかの確認メッセージ が表示されます。

Start PowerChute Business Edition Agent? (Yes or No) >

このメッセージが表示されてから、サーバにシリアルケーブルを接続してください。 すぐに PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は「Yes」、後で手動起動またはサーバを再 起動により PowerChute Business Edition エージェントを起動させる場合は「No」を入力してください。

以上でLinux サーバにおけるインストール作業は終了です。後は「8 コンソールの操作」を参照してLinux サーバを デバイスリストに登録してください。

6.2 VMware vSphere 5/6 環境へのインストール

PowerChute Business Edition の CD-ROM 媒体の Linux フォルダ配下にある「Configuring ESXi.pdf」を参照しインストールしてください。

※VMware vSphere 5/6、VMware vSphere Management Assistant(vMA)、および Linux に関して、ある程度の知識が ある方を対象に記述しています。

注意:

「vMA のインストール」の18項では『ii. もしくは、CD を実装することもできます』を参照し、CD-ROM 媒体 を実装してください。

19-24 項(23 項除く)は、『6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合』を参照し、PowerChute Business Edition をインストールしてください。

- 6.3 Telnet を使用してリモートサーバからインストールする場合
- Telnet を使用して Linux サーバにログインします。(インストールは管理者が行わなければなりません。一般ユー ザでログイン後は「su-」コマンドを実行して root アカウントに変更してください。)
- ② 以降の手順は「6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合」と同様ですので、そちらを参照してください。

- 7 PowerChute Business Edition アンインストール
- ※ すべてのアンインストール作業は管理者権限を持つユーザで実施してください。
- ※ PowerChute Business Edition エージェントのみをアンインストールする場合、PowerChute Business Edition コンソールを起動し、アンインストールする PowerChute Business Edition エージェントの登録を削除してお いてください。
- ※ <u>PowerChute Business Edition コンソールは終了させておいてください。リモートサーバからも PowerChute</u> Business Edition サーバへ接続していない状態(ログアウトした状態)でアンインストールを行ってください。
- ※ PowerChute Business Edition をアンインストール後、フォルダやファイルがインストールフォルダに残る場合 があります。PowerChute Business Edition のインストールフォルダを確認し、フォルダの中身とともに削除し てください。
- 7.1 Windows の場合
- 7.1.1 Windows の場合(エージェント、サーバ、コンソール共通)
 ※Server Core 環境の場合は、「7.1.2 Server Core 環境の場合」を参照してください。
 ※iStorage NS シリーズ以外のサーバでは①の作業は必要ありません。
- ① 使用している環境がiStorage NS シリーズの場合は、管理マシンからリモートデスクトップ接続にてiStorage NS にアクセスします。(以降の作業はリモートデスクトップ上で実施します。)
- [コントロールパネル]より「プログラムと機能」を起動します。
- ③ 現在インストールされているプログラム一覧の中から、削除したい PowerChute Business Edition コンポーネント (エージェント、サーバ、コンソール)を選択します。
- ④ 「アンインストール」または「削除」ボタンを選択します。
- 5 以降、ウィザードの指示に従って作業を進めてください。
- ⑥ アンインストールが終了したらサーバを再起動してください。
 PowerChute Business Edition エージェントをアンインストールしたら必ずサーバに接続している UPS との通信 ケーブルをサーバから抜いてください。
 PowerChute Business Edition の各コンポーネントのアンインストール後はサーバを再起動してください。
- 7.1.2 Server Core 環境の場合
- ① コマンドプロンプトにて、PowerChute Business Edition インストールフォルダに移動し、「UninstallAgent.bat」 ファイルを実行します。
 - 例) C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition にインストールしていた場合 cd "C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition" UninstallAgent.bat
- ② アンインストールが終了したら必ずサーバに接続している UPS との通信ケーブルをサーバから抜いてください。 ケーブルを抜いたことを確認後、サーバを再起動してください。

- 7.2 Linux の場合
- 7.2.1 対象サーバで直接アンインストール作業を行う場合
- 作業はすべて root 権限にて行ってください。一般ユーザにてログインしている場合は、「su -」コマンド等により root 権限になって、以下のコマンドを実行してください。 rpm -e pbeagent
- ② プロンプトが表示されるとアンインストールは終了です。 アンインストールが終了したら必ずサーバに接続しているUPSとの通信ケーブルをサーバから抜いてください。 ケーブルを抜いたことを確認後、サーバを再起動してください。

7.2.2 VMware vSphere 5/6 環境でアンインストール作業を行う場合

PowerChute Business Edition の CD-ROM 媒体の Linux フォルダ配下にある「Configuring ESXi.pdf」を参照しアンインストールしてください。

※VMware vSphere 5/6、VMware vSphere Management Assistant(vMA)、および Linux に関して、ある程度の知識が ある方を対象に記述しています。

- ※アンインストールが終了したら必ずサーバに接続している UPS との通信ケーブルをサーバから抜いてください。 ケーブルを抜いたことを確認後、サーバを再起動してください。
- 7.2.3 Telnet を使用してリモートサーバからアンインストールする場合(Linux の場合)
- Telnet を使用して Linux サーバにログインします。(アンインストールは管理者が行わなければなりません。一般 ユーザでログイン後は「su-」コマンドを実行して root アカウントに変更してください。)
- ② 以降の手順は「7.2.1 対象サーバで直接アンインストール作業を行う場合」と同様です。

8 コンソールの操作

8.1 サーバへの接続

コンソールを使用して各エージェントやUPSの設定を行うためにはPowerChute Business Edition サーバに接続しなければなりません。以下の手順で接続してください。

※ PowerChute Business Edition コンソールと PowerChute Business Edition サーバ間の通信および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間の通信には、TCP/IP プロトコルによるソケット通信が使用されます。あらかじめ PowerChute Business Edition コンソールと PowerChute Business Edition サーバ間および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間で ping コマンドを実行し、共に通信が確立されていることを確認した上で使用してください。

※iStorage NS シリーズの場合は、管理マシンからリモートデスクトップ接続にて iStorage NS にアクセスします。

コンソールを起動すると以下の画面が表示されます。接続するサーバの「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

1127イン	×
	コンソールを接続するPowerChute Business Edition サーバのユーザ名とパスワードを入力して 下さい。
*	ユーザ名: apc パなワード: ●●●
	サーパ: 127.0.0.1 ローカルサーバの検出
接続(D) (++>tel/C) (117°(H)
🗌 ユーザ 名とハ・スワート	を保存する

- ② 「ローカルサーバの検出」をクリックするか、PowerChute Business Edition サーバがインストールされている サーバの IP アドレスまたはホスト名を「サーバ」欄に入力します。(過去に接続したことがあるサーバは「サ ーバ」欄のドロップダウンリストから選択することも可能です。)
- ③ 以上の操作でサーバに接続し、ログインすることができます。

8.2 エージェントの登録

PowerChute Business Edition サーバに管理するエージェントが登録されていない場合、PowerChute Business Edition サーバが管理するエージェントを登録しなければなりません。以下の手順で登録を行ってください。登録後に変更す ることも可能です。コンソールのメイン画面で[ツール]→[デバイスリストの設定]を選択するか、または、コン ソールのデバイリストフレーム上において、右クリックで表示されるメニューオプションより[デバイスの追加]を選 択し、②以降の手順を実行してください。

 PowerChute Business Edition サーバに管理するエージェントが登録されていない場合、コンソールにログイン すると次のメッセージが表示されますので「はい」を押してください。「いいえ」を押すと追加せずにコンソー ルを表示します。

\otimes
このサーバーが管理しているPowerChute Business Editionエージェントはありません。エージェントを追加しますか?
(はい(<u>)</u> いいえ(<u>N</u>)

② デバイスリストの設定画面が表示されます。検出されたデバイス欄に、ネットワーク上の同じ「ユーザ名」、「パ スワード」で設定されたエージェントがインストールされているサーバー覧が表示されます。追加するサーバを 選択し、「追加」を押します。

デバイスリストの設定	\otimes
デバイスリストの設定	$\boldsymbol{\ell}$
デバイスリストには、最高25台までのし	UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、「適用」を りりックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト
Linux ESXi Windows Windows	追加> < 肖耶余
<u> デバイス検出の設定</u>	新規 適用(A) (キャンセル(C) (1,7(H)
テッパイスリストには0台のテッパイスがありま	tə.

※ デバイスリストに登録できるデバイスは最大25台です。25台を超えるデバイスを登録しようとすると、 以下のメッセージが表示されます。

$\overline{\mathbf{x}}$	
これ以上のデバイスを追加できません。デバイスリストのデバイス数が限度に達しました。	

③ 現在のデバイスリスト欄に追加したサーバが表示されます。設定を反映するには「適用」を押してください。

デバイスリストの設定	\times			
デハイスリストの設定				
デバイスリストには、最高25台までのし	JPSデハイスを追加できます。変更が完了したら、「適用」を りリックして下さい。			
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト			
Windows	(追加> (全一 肖/除 新規			
<u>デンパイス検出の設定</u> 通用(A) キャンセル(C) ヘルフ(H)				
テッパイスリストには3台のテッパイスがありま	す。3を追加しました			

④ デバイスリストへの追加が完了したら次の画面が表示されます。「閉じる」を押して設定画面を終了してください。



※ 既に他の PowerChute Business Edition サーバに監視されているサーバを追加しようとすると次の画面のようにエラーが表示されます。

デバイスリストの設定				
デバイスリストの設定				
デバイスリストの変更が完了しました。詳細については以下のログを参照して下さい。				
⊗ Windowsを追加できません。すでにPCBEが管理しています。				
変更(a) 【閉じる(C) 】 へル7(円) 完了しました。				

⑤ コンソールのメイン画面に戻ります。追加したサーバが表示されていることを確認してください。

PowerGhute Business Edition Basic						
コンソール(C) 表示(V) ツール(D) ヘルフ(H)						
🖬 🖪 🎒	🖬 🕼 🎒 🔞 🗰					
0	「ホスト名	(रन-१र) UPSモデル	(IージェントのOS		
	💎 ESXi	オンライン (クリーンモード)	Smart-UPS 1500	VMA 5.1.0		
ステータス	M Windows	警告	Smart-UPS 1200	Windows Server 20	12 R2	
-	💎 Linux	オンライン (クリーンモート")	Smart-UPS 1500	Red Hat EL Server	6.4	
電源 イヘシトサマリ						
st.						
電圧分析						
121						
	windows		場所:			
リスクアセスメント	UPSモデル: Smar	t-UPS 1200	連絡先:		,	
		ツトグルーフを設定する必要	そかあります			
	詳細・UPSコンセントゲルーフが決定設定されていません。安全にサーバをシャットダウンするためには、PowerChute が保護して いるサーバに電源供給しているコンセントグループを指定してください。					
	推奨する対象	処方法: 「コンセントの設定」画面/ 下さい。	、移動して、PowerChute	によって保護されているサ	ーバーに電源供給し	
デバイスリストに(デッバイスリストには3台のデッバイスがあります。1 警告 接続先・R120d43					

※ LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合、PowerChute Business Edition エージェントインストール 後、初めてデバイスリストに登録した際、上記画面のように「UPS コンセントグループを設定する必要があ ります」という警告メッセージが表示されます。

デバイスリストフレームにてステータスが警告となっているデバイスをダブルクリックすると[デバイスのプロパティ]ウィンドウの[初期セットアップ]画面が表示されます。

「10 初期セットアップ(LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合のみ)」を参照し、PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンに電源供給しているコンセントグループを設定して ください。

コンセントグループの設定後、データの更新のアイコンをクリックし、表示を更新させ、ステータスが"オン ライン(グリーンモード)"または"オンライン"となることを確認してください。

Power(Ghute Busines	s Edition Basic			
コンソール(<u>C</u>)	表示(V) ツール(I)	~l,7(<u>H</u>)			
🖬 🗟 🖨	(⊗) ##				
	ホスト名	(२२-७२	(UPS€デル	(I-ŷ'ī)hơos	
	💎 ESXi	オンライン (クリーンモート")	Smart-UPS 1500	vMA 5.1.0	
ステータス	Windows	オンライン(クリーンモート")	Smart-UPS 1200	Windows Server 2012 R2	
-	💎 Linux	オンライン (クリーンモート")	Smart-UPS 1500	Red Hat EL Server 6.4	
電源 イベントサマリ					
s fr					
電圧分析					
	windows		挹所·		
リフクアセス・シット	UDOTTAL O	UDC 1000	20071- 11-		
1011 60101	UPStruk Smart	-0PS 1200 ንግ-ን∓-ኑን	理俗元:		
	詳細:システムは	高効率状態で運転中です。			
デッバイスリストにじ	デバイスリストには3台のデバイスがあります。 接続先 R120d43				

<u><注意事項></u>

※ 各サーバがネットワーク上で接続され正常に通信できる状態にもかかわらず、「PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。」等のメッセージが表示された場合は、コンソールのメイン画面で [表示] → [設 定]を選択して次の画面を開きます。「ネットワーク」タブを選択し、リクエストタイムアウト時間を長くして ください。(図の囲まれた部分で設定します。)

7ブリケーションの設定 🛛 😣
全般ネットワーク
IPアトシスの代わりにネットワークアトシスを表示する際、 ホスト名又はフルトメイン名を有効にします。
 ▼ ホスト名を解決する ▼ トメイン名を含める
リクエストタイムアウト: 20 🔷 秒
適用(A) 開じる(C) へレブ(H)

※ [ホスト名を解決する] および [ドメイン名を含める] は、システムのホストアドレスをコンソールでどのよう に表示するかを設定します。[ホスト名を解決する] のみ有効にした場合、コンソールではホスト名のみを表示 します。[ホスト名を解決する] を無効にすると、[ドメイン名を含める] の設定は反映されず、コンソールで は IP アドレスのみを表示します。両方を有効にすると(デフォルト)、コンソールではホスト名とドメイン名が 表示されます。システムのホスト名が解決できない場合は、IP アドレスが表示されます。

77'リケーションの設定 🛛 🛞
全般ネットワーク
IPアドレスの代わりにネットワークアドレスを表示する際、 ホスト名又はフルドメイン名を有効にします。
✓ ホスト名を解決する
▼ ドメイン名を含める
リクエストタイムアウト: 20 📀 秒

8.3 エージェントの削除

登録した PowerChute Business Edition エージェントをデバイスリストから削除するには、コンソールのメイン画面 で[ツール]→[デバイスリストの設定]を選択するか、または、PowerChute Business Edition コンソールのデバ イリストフレーム上で削除したいサーバにカーソルを合わせ、右クリックで表示されるメニューオプションより[デ バイスの削除]を選択し、デバイスリストから削除してください。

デバイスリストの設定画面が表示されます。現在のデバイスリスト欄に、登録されているエージェントがインストールされているサーバー覧が表示されます。削除するサーバを選択し、「削除」を押します。

デバイスリストの設定	\otimes
デハイスリストの設定	\bigwedge
デバイスリストには、最高25台までの	UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、[適用]を クリックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト:
Windows	道加> (肖耶律 新規
<u>デバイス検出の設定</u>	適用(A) (キャンセル(C) (1/27(H)
T ハイスワストにによる音のデバイズがありま	×9°

② 検出されたデバイス欄に削除したサーバが表示されます。設定を反映するには「適用」を押してください。

デバイスリストの設定		\otimes		
デバイスリストの設定		$\boldsymbol{\mathcal{L}}$		
デバイスリストには、最高25台までのUPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、【適用】を 別ックして下さい。				
検出されたデバイス:		現在のデバイスリスト		
😢 Linux Windows	道加> < 削除 新規	ESXi Windows		
<u>デバイス検出の設定</u> 適用(<u>A</u>) (³ *)セル(<u>O</u>) ヘルフ (<u>H</u>)				
デバイスリストには2台のデバイスがあります。1を削除しました				

③ デバイスの削除が完了したら「閉じる」を押して設定画面を終了してください。

デバイスリストの設定
デバイスリストの設定
デバイスリストの変更が完了しました。詳細については以下のロケを参照して下さい。
♥ Linuxを正常I ニ肖l除しました。
変更(2 閉じる(2) ルフベビ)

8.4 サーバが自動検出されない場合の対処方法

デバイスリストへサーバを追加する際にサーバが自動検出されない場合は、項目1~3の確認・修正を行い、自動検 出が行われることを確認してください。項目1~3の確認で異常がなく自動検出が行われない場合は、項目4の手順 を実施してください。

- 1. デバイス検出の設定が正しく行われていることを確認してください。
 - ① [デバイス検出の設定]をクリックします。

デバイスリストの設定		×
デバイスリストの設定		$\boldsymbol{\ell}$
デバイスリストには、最高25台までのし	JPSデバイスを追加す クリックして下さい。	できます。変更が完了したら、[適用]を
検出されたデバイス:		現在のデバイスリスト
<u>こくの/つまた!!」の見供知</u>	道加> < 削除 新規	
<u>アハイス快圧の意味</u> デッパイスリストには0台のデッパイスがありま	्रम.	適用(A) (キャンセル(C) (ハルフペH)

② デバイス検出の設定ダイアログボックスが表示されますので、登録したいサーバが属している IP セグメントの登録されていることを確認してください(四角で囲まれた部分を確認します)。登録されていない場合には、「IP セグメント」を入力し、[追加]を押します。

デバイス検出の設定	\otimes
IPセゲメント:	検出するIPセゲメント数:(最大10)
<u>u</u> .u.u.*	172.16.1.0
追加(d)>	
削除(<u>R</u>)	
適用(<u>A</u>)	閉じる(C) ヘルプ(H)
<u></u>	

- 2. PowerChute Business Edition サーバがインストールされているマシンから、登録したいマシンに対して ping コ マンドを実行しネットワーク接続が確立していることを確認してください。
- 3. PowerChute Business Edition サーバに設定されている「ユーザ名」、「パスワード」と、追加する PowerChute Business Edition エージェントに設定されている「ユーザ名」、「パスワード」が同じものを使用しているか確認 してください。

「ユーザ名/パスワード」の確認方法

◆PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition コンソールを使用して対象サーバへのログインを行ってください。ログインで きない場合は入力したもの以外の「ユーザ名」、「パスワード」が設定されています。

◆PowerChute Business Edition エージェント

WebUI を使用して対象サーバにログインしてください(ログイン方法は「9 WebUI での操作」を参照してく ださい)。ログインできない場合は入力したもの以外の「ユーザ名」、「パスワード」が設定されています。

- 4. 以上1~3の確認において異常が見られない場合は、以下の手順にて追加してください。
- ① [新規] ボタンを押します。

デバイスリストの設定	\otimes
デバイスリストの設定	
デバイスリストには、最高25台までのし	UPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、[適用]を クリックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト
	道加> < 肖川除 新規
デバイス検出の設定	道用(A) (キャンセル(C) (ヘルフでH)
デバイスリストには0台のデバイスがありま	tə.

② "現在のデバイスリスト"欄に表示される「新規デバイス」に、追加するホスト名またはIPアドレスを入力してください。

デバイスリストの設定	\otimes
デハイスリストの設定	(
デハイスリストには、最高25台までのし	JPSデバイスを追加できます。変更が完了したら、「適用」を りリックして下さい。
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト
	道加> (新規デハイス) (< 削除) 新規
デバイス検出の設定	適用(A) (キャンセル(C) (ヘルフペ出)
テッパイスリストには1台のテッパイスがありま	す。1を追加しました

③ [適用] ボタンを押します。

デバイスリストの設定	\otimes	
デハイスリストの設定	(
デバイスリストには、最高25台までのし	JPSデンン゙イスを追加できます。変更が完了したら、【適用】を クリックして下さい。	
検出されたデバイス:	現在のデバイスリスト:	
	<u> 這加></u> < 肖/除 新規	
デバイス検出の設定		
	適用(A) キャンセル(C) ヘルフ(H)	
デバイスリストには1台のデバイスがあります。1を追加しました		

④ 以下の画面が表示されると追加は完了です。[閉じる] ボタンを押して終了してください。



8.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ

(1) 設定プロファイルアクセス失敗メッセージ

[デバイスリストの設定] ダイアログを開くときに PowerChute Business Edition サーバに設定プロファイルがない 場合、またはコンソールがプロファイルにアクセスできない場合には、次のようなメッセージが表示される可能性 があります。

メッセージ	説明
設定プロファイルが作成されていません。 デバイスを	設定プロファイルが存在していません。 プロファイルを作成する場合
デバイスリストに追加するには、設定プロファイルを作	は、[はい] をクリックして下さい。 プロファイルがないと、[デバイ
成する必要があります。 作成しますか?	スリストの設定]ダイアログを表示することはできません。
現在の設定プロファイルを取得することができません。	問題が解決しない場合は、「(5)通信障害関連メッセージ」を参照して
PowerChute Business Edition サーバからの応答があり	下さい。
ません。 もう一度実行しますか?	

(2) デバイスリスト設定ダイアログボックスのメッセージ

[デバイスリスト設定] ダイアログの使用時に表示される可能性があるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
デバイスリストの変更は適用されません。 本当に終了	デバイスリストに変更内容を適用する前に [キャンセル] がクリックさ
しますか?	れました。 [はい]をクリックすると、変更内容は破棄されます。
このサーバが管理するデバイスは不明です。	ダイアログボックスを閉じた後、再び開いて下さい。 それでも問題が
PowerChute Business Edition サーバからの応答があり	解決しない場合は、「(5)通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
ません。	
PowerChute Business Edition サーバから応答がありま	問題が解決しない場合は、「(5)通信障害関連メッセージ」を参照して
せん。 もう一度操作を行って下さい。	下さい。

(3) 検出過程のメッセージ

[検出の設定]ダイアログボックスを使って、検出手順時に検出する IP セグメントのリストを変更する際に表示される可能性のあるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
次の検出状態を設定できません: PowerChute Business	問題が解決しない場合は、「(5)通信障害関連メッセージ」を参照して
Edition サーバから応答がありません。 もう一度実行し	ください。
ますか?	
検出セグメントを判断できません。 PowerChute	問題が解決しない場合は、「(5)通信障害関連メッセージ」を参照して
Business Edition サーバから応答がありません。 もうー	ください。
度実行しますか?	
検出セグメントは10個までしか指定できません。	[検出の設定] ダイアログには、すでに PowerChute Business Edition
	が検出する IP セグメントが限度数まで指定されています。

(4) サマリの変更メッセージ

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
<ホスト名>からの応答がありません。	このシステムをもう一度追加してください。それでも問題が解決しない場合は、「(5)
	通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
<ホスト名>は、すでにデバイスリストに	システムはすでにデバイスリストに存在しています。
存在しています。	
<ホスト名>がデバイスリストにありませ	システムはデバイスリストからすでに削除されています。
ĥ٥	
<ホスト名>を追加しました。	このシステムをデバイスリストに追加しました。
<ホスト名>を追加できません: すでに<	このシステムは、他の PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに登録
サーバ名>が管理しています。	されています。 同じシステムを複数の PowerChute Business Edition サーバで監視す
	ることはできません。
<ホスト名>を追加できません: デバイス	デバイスリストには、すでに PowerChute Business Edition サーバのライセンスで許
の限度数に達しました。	可されている限度数までのシステムが追加されています。
<ホスト名>が見つかりません。	PowerChute Business Edition サーバは、このシステムを見つけることができません。
	システムが存在していない、システムがネットワークに TCP/IP で接続されていない、
	またはPowerChute Business Edition エージェントがシステムにインストールされて
	いない可能性があります。
<ホスト名>にログインできません。	このシステムの PowerChute Business Edition エージェントは、PowerChute Business
	Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していません。
<ホスト名>の追加に失敗しました。	このシステムをもう一度追加して下さい。 それでも問題が解決しない場合は、「(5)
	通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
設定プロファイルを<ホスト名>に適用で	一般的にこのメッセージは、サポートしていない UPS をシステムが使っていること
きませんでした。	を示しています。 ただし、設定プロファイルの適用時に該当するシステムがシャット
	ダウン中だったり、通信(UPS またはネットワーク)が失われた場合にも、このエント
	リが記録されることがあります。
<ホスト名>の削除に失敗しました。	このシステムを削除するために、設定ファイルにアクセスすることができません。
<ホスト名>を削除しました。	このシステムをデバイスリストから削除しました。
<ホスト名>は省略しました。すでにリス	同じシステムを複数定義しています。 たとえば、同じシステムをホスト名と IP アド
トに追加されています。	レスの両方で重複して指定しています。

メッセージ	説明
応答しないシステムがあります。 デバイ	すべての変更が成功した訳ではなく、デバイスリストは成功した変更内容だけを反映
スリストを更新します。	することを表しています。
デバイスリストの変更が完了していませ	すべての変更が完了しないまま終了しようとしています。 [はい] をクリックした場
ん。本当に終了しますか?	合、正しく変更が完了した設定だけが有効になります。
デバイスリストを更新します。	すべての変更を完了する前にダイアログボックスを終了した場合に表示されます。終
	了するまでに行った変更内容で、デバイスリストを更新することを表しています。

(5) 通信障害関連メッセージ

ー定期間内に PowerChute Business Edition エージェントが PowerChute Business Edition サーバに応答できない場合、または PowerChute Business Edition サーバが PowerChute Business Edition コンソールに応答できない可能性が考えられます。この問題には、次の原因が考えられます。

- ネットワーク輻輳やネットワーク障害により、通信が妨げられている。
 - 注意:ネットワーク輻輳が原因と考えられる場合は、[アプリケーションの設定] ダイアログボックスの [ネ ットワーク] タブにある [タイムアウト] の値を増やしてください(デフォルトは20秒)。
- 応答を受信する前に、ネットワーク通信切断の状態が発生した。
- PowerChute Business Edition エージェントが PowerChute Business Edition サーバへの応答に失敗した場合 は、次の各項目を確認してください。
 - システムが動作しており、正しくネットワークに接続されている。
 - システムに PowerChute Business Edition エージェントがインストールされ、正しく動作している。また、 エージェントが PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用している。

<PowerChute Business Edition エージェントサービスの動作状態を確認する方法>

(Windows の場合)

PowerChute Business Edition エージェントのサービス名は「APC PBE Agent」です。

このサービスの状態が"開始"になっていれば、サービスは動作中です。

[スタート] → [設定] でコントロールパネルを開き、「管理ツール」→「サービス」を選択してください。

(Linux / VMware の場合)

Linux サーバ / VMware サーバ上の vMA にインストールされた PowerChute Business Edition エージェントのサービスが動作している場合、下記ファイルが存在します。そのファイル内に記載されている番号が現在動作中の PowerChute Business Edition エージェントのプロセス ID です。

/etc/pbeagent.pid

PowerChute Business Edition エージェントが動作しているかどうかを確認するためには、kon コマンド等 によりコンソール画面で日本語表示が可能な状態にし、下記コマンドを実行してください。

cat /etc/pbeagent.pid

[PowerChute Business Edition が動作中の場合]

数字(PowerChute Business Edition のプロセス ID)が表示されますので、以下の例のように「ps (PowerChute Business Edition のプロセス ID)」コマンドを実行し、そのプロセスが存在しているかを確 認してください。

(例)

# cat	/etc/pb	eagent.pid		
1049				
#ps	1049			
PID	TTY	STAT	TIME	COMMAND
1049	?	Sl	0:09	/bin/java/jre/1.7.0_25/bin/java
-Dpicard.main.thread=blocking -classpath ./lib/AdvSnmp.jar:./lib/application.jar:,				

[PowerChute Business Edition が動作していない場合]

以下のようなエラーメッセージが表示されます。

cat: /etc/pbeagent.pid: そのようなファイルやディレクトリはありません

エラーメッセージが表示された場合は、下記コマンドにより PowerChute Business Edition がインストールされているかの確認も行ってください。

#rpm -q pbeagent

出力結果にパッケージ名が表示されない場合、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていません。

パッケージ名が表示された場合は、下記コマンドを実行して PowerChute Business Edition エージェントを開始させてください。

<Linux>

#/etc/init.d/PBEAgent start

<VMware>

sudo /etc/init.d/PBEAgent start

- PowerChute Business Edition サーバがPowerChute Business Edition コンソールへの応答に失敗した場合は、 次の各項目を確認してください。
 - PowerChute Business Edition サーバが正常に動作しており、ネットワークに正しく接続されている。
 - PowerChute Business Edition コンソールのホストが正しくネットワークに接続されている。

<PowerChute Business Edition サーバサービスの動作状態を確認する方法> PowerChute Business Edition サーバのサービス名は「APC PBE Server」です。 このサービスの状態が"開始"になっていれば、サービスは動作中です。 [スタート] → [設定] でコントロールパネルを開き、「管理ツール」→「サービス」を選択してください。

9 WebUI での操作

※各項目の設定変更および確認は PowerChute Business Edition コンソールから行うことを推奨します。 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合は、PowerChute Business Edition コンソールから選択するデバイスのプロパティ画面と WebUI でアクセスした画面は同じものになります。

本章ではLCDパネルなし Smart-UPS を使用している場合での WebUI の使用方法について説明します。 ブラウザを利用して各エージェントの設定を WebUI から直接行うこともできます。WebUI では、ローバッテリ信号 時間やセルフテスト診断スケジュール、各イベントアクションの設定などを行うことができます。

※ WebUIからエージェントにアクセスする際には、WindowsマシンにてInternet Explorer 8、9、10または11 を使用 してください。

≪注意事項≫

- 環境によっては、Internet Explorer(以下 IE と省略)の[ツール]-[インターネットオプション] にて下記項目の設 定を変更してください。
 - WebUI にて PowerChute Business Edition エージェントにアクセスできない場合があります。
 以下のいずれかの方法でセキュリティの設定を変更してください。
 <変更手順>

1)[インターネットオプション] - [セキュリティ] タブを選択します。

- 2) 以下のいずれかの方法でセキュリティの設定を変更してください。
 - "インターネット"を選択し、「このゾーンのセキュリティレベル」を『中』に変更。
 - "信頼済みサイト"の『サイト』ボタンを選択し、対象のサーバへアクセスするためのURL (https://<対象サーバのIP アドレス>)を入力し、『追加』ボタンにより登録してください。
 - 例) アクセスするサーバの IP アドレスが 192.168.0.3 の場合、"信頼済みサイト"には以下のように 登録します。

https://192.168.0.3

▶ セキュリティ設定にてアクティブスクリプトを無効にしていた場合、ログインできない場合があります。 アクティブスクリプトの設定は有効にしてください。

<変更手順>

1)[インターネットオプション] - [セキュリティ] タブを選択します。

- 2) "信頼済みサイト"の『レベルのカスタマイズ』ボタンを選択し、リスト内の[スクリプト]-[アクティブ スクリプト]を有効にてください。
- ▶ [Web ページで指定された色を使用しない]を有効にしていると、画面が正しく表示されない場合があります。[Web ページで指定された色を使用しない]の設定は無効にしてください。

1)[インターネットオプション] - [全般] タブを選択します。

2) 『ユーザー補助』 ボタンを選択し、 [Web ページで指定された色を使用しない] チェックボックスのマークを外します。

 ● Linux 環境上でブラウザを使用し、WebUI にてアクセスすることは未サポートです。
 Linux 環境にインストールされているエージェントにアクセスする場合は、WebUI を使用できる別マシン上で ブラウザを使用しアクセスしてください。

9.1 エージェントへの接続

ブラウザで「<u>https://IP アドレス:6547</u>」にアクセスします。

「IP アドレス」は、アクセスしたい PowerChute Business Edition エージェントの IP アドレスを指定してください。

※下記エラーメッセージが表示された場合は、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。

8	この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。
	この Web サイトで提示されたセキュリティ証明書は、信頼された証明機関から発行されたものではあ りません。 この Web サイトで提示されたセキュリティ証明書は、別の Web サイトのアドレス用に発行されたものです。
	セキュリティ証明書の問題によって、詐欺や、お使いのコンピューターからサーバーに送信される情報 を盗み取る意図が示唆されている場合があります。
	このページを閉じて、この Web サイトの閲覧を続行しないことを推奨します。
	※ このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)。
	● 詳細情報

この画面が表示されたら、エージェントに設定されている「ユーザ名」、「パスワード」を入力し、「ログイン」を押します。

		PowerChute Business Edition
PowerChute*		
PowerChute Business Editionに切	や	?
ユーザ名		
ለ አን-ド		
	шу ту	
	デバイスの設定を変更する場合は、PowerChute Business Editionコン	
	ソールを使用してください。このWebインターフェイスとPowerChute	
	すおそれがあります。	
		11

9.2 エージェントの設定

WebUI でエージェントに接続すると次の画面が表示されます。左側のメニュー(四角で囲まれた部分)を利用して、 接続された UPS の設定およびイベント発生時の動作設定等を行うことができます。

PowerChute Business Edition	PowerChute*	Smart-UPS 1500 RM
	›ኢ₸ムኢ₸፦ৡৢৢ৾৾৻৾৾ঢ়ৢ৾৾৾ৢ UPSシҳ₸ムኢ₸፦ৡৢ	7
Smart-UPS 1500 RM	デ ハイスステーシス オンライン 【連絡先情報	
▶サーバーシャットダウン 	連絡先の名前	
> 7° −900° > Λħ7°	更新	
 ▶ログアウト		

右上の「i」(矢印の箇所)をクリックすると、画面にヘルプ情報が表示されます。

PowerChute Business Edition	PowerChute*	Smart-UPS 1500 RM
	システムステータスサマリ	?
	UPSシステムステータス	
	デバイスステータス オンライン	
Smart-UPS 1500 RM	UPSの現在の動作状態です。	
→ サーバーシャットダウン	連絡先情報	
	連絡先の名前	
► 1^*7F	UPS保守担当の責任者名です。	
▶ 〒 [*] −夕□ク* 	システムの場所 システムが配置されている物理的な場所です。	
► \ 7°	· 审新	
> ログアウト	~**	

WebUIの各設定項目については、左側の各メニューを選択後に表示される画面で『?』を選択すると表示されるオン ラインヘルプも参照してください。



例として、WebUIで「OS シャットダウン時間」の値を変更する手順を次に示します。

「OS シャットダウン時間」とは OS がシャットダウンを開始してから、UPS が実際にサポートしている機器への電源供給を停止するまでの時間です。

LCD パネル付き Smart-UPS の場合、「OS シャットダウン時間」の項目は存在しません。

関連する設定項目は「コンセントシーケンス」になります。

詳細については、「10.2 シャットダウンの設定」および「10.3 コンセントシーケンス」を参照してください。

注意 : PowerChute Business Edition コンソールからは、[サーバシャットダウン]ー[シャットダウンシーケンス]で 表示される「OS シャットダウン期間」で設定します。

(詳細については「11 シャットダウンプロセスについて」を参照してください)

左側のメニューで[サーバーシャットダウン]ー[シャットダウンの設定]を選択すると以下の画面が表示されます。「設定」を選択してください。

で 2 アンスサマリ 	
を わえりマリー	
リスにかかる時間5万	
時間 2分	
実行する いいえ	
ウン時間 3 分	
গ্নের্গ ২৮৬৮৬৩০	
を有効にする はい	
持機(容量) 90 %	
持機(時間) 0分	
かにする いいえ	
5 Itu	_
	時間 2分 実行する いいえ うン時間 3分 かかがか を有効にする はい 時後(容量) 90% 時後(時間) 0分 いいえ 5 はい

「OS シャットダウン時間」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより値を選択します。選択可能な値は 使用している UPS に依存します。詳しくは UPS 添付のマニュアルを参照してください。

		Smart-UPS 1500 RM
PowerChute Business Edition	PowerChute*	M i
	システムシャッドウンの設定	?
	UPSバッテリ状態時間しきい値	
Smart-UPS 1500 RM	ローランタイムしきい値 5 🗸 分	
	□-バッテリ信号時間 2 ✔ 分	
▼サーバーシャットダウン シャットダウンの設定	OSのシャットギウン	
システムの設定 すぐにサーバをシャットダウン	90 OSシャットダウン時間 180 秒 270 900	
► 1^*7k	0Sシャットなウンタイプ 450 540 アン マ	
<u>▶</u> テ [*] -90 <i>0</i> *	UPS電源復旧時の設定 630	
	UPS电源後旧時の試E	

変更した後は画面下の「適用」ボタンを押してください。 注意:「適用」ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内容が反映されません。

PowerChute	PowerChute*	Smart-UPS 1500 RM
Business Edition		
	リステムシキットリンクの設定 UPSパッテリ状態時間して	5 红·值
Smart-UPS 1500 RM	ローフンダイムしさい1世	
▼ サーバーシャットダウン	山ーバッグリ信号時間	
シャットダウンの設定	(OSØንቀንዙንንን	
システムの設定 すぐにサーバをシャットダウン	OSシャットダウン時間	200 ▼ 秒
► 1^*>F	OSシャットタウンタイプ	シャパダウン 🗸
▶ データログ	UPS電源復旧時の設定	
► ^J,/7°	OSの再起動を有効にす	v 5t
→ログアウト	UPS再起動待機(容量) 🔍 🗸
	UPS再起動待機(時間) 0 1 秒
	E-Mail	
	E-Mail通知を有効にす	ta 🗆
	(३२७४७७न/₩	
	コマントウァイルを実行する	
	コマントファイル名の選択	コマンドファイルを選択してください
	コマントファイル実行時間	◎ ♥: ◎ ♥ 分: 秒
	(イベントの記録	
	イベントを記録する	Ø
		通用

「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。

			1924	Smart-UPS 1500 RM
PowerChute	BUSINESS EDITION			
business cartion	シャットダウンの設定			
	シャットダウンシーケンスサマリ			
Smart-HDC 1500 PM	シャットダウノシーケンスにかかる時	間5分		
	ローバッテリ信号時間	2 分		
▼ サーバーシャットダウン	コマントファイルを実行する	いいえ		
シャットダ [・] ワンの設定 シュテムの設定	OSシャットダウン時間	6分 🔶		
すぐにサーバをシャットダウン	OSシャットダウンタイプ	シャットダウン		
	OSの再起動を有効にする	はい		
▶ 1^* / ♪ > テ*-400*	UPS再起動待機(容量)	90 %		
	UPS再起動待機(時間)	0分		
▶ ∧ ₩7° 	E-Mailを有効にする	いいえ		
▶ ログアウト	ログを記録する	はい		
			設定	

9.3 イベントアクションの設定

各イベントのイベントアクションの設定は WebUI からのみ設定可能です。 左側のメニューの[イベント]ー[アクション]を選択し、各イベントのイベントアクションを設定します。

				Smart-UPS 1500 RI		
PowerChute Business Edition	PowerChute*			i 🕅 i		
	イベントアクション				?	
	重大	口がを記録する	E-Mail	コマンドファイル	シャットがウン	
	バッテリ状態時に通信切断	9			۲	
Smart-UPS 1500 RM	UPS内部温度しきい値超過	9			۲	
	<u>ローバッテリ状態</u>	9			۲	
<u>▶サーバーシャットダウン</u>	礬告	ロがを記録する	E-Mail	コマンドファイル	シャットダウン	
	<u> 電源障害</u>	9				
- 10 21	<u>パッテリ消耗状態</u>	9				
	<u>UPS通急荷</u>	9			۲	
U9*	<u>UPSセルフテスト失敗</u>	9				
70532	<u>通信切断</u>	9				
受信者	<u>通信なし</u>	٢				
巾がの設定	バッテリ状態しきい値超過					
======================================	<u>UPS負荷しきい値超過</u>	۵				
302	利用できるランタイム時間が不十分	۵				
	バッテリ交換要	۵				
> ^w)*	<u>UPS内部温度警報</u>	٥				
	AVR Boost有効	۵				
) ログアウト	AVR Trim有効	۵				
	<u>パッテリ切断</u>	۵				
	情報	ロがを記録する	E-Mail	コマンドファイル	シャットダウン	
	垂源回復	9				
	UPS過負荷状態解決	9				
	<u>UPS負荷しきい値内</u>	9				
	シャットダウンキャンセル	9				

例として、「バッテリ状態しきい値超過」の値を変更する手順を次に示します。

「バッテリ状態しきい値超過」とは、電源障害(停電など)が発生してから OS シャットダウンが開始されるまでの時間の設定値です。この値の詳細については「11.4.1 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)」を参照してください。

注意: PowerChute Business Edition コンソールでは「詳細項目の表示」チェックボックスをチェックしている状態で、[サーバシャットダウン]ー[電源障害]を選択して表示される画面の、「次が発生した後」で設定します。

[イベント]-[アクション]-[バッテリ状態しきい値超過]を選択し、必要な設定を行ってください。

PowerChute Business Edition	PowerChute'	and the second se		Smart- Mi	UPS 1500 F
	イベントアクション 重大	口がを記録する	E-Mail	コマントファイル	シャットダウン
	バッテリ状態時に通信切断	۵			۹
Smart-UPS 1500 RM	UPS内部温度しきい値超過	•			۲
	ローバッテリ状態	9			9
サーバーシャットダウン	警告	ロケを記録する	E-Mail	コマンドファイル	シャットがウン
	<u>電源障害</u>	9			
/^*?k	パッテリ消耗状態	•			
PA 2F	<u>UPS過負荷</u>	9			۲
09*	<u>UPSセルフテスト失敗</u>	٢			
709a)	通信切断	٢			
受信者	(第4年44)	۹			
10~の設定	バッテリ状態しきい値超過				
=*_hnh*	OPSICK COMMENDIN	٢			
7 - 7 11 /	利用できるランタイム時間が不十分	۲			
	<u>バッテリ交換要</u>	9			
NR)*	<u>UPS内部温度警報</u>	9			

「バッテリ状態時間しきい値」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより値を選択します。

PowerChute	PowerChute*	Smart-UPS 1500 RM
	バッテリ状態/さい値超過 (「小いの詳細	?
Smart-UPS 1500 RM	UPSがバッテリ状態になり、ユーザが設定した利用可能なバッテリ時間よりも短い時間しか残っていません。	
↓ サーバーシャットダウン	設定: パップリ状態時間しざい値	
▼1^^> ניים	トラックス思い相応してい値 3 ▼: 0 ▼ 方: 79	
7/33) 受信者	E-Mail送信を有効こする 🗌	

「バッテリ状態しきい値超過」イベントが発生したとき、シャットダウンを実行させるには「シャットダウン シーケンスの開始」チェックボックスにチェックします。

変更した後は画面下の「適用」ボタンを押してください。

注意:「適用」ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内容が反映されません。

PowerChute	PowerChute*	Smart-UPS 1500 RM
Business Edition	······································	2
	ハッナリ状態してい思想層	?
	11 J1 J	
Smart-UPS 1500 RM	UPSがパッテリ状態になり、ユーザが設定した利用可能なパッテリ時間よりも短い時間しか残っていません。	
 ▶サーバーシャットダウン	設定: バッテリ状態時間しざい値	
<u></u>	バラテリ状態時間しさい値 3 ✔ : 0 ✔ 分: 秒	
ロケ* アクション	E-Mail	
受信者	E-Mail送信を有効にする 🗌	
ログの設定 ▶ テ ^{゙ータログ}	(፲/ ፲	
► ^₩7°	コマントウァイルを実行する □	
	コマンドファイルを通訳 コマンドファイルを通訳してくたさい	~
, U) /) F	37ントウァイル実行所要時間 0_♥ : 0_♥ 分: 秒	
	5497(\$ ⁹ 7)	
	ንቀታትምንን፦ተንንአወ∰ነር 🔽	
	ለ ንክታ	
	ロゲを記録する	
	道用	

「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。

				Smart	-0PS 1500 R
PowerChute Business Edition	Business Edition				
	イベントアクション				
	重大	いを記録する	E-Mail	コマントワァイル	うわたかり
	バッテリ状態時に通信切断	9			9
Conset LIDE 1500 DM	UPS内部温度しきい値超過	9			9
Siliart-UPS 1500 KM	ローバッテリ状態	9			9
サーバーショット ガウン	警告	ロがを記録する	E-Mail	コマントウァイル	シャットダウン
9 A 2891902	<u>电源障害</u>	9			
4.154	パッテリ消耗状態	٢			
1 /r	<u>UPS過負荷</u>	٢			۲
<u>۵</u> ク*	<u>UPSセルフテスト失敗</u>	٢			
79532	通信切断	٢			
受信者	<u>通信なし</u>	٢			
11がの設定	バッテリ状態しきい値超過	٢			
_hnh	UPS負荷しきい値超過	٢			
707	利用できるランタイム時間が不十分	٢			
	<u>バッテリ交換要</u>	٢			
₩) ⁻	UPS内部温度警報	٢			
	AVR Boost 有效	٢			
ロクアワト	<u>AVR Trim有効</u>	٢			
	<u>バッテリ切断</u>	٢			
	情報	ロ5 を記録する	E-Mail	コマントウァイル	シャットダウン
	電源回復	٢			
	UPS通貨荷状態解決	9			
	<u>UPS負荷しきい値内</u>	9			
	シャットダウンキャンセル	9			

イベントアクションの設定として「E-mail 通知」を選択した場合、以下の設定が必要になります。設定に際しては「?」のオンラインヘルプを参照してください。

[イベント]ー[受信者]を選択し、「E-mail 受信者」を設定してください。

PowerChute Business Edition	PowerChute*		Smart-UPS 1500 RM
	イベントの受信者		?
Smart-UPS 1500 RM		<u>E-Mail受信者の追加</u>	
▶ サーバーシャットダウン			
0 夕*			
₽₽ション			
受信者			
りがの設定			

[サーバーシャットダウン]-[システムの設定]を選択し、「E-mailの設定」を設定してください。

<E-Mail 通知機能について>

- ・ 送信元 E-Mail アドレスに設定する情報は、E-Mail 通知された際の"From"に入る情報です。
- ・ E-Mail 送信を行う際、ベーシック認証が必要な場合は、「電子メールベーシック認証」にチェックを入れ、 ユーザ名、パスワードを設定してください。

PowerChute Business Edition	PowerChute' BUSINESS EDITION	an ang t	Smart-UPS 1500 RM
	システムの設定 (通信のタイプ		?
Smart-UPS 1500 RM	>クንንንን/ን/フ° スマート	~	
→サーバーシャットダウン シャットザウンの設定 システムの設定	デバイスの通信ポート 通信ポート COM1 マ		
すぐにサーバをシャットダウン	E-Mail@		
▶ 1^*>k ▶ 7*-909*	SMTPサーバ 送信元E-Mailアドレス		
▶ ^ ₩7°	電子メールベーシック認証 🗌		
לפֿילשֿי	サーバーのユーザー名 サーバーのパスワード パスワードの確認		
	連絡先情報 連絡先の名前		
	システムの場所		
		適用	

く参考>

LCD パネル付き Smart-UPS を使用し、PowerChute Business Edition コンソールから選択するデバイスのプロパティ 画面では、以下より E-Mail 通知機能を設定します。

[PowerChute	e]ー[電子メール] PowerChute Business Edition	設定]を選択します。 owerChute Business Edit ^{indows}	tion		্রি) 💟 www.apc.co.jp চি*°ধ7 / দি* ভেগ	クイックステータス 青報 ヘルフ°
	Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> የፃ ኑ ም ሳን	14件*-管理	ወታ	
Ē	電子メール設定	和 7.10設定 電子X-11設定				
	+ SMTPサーバー設定 *	SNNIF-設定 製品tンター				
-	+ 電子メール受信者の追加/	削除 *	2			
-	+ 電子メールベーシック認証					
-	+ 連絡先情報					
			適用			

[電子メール設定]の各項目を設定してください。

- ・ 発信電子メールアドレスに設定する情報は、E-Mail 通知された際の"From"に入る情報です。
- ・ 着信電子メールアドレスに設定する情報は、E-Mail 通知された際の"To"に入る情報です。
- ・ E-Mail 送信を行う際、ベーシック認証が必要な場合は、「認証を有効にする」にチェックを入れ、 ユーザ名、パスワードを設定してください。

PowerChute BUSINESS EDITION	PowerChute Business Windows	Edition		্ব্য) 🔮 १८४७२,२७२ www.apc.co.jp ঢ৫°४७ /४°-э̀°зン情報 ১৸७°
Smart-UPS 1200	PowerChute	ንየዛኑም ሳን	エネルギー管理	D⁄J*
電子メール設定				
- SMTPサーバー設定 *				
SMTPサーバー (ホスト名、	IPv4、またはIPv6)			
発信電子メールアドレス				
- 電子メール受信者の追	加/削除 *			
「着信電子メールアドレス	」フィールドに各電子メール受信者を1ß	ぽに1人ずつ追加して、[適月	用] を押します。追加できる電	そメールアト・レスの最大数は10です。
着信電子メールアドレス				
- 電子メールベーシック認証	E			
認証を有効にする				
サーバーユーザー名 (オプショ))			
サーバーハ°スワード <i>(</i> オフ°ショ))			
パスワードの確認				
+ 連絡先情報				
		適用		

セルフテスト診断スケジュール(実行頻度)はWebUIからのみ設定可能です。

左側のメニューの[UPS 機種] ー[診断]を選択し、診断スケジュールの「セルフテストの実行」にてドロップダウンメ ニューより選択し、設定します。

※セルフテスト診断スケジュールを「しない」に設定すると、定期的なハードウェア診断が行われないため、「しない」 以外に設定することを推奨します。

PowerChute Business Edition	PowerChute*			Smart-UPS 1500 RM
	診断の設定			?
	前回の診断結果			
▼Smart-UPS 1500 RM	セルフテストの結果	結果なし		
UPSステータス	セルテスト実施日	値が見つかりません		
エネルギー使用量	ランタイム較正結果	不明		
環境設定	ラッタイム較正実施E	「値が見つかりません		
診断	診断スケジュール			
▶サーバーシャットダウン 	セルフテストの実行	UPS起動時およびその後7日ごと 🗸	>	
▶ 1^*>F				
▶	「診断を開始する			
▶ \ ₩7°	診断内容の選択	未選択		
▶ ログアウト			適用	

く参考>

LCD パネル付き Smart-UPS を使用し、PowerChute Business Edition コンソールから選択するデバイスのプロパティ 画面では、以下よりセルフテスト診断スケジュールを設定します。

["UPS 機種名"]-[診断]を選択します。

PowerChute BUSINESS EDITION	PowerChute Business Windows	Edition		<()) 🔮 りイリクステータス www.apc.co.jp ログオフ パージョン情報 ヘルプ
Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> የዛ ዞ ም ሳን	エネルギー管理	ወን*
UPSステータス				
コンセントの設定				
⁻ W 7U管理 診断				
UPSIDE		オンライン (グ゛リーンモート゛)		
UPS負荷		10.0 %		

[セルフテストスケジュール]-[セルフテストの実行]にてドロップダウンメニューより選択し設定します。

mart-UPS 1200	PowerChute	579F9*97	IAN+*-管理	ወታ	
断					
መንテスト ステータス					
前回のセルフテスト実施日		不明			
前回のセルフテストステータス		成功			
ジタム較正のステータス					
前回のランタイム較正実施日		不明			
前回のランタイム較正のステータス		成功			
◎断を開始する					
診断内容の選択		未選択			
117771/m7/s*1-1					
10 初期セットアップ(LCD パネル付き Smart-UPS を使用する場合のみ)

LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合、PowerChute Business Edition エージェントインストール後、初め て「デバイスのプロパティ」画面にログインすると『初期セットアップ』が表示されます。 表示される画面に従い設定してください。

なお、ここで設定した値は後から変更できます。

- -10.1 コンセントの設定
- -10.2 シャットダウンの設定
- -10.3 コンセントシーケンス
- -10.4 スケジュールされたシャットダウン

各機能の画面を起動する際、セキュリティの警告メッセージや Internet Explorer に関するエラーダイアログなどが表示される場合があります。

対処方法については、「19.7 [エネルギー使用量]画面を表示する際に発生する現象について」を参照してください。

下記画面が表示されますので、[次へ]をクリックし、各項目の設定を行ってください。

PowerChute Business Edition (小)								
ようこそ		コンセントの設定		シャットダウンの設定		コンセントシーケンス		スケジュールされたシャットダウン
初期セットアップ								
次の画面で、必要な値を設定してシステムが適切に保護されていることを確実にすることができます。								
 変更を適用す 変更を元に戻 わ[°]ションが与え 	 変更を適用するには、「次へ」をクリックして下さい。変更が適用され、次の画面に進むことができます。 変更を元に戻すには、「キャンヒル」をクリックして下さい。この操作で、画面の変更を元に戻すか、初期セットアップを終了するかの れプションが与えられます。 							
シャットダウンの設定は	シヤットグウンの設定はシャットダウンメニュー項目を使用していつでも変更することができます。							
				キャンクル 次へ				

"シャットダウンの設定"完了後、"コンセントシーケンス"の設定や"スケジュールされたシャットダウン"の設定を行う 場合は、[詳細セットアップ]をクリックし設定を行ってください。設定は行わず、ここで終了する場合は[完了]をクリ ックしてください。

10.1 コンセントの設定

本画面では、PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンに電源供給するコンセントグループの設定やコンセントグループ名の設定を行います。

※本項目は、["UPS 機種名"]-[コンセントの設定]でも設定できます。

"UPS 機種名"の表示は使用されている UPS 機種により異なります。

PowerChute- BUSINESS EDITION	PowerCh Windows	ute Business Ed	ition			****	apc.co.j	ब्()) 🔮 १८५७२३-७२ jp ۵७°४२ ハ°-୬°३ン情報 ヘルフ°
ようこそ		コンセントの設定		シャットダウンの設定		コンセントシーケンス		スケシ 1-ルされたシャットダ ウン
初期セットアップ- コンセン	の設定							
PowerChuteI-ジェン	トガインストールされ	ጊ Ⴀいる コンセントクループマ	を選択して	て下さい。				
コンセントグループ ていることが予測され して別のコンセント コンセントグループ	1により、Pov れます。以下の グループに変す 1がPowerCh	verChuteエージェント Dチェックボックスを 更してください。 uteI-ジェントがインストールさ	がインス 選択して研 れたサーバ・	トールされているサー 確定するか、ドロップ - □	-バーに電源 ダウンボック	が供給され クスを使用		
PowerChuteI-ジェント セントグループを変更しま	どこで確認し がインストールされ; हす:	とすとい. とサーバーに電源を供給し	ているコン	Outlet Group 1	[~		
コンセントクッルーフ。の名前を	を設定して下	さい						
💋 コンセントグル	,ープ 1 名前 :			Outlet Group 1				
コンセントグル	,—プ 2 名前:			Outlet Group 2				
				キャンセル 次へ				

注意:コンセントグループ名に2バイト文字は使用できません。 コンセントグループ名に使用できる文字は「ASCII文字セット」のみであり、設定できる最大文字数は 16 文 字(16 バイト)です。

注意:メインコンセントグループとコントロールコンセントグループを保有する機種を使用時、PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンはコントロールコンセントグループから給電してください。

PowerChute Business Edition Windows	(1) ② 9/490ステータス www.apc.co.jp ログオフ パージョン情報 ヘルプ
ようこそ コンセントの設定	シャットゲックの設定 コンセントラークンス スクショールされたシャットゲックン
初期セットアップ- コンセントの設定	
PowerChuteI-ジェントがインストールされているコンセントクループを選択し	て下さい。
コンセントグループ 1により、PowerChuteエージェントがインス ていることが予測されます。以下のチェックボックスを選択して して別のコンセントグループに変更してください。	トールされているサーバーに電源が供給され 確定するか、ドロップダウンボックスを使用
コンセントグループ1がPowerChuteI-ジェントがインストールされたサーバ に電源供給していることを確認して下さい:	- 🗆
PowerChuteI-ジェントがインストールされたサーパーに電源を供給しているコ セントグループを変更します:	Outlet Group 1
コンセンドゲットープの名前を設定して下さい	
メインコンセントグループ 名前:	UPS Outlets
🌈 コンセントグループ1名前:	Outlet Group 1
	\$P724 次へ

PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンに電源供給しているコンセントグループを選択し、[次へ]をクリックします。

- <コンセントグループ1に設定する場合 (A)> "コンセントグループ1がPowerChute エージェントがインストールされたサーバーに電源供給していること を確認してください"にチェックを入れてください。
- <コンセントグループ1以外に設定する場合 (B)>

"PowerChute Business Edition エージェントがインストールされたサーバーに電源供給しているコンセント グループを変更します"のドロップダウンメニューから、コンセントグループ名を選択してください。

PowerChute Business Edition Windows		www.apc.co	র্ৣা) 🔇 १९४७२३-७२ ୬.jp ৫५°४७ ハ°-৬°३ン情報 ヘル७°
ようこそ コンセントの設定	シャットダウンの設定	コンセントシーケンス	スケシ 1-ルされたシャットケ ウン
初期セットアップ- コンセントの設定			
PowerChuteI-ジェントがインストールされているコンセントクループを選択して	て下さい。		
コンセントグループ1により、PowerChuteエージェントがインス ていることが予測されます。以下のチェックボックスを違択して して別のコンセントグループに変更してください。 コンセントグループ1かPowerChuteI-ジョントがイルトールされたサーバ に電源供給していることを確認して下さい: PowerChuteI-ジョントがイルトーとれたサーバーに電源を供給している センゲパープを変更します:	トールされているサーバー 龍定するか、ドロップダウ: ✓ Outlet Group 1	に電源が供給され ンポックスを使用 (A)	• (B)
コンセントグループの名前を設定して下さい			
🌈 コンセントグループ1名前:	Outlet Group 1		
コンセントグループ2名前:	Outlet Group 2		
	\$P7把 次へ		

10.2 シャットダウンの設定

本画面では、電源障害時のシャットダウンの設定やシャットダウンに関する設定を行います。 ※本項目は、[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]でも設定できます。

> ※重要 <「OS がシャットダウンする時間」に設定する値について> この値は、OS シャットダウン開始後、UPS からの電源供給が停止するまでの時間についての設 定項目になります。この値を設定する前に実環境のサーバを使用して、OS がシャットダウンに 要する時間を何回か測定し、その結果を<u>十分に超える値</u>を設定してください。 この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS からの電源供給が停止され、システムに重 大な障害が発生する可能性があります。

PowerChute- BUSINESS EDITION	PowerChute Bus Windows	iness Edition			www.apc.co.	╣) 🔮 クイックステータス jp ログオフ バージョン情報 ヘルフ°
ようこそ	אנאנב	の設定	シャットダウンの設定	-נאנאנב	-522	スケシャコールされたシャットケックン
刃期セットアッフ°-シャット	ダウンの設定					
- 電源障害設定						
電源障害時のシャットダ	92開始:					
○ 即時						
 UPSのバッテリ運軌 	动次の時間経過後		60 秒			
○ ランタイム制限で			120 秒			
○ 電源障害時にシャゥ	リトダウンせず					
- OSとアプリケーションのシ	ቀቃ ኑ ም ሳን					
OSがシャットダウンする眠	5目	18	0 秒			
必要な場合は、OSの	ンシャットダウンに先立ち、コマ	ンドファイルを使用して	ー アプリケーションをシャットダウンでき	きます。		
コマンドファイルの選択		未選択	₹ ▼ 771			
- シャットダウンサマリ						
電源障害が発生した。 シャットダウンプロセスは、U	ときは: PSが 60 秒間パッテリ運転	した後に開始します	す 。			
続いて:						
0 秒	OS>pyly	ウンの開始				
180 秒	PowerChu コンセントグルー	iteI-ジェントに電源供 プOutlet Group 2 ヨ	給しているコンセントグループ(も、コンセントシーケンス画面を介!	Outlet Group 1 の電源 して設定された待機時	わ 間に基づいて電	遠原わになります
電源が復旧したとき(ะเส :					
続いて:						
0 秒	PowerChu ጋንጀንት/ን*ル-	iteIージェントに電源供 プ Outlet Group 2 ヲ	給しているコンセントグループ も、コンセントシーケンス画面を介し	Outlet Group 1 の電源 して設定された待機時	わ 間に基づいて電	源わになります
 注: 電源障害設定のの合計(180秒)を 	選択にかかわらず、残 下回った場合、安全なき)のUPSランタイム /ヤットダウンに十	がアプリケーションおよ 分な時間を確保するため	でオペレーティングう 、即時シャットダウン	システムのシャ が実行されます	ットダウンに設定された時間 す。
		\$4)76%	「 完了」 詳新	ቲካ ኮም ሃፓ°		

10.3 コンセントシーケンス

各コンセントグループの電源オン/オフ、また電源オフシーケンスに含めないなどの設定ができます。 ※本項目は、[シャットダウン]-[コンセントシーケンス]でも設定できます。

緑色のアイコンが表示されているコンセントグループは、「10.1 コンセントの設定」で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループとして設定したものです。

PowerChute Business Edition Windows	(1) ⁽¹⁾ ∮外9237-93. www.apc.co.jp ⅅク*オ7 Å*→>*3>指報 ヘ&>*	PowerChute DUINES COMM	rChute Business Edition		www.apc.co.jp	()) 🔮 949935-9 D9°77 №-9°37情報 へい
ようこそ ひかりの設定 シャットダかの設定	コンセントラークンス スクシャコールされたシャットグ クン	5327	コンセントの設定	シャットダウンの設定	גרד-לאנשרב	スケジュールされたシャットダウン
初期セットアップ。- コンセントシーケンス		初期セットアップ - コンセントシーケンス				
	Outlet Group 1 Outlet Group 2 +++ ひとわ ひとわ				তutlet Group 1 Outlet Group 2 •••• ্যস্টাগ্য ্যস্টাগ্য	7
☑ AC商用電源復旧時にすべてのコンとトグループを自動的に電源わ		☑ AC商用電源復旧時にすべて	このコンセントグループを自動的に電源オ:	>		
Outlet Group 1 👌 Outlet Group 2		Outlet Group 1 👌 Out	det Group 2			
👌 このコンセントグループは電源オンシーケンスに含まれています		() このコンセントグループを電源	見わう-かんに含める:	2		
3)わかっつの電源れ時間		1)かいパー-2*の示道17時期				
他のアプリターションがシャャトダクンする時間: OSがシャャトダウンする時間: 1	0 19 80 19	経過後コンセントゲループの	電源打:		90 秒	
コンセントグ ループ からゃットゲ か)する合計時間: 1	80 AD	コンセントケットープ電源わまでの時間	8			
コンシャプープ電源わまでの時間		コンセントケパーフ [®] がれの状	懇を続ける最小時間:		8 10	
ジビンドゲーアがわの状態を続ける最小時間:	8 89	☆ギ 他のコンセントグループを待	機:		90 秒	
コンセントゲルーアの電源をわたする前に必要な最小パッテリリンタイム:	0 秒	コンセントグループの電源を	わにする前に必要な最小バッテリラン	91b :	0 秒	
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源れのシーケンスを決めます:	0 189	この追加待機時間を修	ž用してコンセントグループの電源れのシー	-かえを決めます:	0 秒	
				キャンUA 次へ		

各種設定項目について

ーAC 商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン:

電源障害回復時に全てのコンセントグループを自動的に電源オンする場合はチェックを入れてください。 ※本設定値は、全てのコンセントグループ共通の設定項目です。

ーこのコンセントグループを電源オフシーケンスに含める:

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生後、該当のコンセントグループを電源オフにする場合は チェックを入れてください。

※チェックを入れない場合は、スケジュールシャットダウン後も該当のコンセントグループは電源オフになり ません。

また、電源障害発生時、全てのコンセントグループが電源オフとならないため、UPS はバッテリ稼動し続けます。

■コンセントグループの電源オフ時間

ー他のアプリケーションがシャットダウンする時間:

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生してから OS シャットダウンが開始されるまでの時間の設定です。

コマンドファイルを実行する場合は"シャットダウンの設定"にて設定してください。

-OS がシャットダウンする時間:

OS シャットダウン開始から該当のコンセントグループが電源オフ(電源供給を停止)するまでの時間です。

-経過後コンセントグループの電源オフ:

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生してから、"他のアプリケーションがシャットダウンす る時間"経過後に該当のコンセントグループが電源オフ(電源供給を停止)するまでの時間です。

■コンセントグループ電源オンまでの時間

ーコンセントグループがオフの状態を続ける最小時間:

コンセントグループが電源オフ後、本設定時間が経過するまで全てのコンセントグループは電源オンになり ません。

他のコンセントグループを待機する必要がある場合は、"他のコンセントグループを待機"が表示されます。

ーコンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム:

コンセントグループが電源オフ後、UPS のランタイム時間が本設定値になるまで該当のコンセントグループは電源オンになりません。

ただし、UPS のランタイム時間が本設定値を満たしていない場合であっても、UPS のバッテリ容量が 95% 以上になるとコンセントグループは電源オンとなります。

-この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます:

"コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間"の設定時間経過後、本設定時間が経過すると該当のコン セントグループは電源オンとなります。

10.4 スケジュールされたシャットダウン

スケジュールシャットダウンの設定ができます。

※本項目は、[シャットダウン]-[スケジュールされたシャットダウン]でも設定できます。

設定方法は「12.2 LCD パネル付き Smart-UPS の場合」を参照してください。

11 シャットダウンプロセスについて

PowerChute Business Edition を使用したシャットダウンプロセスは大きく分類すると以下の3通りです。

- ースケジュールによるシャットダウンプロセス
- 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)

- 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタイム重視」の場合)

これらのシャットダウンプロセスの機能を使用するには、PowerChute Business Edition にて適切な値が設定されてい なければなりません。システム環境により、シャットダウンに要する時間やバックアップ時間 (UPS がバッテリ電源 を供給できる時間) が異なりますので、環境ごとに適切な値を設定しなければなりません。

※ 適切な値が設定されていない場合、OS のシャットダウン処理が正しく終了する前に UPS からの電源供給が停止 し、その結果、システムに重大な障害が発生することがあります。

スケジュールシャットダウン、および電源障害時のシャットダウン処理は「11.1 シャットダウンシーケンスの設 定」にて設定した内容に従って行われますので、「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」は必ず行ってください。 なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。

11.1 シャットダウンシーケンスの設定

11.1.1 LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合

PowerChute Business Edition によりシステムのシャットダウン処理が開始された場合のシャットダウン処理の流れ は以下のようになります。



 シャットダウンシーケンスの設定は、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン] -[シャットダウンシーケンス]を選択した以下の画面から設定を行います。

以下の画面は、現在設定されているシャットダウンシーケンスの設定内容になります。

- ・コマンドファイルは設定されていません(無効)
- ・OS シャットダウン待機時間は1分
- ・OS シャットダウン期間は3分

設定を変更するためには「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。

<i>ϝ·</i> ϧ·ϯ ; ϣ;·ʹ <mark>ͷϧ·</mark> ϝ _ϯ	\otimes
Windows	\sim
 □ - 全般 ホスト/ UPS 情報 一管理者情報 - UPS のD 情報 - UPS ステータス - パッデリステータス - 電源パトラム- 電源パトラム- ロトパントットダウン - 電源障害 - シャットダウンタイプ - ジャットダウンタイプ 2 該断係 	<u>データの更新</u> <u>テータの更新</u> うャットタ・ウンシーケンス 「待機時間(分) 期間(分) コマントファイル 気効 300 300
 ● ログファイル ● 通信 「○ 詳細項目の表示 	<u>シャッピゲウンシーゲンスの設定</u> 適用(A) 間じる(Q) (NH7(H)
準備完了。	

② 「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウが表示されます。最初にOSシャットダウンを行う前に実行させるコマンドファイルの選択をします。特にコマンドファイルを実行させる必要がない場合は「なし」を選択してください。

シャットダウン	シーケンスの	設定 🛛 🛞
Power	Chute	コマントウァイルの設定
BUSINESS		選択されたコマントファイルは、 OSシャットタウンの前に実行されます。
		<u> </u>
rið rið	-	コマントファイルを選択してください。
12	-	
nin Nin	4	なし 近
64	10	test.cmd
	_	
<u> </u>		<u>次へ(N)</u> 開じる(<u>C</u>)

注意: コマンドファイルは、PowerChute Business Edition エージェントのインストールフォルダ内にある cmdfiles フォルダ内に作成してください。なお、作成方法は同フォルダ内の default.cmd (Linux/VMware の場合は、 default.sh)を参考にしてください。

また、OSや実行するコマンドファイルによって以下の設定が必要となります。

<Windows の場合>

対話型プログラムを実行する場合は以下の設定を行ってください。

- 1. [管理ツール] [サービス]を表示し、「APC PBE Agent」サービスを選択し、右クリックのメニューから「プロパティ」を選択。
- 2. "ログオン"タブを選択して、「デスクトップとの対話をサービスに許可」のチェックボックスをオンにします。
- 3. 「適用」ボタンを押し、「OK」ボタンを押します。
- <Linux/VMware の場合>

コマンドファイルを作成する場合は root 権限にて行ってください。<u>また、設定したコマンドファイルには必</u> <u>ず実行権限を与えておいてください。(例</u>: chmod 700 cmd.sh)

※ root の実行権以外のパーミッションは、使用している環境に合わせて設定してください。

コマンドファイルは「コマンドファイルのディレクトリ」をクリックして表示されるメッセージウィンドウのフォルダに格納されているものが表示されます。



ここでは例として「test.cmd」をコマンドファイルとして設定します。コマンドファイルを選択したら「次へ」ボタンを押します。

また、「テスト」ボタンをクリックすると選択しているコマンドファイルのテストが出来ます。



③ 次は「コマンドファイル」および「OS シャットダウン」に関する待機時間、および期間の設定を行います。なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。また、待機時間、期間の説明は「ヘルプ」ボタンを押して表示されるシャットダウンシーケンスの設定の「待機時間と期間の指定方法」を参照してください。



前のコマンドファイル選択画面において、コマンドファイルを設定していた場合、上記のような画面表示になり ます。コマンドファイルの選択画面にて「なし」を選択していた場合、上記画面において「コマンドファイル」 が表示されません。

「待機時間」、「期間」は表示されているバーグラフの、各「バー」をマウスのドラッグ操作等により設定します。 設定した内容は下の「待機時間」、「期間」の欄に表示されます。

また、(a)にて時間設定をする対象(OS または、コマンドファイル)を選択し、(b)にて「待機時間」、(c)にて「期間」をそれぞれ「▲」や「▼」ボタンを押すことで設定することもできます。

※重要 <OS シャットダウンの「期間」に設定する値について> この値は、OS シャットダウン開始後、UPS からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目に なります。この値を設定する前に実環境のサーバを使用して、OS がシャットダウンに要する時間を何回 か測定し、その結果を<u>十分に超える値</u>を設定してください。 この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS からの電源供給が停止され、システムに重大な障害 が発生する可能性があります。

- 注意:シグナリングタイプが「シンプルシグナル」の場合、OS シャットダウン期間が"5分"で固定されていますが、 実際には無効な値となります。
- 注意: OS シャットダウン待機時間の値は「コマンドファイル待機時間」、「コマンドファイル期間」に設定した時間 も加えられます。

④ 設定を終えたら「次へ」ボタンを押してください。



⑤ 「完了」ボタンを押して「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウを閉じます。

シャットダウン	パシーケンス	の設定 🛛 😣
		シャットタウンシーケンスの変更が完了しました。ウィサ [、] トを 閉じるには、「完了」 ボタンをクリックして下さい。
<u>^#フ~[</u>	Ð	展る(1) 完了(F) (4) /th(G)

⑥ 設定した内容が正しく反映されているかを確認してください。
 反映されていない場合は、"データの更新"をクリックし情報を更新してください。

 → ホスト/ UPS1情報 → ロアSAT→Aス → パッテリステータス → パッテットがウン → アメント・アメス → アメント・ファイル → ロシアンテイル ⊕ 通信 → 回信 → ロシークシーク → ロシーク → → ロシーク → → →	般 ホスト/ UPS情報 - *ロメト/ UPS情報 - *UPSのD/情報 - UPSのD/情報 - UPSステータス - パッテリステータス - ポッテリステータス - ************************************
イグンネールシャットメッソノ 電源障害 1マントファイル 0:00 1:00 シャットメウンタイプ OS 3:00 6:00 日・通信 シャットメウンシーケンスの設定	ったい、 小、 小筋筋、 「可能可能」 (カノー 一)の(の)の(の) (カノー
 → シャットダウンタイプ ● 25断 ● ロクファイル ● 通信 	- 電源障害 1:00 1:00
日・話町 日・ログファイル 日・通信	- シャットダウンタイプ OS 3:00 6:00
	#*** *** <u>******************************</u>

11.1.2 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合(コントロールコンセントグループのみを有する機種)

LCD パネル付き Smart-UPS では、コンセントグループ単位に電源供給の停止、開始を実施できます。 PowerChute Business Edition によりシステムのシャットダウン処理が開始された場合のシャットダウン処理の流れ は以下のようになります。

※下記図は、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループを「コンセントグループ1」に設定した場合の流れになります。



① 「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]を選択します。

以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。 なお、各設定項目の詳細は、「10.3 コンセントシーケンス」を参照してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute		<u>>79}9</u> *97	ルギー管理	D少*
			初期セットアップ		
UPSステータス			シャットダウンの設定		
			スケジュールされたシャットダウン		
- >X76X7-9X			コンセントシーケンス		
			負荷制限機能	1	
デノレ゙イスステータス		オンライ	コンセント管理		
UPS負荷		7.5	直ちにシャットダウンする		

② <コンセントグループ1の設定>

以下の画面は、現在設定されているコンセントグループ1の設定内容になります。

- ・コマンドファイルの選択:未選択
- ・ OS がシャットダウンする時間: 180 秒

Smart-UPS 1200	PowerChute	ን ፣ ም/ም ሳን	Ⅰ祝キ*-管理	ው
ヤットダウンの設定				
- 電源障害設定				
電源障害時のシャットダウン	開始:			
○ 即時				
 UPSのパッテリ運転が 	が次の時間経過後	60 秒		
○ ランタイム制限で		120 秒		
○ 電源障害時にシャット	ダウンせず			
- OSとアプリケーションのシャ	11-5" ウン			
OSがシャットダウンする時間	5	180 秒		
必要な場合は、OSのシ	ヤットダウンに先立ち、コマンドファイルネ	を使用してアプリケーションをシャット	ダウンできます。	
コマント、ファイルの選択		未選択 ▼ テス		
- シャットダウンサマリ				
電源障害が発生したと シャットダックンプロセスは、UPS	きは: Sが 60 秒間バッテリ運転した後に	開始します。		
続いて:				
0 秒	OSシャットダウンの開始			
180 秒	PowerChuteI-ジェン]ンセントグループ Outlet	トに電源供給しているコンセント Group 2 も、コンセントシーケンス画	ゲループ Outlet Group 1 の電源わ 面を介して設定された待機時間に	基づいて電源れになります
電源が復旧したときに	la :			
続いて:				
0 秒	PowerChuteI-ジェン コンセントグループOutlet	トに電源供給しているコンセント : Group 2 も、コンセントシーケンス画	がループ Outlet Group 1 の電源わ 面を介して設定された待機時間に	基づいて電源かになります
注: 電源障害設定の 適合計 (180 秒) を下	訳にかかわらず、残りのUPS 回った場合、安全なシャットを	ランタイムがアプリケーシ: ブウンに十分な時間を確保す	ョンおよびオペレーティングシス るため、即時シャットダウンが3	テムのシャットダウンに設定された時間 行されます。
		適用		

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生後、OS シャットダウンが開始されるまでにコマンドファイルを実行する場合は、コマンドファイルを選択し、実行時間を設定してください。

※システムのシャットダウンを開始するイベントが発生してから OS シャットダウンが開始されるまで 待機時間を設けたい場合は、ダミーのコマンドファイルを設定してください。 この項目はコンセントシーケンスでは、"他のアプリケーションがシャットダウンする時間"として表示 されます。

OS シャットダウン開始から該当のコンセントグループが電源オフするまでの時間を設定するには、「OS がシャットダウンする時間」を設定してください。

※重要 <「OS がシャットダウンする時間」に設定する値について> この値は、OS シャットダウン開始後、UPS がコンセントグループへの電源供給を停止するまでの時間に ついての設定項目になります。この値を設定する前に実環境のサーバを使用して、OS がシャットダウン に要する時間を何回か測定し、その結果を<u>十分に超える値</u>を設定してください。 この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS からの電源供給が停止され、システムに重大な障害 が発生する可能性があります。

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> ቀቃኑ ም ሳን	1补注"一管理	ወታ
ヤットダウンの設定				
- 電源障害設定				
電源障害時のシャットダウン8	開始:			
○ 即時				
 UPSのパッテリ運転が 	次の時間経過後	60 秒		
		120 税		
 ・ 一 一 一 原原書時にシャットタ 	[∞] 9>せす"	120 12		
へらとアプリレケーションのシャル	አ ምሳን			
	<i>//</i> 7/			
OSがシャットダウンする時間		300] 秒		
必要な場合は、OSのシャ	ットダウンに先立ち、コマンドファイル	を使用してアプリケーションをシャット	ダウンできます。	
コマンドファイルの選択		test.cmd 🗸 7λ	4	
コマンドファイルを実行するの	に必要な時間	60 秒		
- シャットダウンサマリ				
電源障害が発生したとき シャットダウンプロセスは、UPS	き は: が 60 秒間バッテリ運転した後に	「開始します。		
続いて:				
0 秒	コマント、ファイル実行の開	始		
60 秒	OSシャットダウンの開始	1		
360 秒	PowerChuteI-ジェ コンセントグループOutle	ットに電源供給しているコンセント t Group 2 も、コンセントシーケンス画	ゲループ Outlet Group 1 の電源ボ 面を介して設定された待機時間	フ lに基づいて電源わになります
電源が復旧したときには	t:			
続いて:				
0 秒	PowerChuteエーシ゛ェ コンセントグ゛ルーフ゜Outle	ントに電源供給しているコンセント t Group 2 も、コンセントシーケンス画	がループOutlet Group 1 の電源が 面を介して設定された待機時間	ッ に基づいて電源かになります
 注:電源障害設定の選邦の合計(360秒)を下回 	沢にかかわらず、残りのUPS コった場合、安全なシャット/	ランタイムがアプリケーショ ダウンに十分な時間を確保す	ョンおよびオペレーティングシ. 「るため、即時シャットダウンた	ステムのシャットダウンに設定された時間 が実行されます。

適用

③ [シャットダウン]-[コンセントシーケンス] を選択します。

Smart-UPS 1200	PowerChute		۶۴୬ŀダ [°] Ŷ	∦*-管理	ወታ*
			初期セットアッフ°		
UPSステータス			シャットダウンの設定	I	
			スケジュールされたシャットダウン		
- システムステータス			コンセントシーケンス		
			負荷制限機能		
デノレ゙イスステータス		オンライ	コンセント管理	I	
UPS負荷		7.5	直ちにシャットダウンする	J	

④ ②項で設定した内容が「コンセントグループの電源オフ時間」に反映されていることを確認します。 また、必要に応じて「コンセントグループ電源オンまでの時間」を設定してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute	ንየፃ ŀ ም`ሳን	エネルギー管理	ወታ	
コンセントシーケンス					
		//	+++ Outlet	Group 1	
++++++++- 0 1:00			++ Outlet	Group 2	
☑ AC商用電源復旧時にす	すべてのコンセントグループを自動的	に電源わ			適用
Outlet Group 1	Outlet Group 2				
😃 このコンセントグループ(;	は電源オフシーケンスに含まれていま	्र			
コンセントケットーフ。の電源れて時間	間				
他のアプリケーションが	シャットダウンする時間:		60 秒		
OSがシャットダウンす	る時間:		300 秒		
コンセントクベルーフ° ガジャ	ットダウンする合計時間:		360 秒		
コンセントクッルーフ。電源れンまでの	の時間				
	の状態を続ける最小時間:		8秒		
コンセントク゛ルーフ゜の電	源をわにする前に必要な最小	いい ッテリランタイム :	0秒		
この追加待機時間	間を使用してコンセントグループの電	፤源わのシーケンスを決めます:	0秒		

⑤ <コンセントグループ2の設定>

次にコンセントグループ2に関する設定をしてください。

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生してから、"他のアプリケーションがシャットダウンする時間"経過後に、該当のコンセントグループが電源オフ(電源供給を停止)するまでの時間を設定するには、「このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める」にチェックを入れ、「経過後コンセントグループの電源オフ」を設定してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ንየፃኑም ሳን</u>	I\$N\$°	-管理	ወታ	
<u>コンセントシーケンス</u>						
		-4/	·	Outlet Gro	up 1	
*****	···-	//	ć+++	Outlet Gr	oup 2	
0 1:00		6:00	0	+++ 37621432	3262147	
☑ AC商用電源復旧時に	すべてのコンセントグループを自動的	に電源わ				
Outlet Group 1	Outlet Group 2					適用
ひ このコンセントグループ	を電源わシーケンスに含める:					
コンセントクッルーフ。の電源れて時	間		\mathbf{O}			
経過後コンセントグル	-プの電源わ:		180	2		
コンセントグットーフ。電源わまで	の時間					
	7の状態を続ける最小時間:		8	秒		
☆― 他のコンセントグルーブ	。を待機:		120	秒		
コンセントグッルーフ。の東	意源をわにする前に必要な最小	J\`୭テリランタイム:	0	秒		
この追加待機時	間を使用してコンセントグループの電	源わのシーケンスを決めます:	0	秒		

⑥ 設定を反映するためには、[適用]ボタンを押してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> የሃኑዎ [*] ሳን	I\$N\$*	-管理	0	Ŋ°
])4) }- 5)7						
		-//	<u></u>	Outlet Gro	oup 1	
•••••		//	ć+++	Outlet Gro	up 2	
0 1:00		6:00	0	+++ 3262142	3262147	
✓ AC商用電源復旧時に	すべてのコンセントグループを自動ヒ	日に電源わ				
Outlet Group 1	Outlet Group 2					通用
じ このコンセントグループ	は電源オフシーケンスに含まれていま	ţţ				
コンセントケットフ。の電源わ時	間					
他のアプリケーションカ	シャットダウンする時間:		60	秒		
OSがシャットダウンす	る時間:		300	秒		
コンセントグ ルーフ ガシ	アットダウンする合計時間:		360	秒		
コンセントグリーフ。電源れたで	の時間					
☆ [≪] コンセントグ [™] ーフ [®] がオ	の状態を続ける最小時間:		8	秒		
コンセントグ ルーフ の貫	調をわにする前に必要な最小	いい ッテリランタイム :	0	秒		
この追加待機時	間を使用してコンセントグループの電	1源わのシーケンスを決めます:	0	秒		

く参考>

各コンセントグループの電源オンに関する設定は、"コンセントグループ電源オンまでの時間"にて設定します。

適用

60 秒	
300 秒	
360 秒	
8秒	
0秒	
60 秒	
	60 秒 300 秒 360 秒 (0) 秒 (0) 秒

コンセントグループの各設定内容は、画面上部のグラフ上に時系列で表示されます。

コンセントシーケンス



11.1.3 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合(メインコンセントグループを有する機種)

LCD パネル付き Smart-UPS では、コンセントグループ単位に電源供給の停止、開始を実施できます。 但し、メインコンセントグループを有する機種は、メインコンセントグループのオン/オフに伴い、UPS(コントロー ルコンセントグループ含む)もオフ/オンします。

PowerChute Business Edition によりシステムのシャットダウン処理が開始された場合のシャットダウン処理の流れ は以下のようになります。

※下記図は、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループを「コンセントグループ1」に設定した場合の流れになります。



① 「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]を選択します。

以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。 なお、各設定項目の詳細は、「10.3 コンセントシーケンス」を参照してください。

Smart-UPS 1500	PowerChute		>pylysoj	₩+*-管理	ወታ*
			初期セットアッフ°		
UPSステータス			シャットダウンの設定		
			スケジュールされたシャットダウン		
- システムステータス			コンセントシーケンス		
			負荷制限機能		
ም . ኪ. የአሄድ - እን		オンライ	コンセント管理		
UPS負荷		6.5	直ちにシャットダウンする		

② <コンセントグループ1の設定>

されます。

以下の画面は、現在設定されているコンセントグループ1の設定内容になります。

- ・コマンドファイルの選択:未選択
- ・ OS シャットダウンに要する時間: 180 秒

Smart-UPS 1500	PowerChute	<u>ን</u> የሃ ት ም ሳን		ወታ*
シャットダウンの設定				
- 電源障害設定				
電源障害時のシャットダワン	開办台:			
○ 即時				
 UPSのパッテリ運転が 	次の時間経過後	60 秒		
○ ランタイム制限で		1200 秒		
○ 電源障害時にシャットタ	~ りンせず			
- OSとアプリケーションのシャッ	ŀ9``^)			
OSがシャットダウンする時間		180 秒		
必要な場合は、OSのシャ	ットダウンに先立ち、コマンドファイルマ	を使用してアプリケーションをシャット	ダウンできます。	
コマンドファイルの選択		未選択 🔽 テス		
- シャットダウンサマリ				
電源障害が発生したとき シャットダウンプロセスは、UPS	きは: が 60 秒間バッテリ運転した後に	開始します。		
続いて:				
0 秒	OSシャットダウンの開始			
180 秒	PowerChuteI-ジェン コンセントグループ UPS (ートに電源供給しているコンセント Dutlets も、コンセントシーケンス画面	がループ Outlet Group 1 の電源オフ を介して設定された待機時間に碁	きづいて電源わになります
電源が復旧したときには	t :			
続いて:				
0 秒	PowerChuteI-ジェン コンセントグループ UPS (ートに電源供給しているコンセント Dutlets も、コンセントシーケンス画面	ゲループ Outlet Group 1 の電源お を介して設定された待機時間に碁	きづいて電源わになります
注: 電源障害設定の選 の 合計 (190 部) を下	Rにかかわらず、残りのUPS	ランタイムがアプリケーショ	ョンおよびオペレーティングシス	テムのシャットダウンに設定された時間
いるまて (180 桜) を下陸	ロラに場合、女主はンヤットタ	・ノノに十万な时間で唯休 9	つにの、即時ンヤットタワンから	売1了C1により。
		適用		

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生後、OS シャットダウンが開始されるまでにコマンドファイルを実行する場合は、コマンドファイルを選択し、実行時間を設定してください。

※システムのシャットダウンを開始するイベントが発生してから OS シャットダウンが開始されるまで 待機時間を設けたい場合は、ダミーのコマンドファイルを設定してください。 この項目はコンセントシーケンスでは、"他のアプリケーションがシャットダウンする時間"として表示

OS シャットダウン開始から該当のコンセントグループが電源オフするまでの時間を設定するには、「OS がシャットダウンする時間」を設定してください。

※重要 <「OS がシャットダウンする時間」に設定する値について> この値は、OS シャットダウン開始後、UPS がコンセントグループへの電源供給を停止するまでの時間に ついての設定項目になります。この値を設定する前に実環境のサーバを使用して、OS がシャットダウン に要する時間を何回か測定し、その結果を<u>十分に超える値</u>を設定してください。 この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS からの電源供給が停止され、システムに重大な障害 が発生する可能性があります。

Smart-UPS 1500	PowerChute	<u>୬</u> ፻୬ ኮ ም ዕን	I扒H*-管理	<i>ב</i> לם
シャットダウンの設定				
- 電源障害設定				
電源障害時のシャットダウン間	開始:			
○ 即時				
● UPSのバッテリ運転が	次の時間経過後	60 秒		
○ ランタイム制限で		1200 秒		
○ 電源障害時にシャットタ	~りンせず			
- OSとアプリケーションのシャッ	ŀም ሳን			
OSカシャットダウンする時間		300 秒		
必要な場合は、OSのシャ	ットダウンに先立ち、コマンドファイルを	と使用してアプリケーションをシャッ	トダウンできます。	
コマンドファイルの選択		test.cmd 🗸 7	21	
コマンドファイルを実行するの	に必要な時間	60 秒		
- ୬ャットダ ሳንታየሀ				
電源障害が発生したとき シャットダウンプロセスは、UPS	きは: が 300 秒間バッテリ運転した後(こ開始します。		
続いて:				
0 秒	コマンドファイル実行の開	始		
60 秒	OSシャットダウンの開始			
360 秒	PowerChuteIージェン コンセントグループ UPS (トに電源供給しているコンセン Jutlets も、コンセントシーケンス画ロ	トゲループ Outlet Group 1 の間 面を介して設定された待機間	電源わ 寺間に基づいて電源わになります
電源が復旧したときには	t:			
続いて:				
0 秒	PowerChuteI-ジェン コンセントグループ UPS (トに電源供給しているコンセン Dutlets も、コンセントシーケンス画ロ	トゲループ Outlet Group 1 の詞 面を介して設定された待機®	電源わ 専間に基づいて電源わになります
 注: 電源障害設定の選掛の合計(360秒)を下回 	Rにかかわらず、残りのUPS Pった場合、安全なシャットら	ランタイムがアプリケーシ ブウンに十分な時間を確保	'ヨンおよびオペレーティン するため、即時シャットダ	クシステムのシャットダウンに設定された時間 ウンが実行されます。

適用

③ [シャットダウン]-[コンセントシーケンス] を選択します。

Smart-UPS 1500	PowerChute		۶ŧŋŀダ ^ĸ ŷン	ルギー管理	ወታ
UPSステータス			初期セットアッフ° シャットダウンの設定 スケジュールされたシャットダウン		
- システムステータス			コンセントシーケンス 会社 ##1999 #85 #2	L	
デノバイスステータス		オンライ	負何制限機能 コンセント管理		
UPS負荷		6.5	直ちにシャットダウンする	J	

④ ②項で設定した内容が「コンセントグループの電源オフ時間」に反映されていることを確認します。 また、必要に応じて「コンセントグループ電源オンまでの時間」を設定してください。

	PowerChute	<u>ንተፃኑዎ</u> ሳን	I\$#\$*	-管理		ወታ*
セントシーケンス						
		-//	·	UPS Out	ets	
		//		Outlet Gr	oup 1	
1:00		6:00	0	+++])(2)/1/1)	3762747	
AC商用電源復旧時に	すべてのコンセントグループを自動的	日に電源わ				
	Outlet Group 1					通用
OF S Oullets	Outlet Group 1					
	では重渡わらっかれに含まれていま	= d				
 ひょう Cutters ごのコンセントグパープ ごのコンセントグパープ 	。は電源れシーケンスに含まれていま	र व				
	では電源オジーケンスに含まれていま 時間 がシャットダウンする時間:	ξ φ	60	秒		
	ないまでのなり * は電源パジーケンスに含まれていま 特別 がジャッドゲ シンする時間: する時間:	द उ	60 300	わ わ		
 Construction Construction Construction Construction 他のアプ⁰ 切からない OSがマロットダーン Construction Cons	マルロ Grap Y は電源 ハシークスに含まれていま 時間 がジャットゲ シンする時間: する時間: シャットゲ シンする合計時間:	ः र्व	60 <u>300</u> <u>360</u>	わ わ わ		
	*は電源パシークスに含まれていま 特別 がシャッドグ つりする時間: する時間: マャットグ つりずる合計時間: CO分別	र पं	60 300 360	秒 秒 秒		
	*は電源パシークスに含まれていま *期 がシャリゲークンする時間: する時間: マーク時間: での時間 れの状態を続ける最小時間:	र ग	60 300 360	秒 秒 秒		
	(は電源カン・ウスに含まれていま 時期 がシャリゲーのする時間: する時間: する時間: での時間 わの状態を続ける最小時間: 電源をわにする前に必要な最小	इ.इ. 	60 300 360 8 0	わ わ わ わ わ		

⑤ <メインコンセントグループの設定>
 次にメインコンセントグループに関する設定をしてください。

システムのシャットダウンを開始するイベントが発生し、コンセントグループ1が電源オフになった後に、該当のコンセントグループが電源オフ(電源供給を停止)するまでの時間を設定するには、「このコンセントグループを 電源オフシーケンスに含める」にチェックを入れ、「経過後コンセントグループの電源オフ」を設定してください。

Smart-U	PS 1500	PowerChute	<u>ን</u> የዓ ኑ ዎ [*] ሳን	I\$ N \$*-	-管理	በ/ን*	
コンセントシーク	ለለ						
+++++++	**•		//-		UPS Outlet	ts	
				-+++	💋 Outlet Grou	ıp 1	
0	1:00		6:00	0	+++])2>14>	376747	
☑ AC商	用電源復旧時にす	べてのコンセントグループを自動的	日に電源わ				適用
UP:	S Outlets 💋 Ou	utlet Group 1					
6	このコンセントグループをi	電源オフシーケンスに含める:					
אלשלב	グループの電源れ時間						
	待機時間 Outlet Gr	roup 1 電源打:		200 3	秒		
	経過後コンセントグループ	の電源わ:		60	秒		
אַלשֿלב	グループ電源わまでの	時間					
W.	コンセントク゛ルーフ゜がオフの)状態を続ける最小時間:		8	秒		
	コンセントグループの電源	夏をわにする前に必要な最小	いい ッテリランタイム :	0	秒		
	この追加待機時間	を使用してコンセントグループの電	፤源オンのシーケンスを決めます:	0	秒		

⑥ 設定を反映するためには、[適用]ボタンを押してください。

mart-UPS 1500	PowerChute	<u>ንየሃኑም ሳን</u>	1 28 4°	-管理	ወታ*	
セントシーケンス						
•••••			11	UPS Outle	ts	
			<i>II</i>	Outlet Gr	oup 1	
1:00		6:00 7:00	0	+++ 3762143	3222147	
AC商用電源復旧時に	すべてのコンセントグループを自動的	的に電源わ				
😃 UPS Outlets 🏼 🎢	Outlet Group 1					適用
さのコンセントゲットープ	は電源オフシーケンスに含まれてい	ます				
コンセントゲループの電源れる	뭼					
他のアプリケーションカ	バシャットダウンする時間:		60	秒		
OSがシャットダウンフ	する時間:		300	秒		
コンセントク ルーフ ガジ	ヤットダウンする合計時間:		360	秒		
コンセントクッルーフ。電源れンまで	の時間					
	りの状態を続ける最小時間:		8	秒		
☆~ 他のコンセントグルー:	『を待機:		60	秒		
コンセントグ ループ の1	電源をわにする前に必要な最	」いい リテリランタイム :	0	粆		
				stab.		

<参考> 各コンセントグループの電源オンに関する設定は、"コンセントグループ電源オンまでの時間"にて設定します。

☑ AC廠用電源復旧時にすべてのコンセントゲルプを自動的に電源カン		✓ AC商用電源復旧時にすべてのコンとンドループを自動的に電源わ		
🕐 UPS Outlets 📝 Outlet Group 1		UPS Outlets 🖉 Outlet Group 1	週用	
🕑 このコンセントグループは電源オワシーかスに含まれています		ひ このコンヤントグルーブを電源わシークスに含める:		
3)セントケット-2°の電源な7時間				
他のアプリケーションカシャットダウンする時間: 60 秒		אראבר אוואייראי איראבר אוואייראי איראבר		
OSがシャットダウンする時間: 300 秒		待機時間 Outlet Group 1 電源わ: 300 秒		
3)セントゲーーア がらマットダ か)する合計時間: 360 秒		経過後3ンセントグループの電源わ: 60 秒		
コンセントゲーア。電道れまでの時間		コンセントグリープ電源わまでの時間		
		パーンかんがしでがけった接触を結ける最小時間・		
		3/** 1/0/////////////////////////////////		
コンセントウ" ループの電源をわにする前に必要な最小リ(* ヶテリランタイム: 0 秒		コンセントゲ ループ の電源をわにする前に必要な最小パ ッテリランタイム: 0秒		
この追加特殊時間を使用してコンセントプループの電源わのシークンスを決めます: 60 秒		この追加待機時間を使用してコンセントブループの電源オンのシークンスを決めます: 60 秒		

コンセントグループの各設定内容は、画面上部のグラフ上に時系列で表示されます。

コンセントシーケンス



- (A) …コンセントグループ1の電源オフ
- (B) …コンセントグループ1の電源オン

(A)'・・・メインコンセントグループの電源オフ

(B)'・・・メインコンセントグループの電源オン

11.2 シャットダウンタイプの設定(Windows サーバのみ)

LCD パネルなし Smart-UPS を使用し、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバ が Windows サーバの場合、シャットダウンタイプの選択ができます。シャットダウンタイプを変更することで PowerChute Business Edition により行われるシャットダウン動作を、「シャットダウン」、「シャットダウンと電源オ フ」のどちらかに設定することができます。各シャットダウンタイプについては、以下を参照してください。

- 11.2.1 「シャットダウン」を選択した場合
- 11.2.2 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合

※ シャットダウンタイプ:「休止する」は未サポートです。

シャットダウンタイプとして「休止する」を選択しないようにしてください。 ※ LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合や Windows OS 以外では設定できません。

シャットダウンタイプを設定するには、PowerChute Business Edition コンソールから対象の PowerChute Business Edition エージェントを選択し、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン]ー[シャット ダウンタイプ]を選択した以下の画面から設定を行います。

ϝ· ៱·ʹイスの フ ゙ロ ヘ ʹテ _イ		\otimes
Windows		~
 ○ 全般 本スト/ UPS情報 管理名情報 UPSのD情報 UPSステ・Jス ペアリステ・タス ボルマンマテッス 電源パラメータ ロ・オーパシャッドダウン・ケッス マットリオットシャットダウン マットリオットシャットダウン・ケッス マットリオットシャットダウン・ケッス マットリオン・ケッス マットリオットシャット マットリオットシャット マットリオットシャット ● 記述所 日 記述所 ● 記述所 ● ログファイル ● 通信	<u>子-200更新</u>	<u>シャットタ`ウンタイプ</u> OSのジャットダウンタイプでの選択: シャットダウン シャットダウンと電源オフ 休止する
☑ 詳細項目の表示		道用(A) 閉じる(C) ヘルフ(日)
準備完了。		

WebUIから設定する場合は[サーバーシャットダウン]ー[シャットダウンの設定]を選択し、「OS シャットダウンタイプ」にて設定します。

※スレーブサーバでは、WebUIから「OS シャットダウンタイプ」の設定はできません。 PowerChute Business Edition コンソールより設定してください。

11.2.1 「シャットダウン」を選択した場合

PowerChute Business Edition エージェントのデフォルト設定です。PowerChute Business Edition により OS シャッ トダウンが行われた後、サーバはすぐに電源オフされません(※)。サーバの電源は、OS のシャットダウン処理が開 始されてから「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」の OS シャットダウン期間にて設定した時間が経過した 後に UPS からの電源供給が停止されることで、電源オフされます。

<u>電源障害によるサーバシャットダウン後、電源回復によるサーバの自動起動、およびスケジュール設定をすることによるサーバの自動運転を行う場合は、このシャットダウンタイプにて運用することをお奨めいたします。</u>

※「シャットダウン」を選択した場合でも OS シャットダウン後、直ちにサーバの電源がオフされる場合があります。 詳細は、「19.37 Windows ファイアウォール機能を有効にして使用する場合の注意事項」の機能改善を参照 してください。 11.2.2 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合

PowerChute Business Edition により OS シャットダウンが行われた後、直ちにサーバの電源がオフされる設定です。 このシャットダウンタイプを選択している場合、サーバ装置の BIOS にて設定する「AC-LINK」の設定が「Power ON」 であるか、それ以外になっているかにより、UPS から電源供給が再開した後の動作が異なります。

- ■「Power ON」に設定している場合 UPS からの電源供給が再開されると、サーバも自動起動されます。
- ■「Power ON」以外に設定している場合 <u>UPS からの電源供給が再開された後も、サーバは自動起動されない場合があります</u>。サーバが起動していなか った場合、起動するためにはサーバの電源スイッチを手動でオンしていただく必要があります。
- 重要:このシャットダウンタイプを選択し、かつ「AC-LINK」の設定を「Power ON」以外に設定している場合、電 源障害によるサーバシャットダウン後の電源回復によるサーバの自動起動や、スケジュール運転によるサーバ の自動運転が行えませんので、本事項を十分に理解の上、使用してください。
- 11.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス

ここでは、スケジュールによるシャットダウンが開始された場合のシャットダウンの流れを説明します。シャットダ ウンのスケジュール設定方法については、「12 スケジュールシャットダウンの設定」にて説明しています。



- スケジュール設定時刻の10分前に「<日時>に設定されている管理上のシャットダウンが開始されました。」
 とメッセージ通知を行う
- ② コマンドファイルの待機
- ③ コマンドファイルの実行開始
- ④ コマンドファイルが終了し、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS からの電源供給が停止する
- 設定項目
 - シャットダウン待機時間
 PowerChute Business Edition がスケジュールによるシャットダウンプロセスを開始するまでの待機時間です。
 10 分で固定されています。
 - コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間 「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。 シャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は、必ず「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」 を参照して設定を行ってください。

11.4 電源障害時のシャットダウンプロセス

電源保護方針により電源障害時のシャットダウンの流れが異なります。以下は、それぞれの場合について説明します。 なお、電源障害発生時のシャットダウンおよび電源回復時の UPS 動作の設定は個別に設定することができます。設 定項目および設定方法については、「11.4.3 電源障害の設定」を参照してください。

11.4.1 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)

ここでは、電源保護方針を「安全性を重視」に設定していた場合のシャットダウンの流れを説明します。



- ① 電源障害(停電など)発生。以降 UPS はバッテリによる電源供給を行う
- ② バッテリ状態時間しきい値を超過したので、シャットダウンプロセスが開始される
- ③ コマンドファイルが開始される
- ④ コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS からの電源供給が停止する
- ※ ①~②の間に電源回復した場合、サーバのシャットダウンはキャンセルされます。
- 注意:①~⑤の間に UPS がローバッテリ状態またはランタイム残量がローランタイムしきい値以下になった場合の シャットダウンプロセスは、「11.4.2 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタ イム重視」の場合)」と同様になります。
- 重要:すべての時間の合計([バッテリ状態時間しきい値]+[OS シャットダウン待機時間] +[OS シャットダウン期 間])が UPS の残りバックアップ時間(UPS がバッテリ電源を供給できる時間)を<u>超えない</u>ように設定して ください。バックアップ時間を超える値を設定した場合、OS のシャットダウン完了までバッテリ電源によ る供給ができません。
- 重要:コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間は、「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。 シャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は、必ず「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」 を参照して設定を行ってください。

■ 設定項目

▶ バッテリ状態時間しきい値

電源障害(停電など)が発生してから、OS のシャットダウンが開始されるまでの時間を設定します。 コンソールからは、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン]ー[電源障害]に て、"UPS のバッテリ状態が次の時間経過後"を選択し、時間を設定します。

※「電源障害」メニューを表示するには、画面左下の「詳細項目の表示」にチェックを入れてください。



WebUI からは[イベント]-[アクション] -[バッテリ状態しきい値超過]を選択し、「バッテリ状態時間しきい値」を設定します。

注意:「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"に設定していた場合、瞬断発生によりシャットダウンが実行される場合があります。

11.4.2 電源障害時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「ランタイム重視」の場合)

ここでは、電源保護方針を「ランタイム重視」に設定していた場合のシャットダウンの流れを説明します。



- ① 電源障害(停電など)発生。以降 UPS はバッテリによる電源供給を行う
- ② バッテリからの電源供給が可能な時間が、[ローバッテリ信号時間]の設定時間または[ローランタイムしきい 値まで低下したためにシャットダウンプロセスが開始される
- ③ コマンドファイルが開始される
- ④ コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS からの電源供給が停止する
- 注意: ローバッテリ信号時間の考え方については、「※参考 [ローバッテリ信号時間]について」を参照してください。
- 重要:コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間は、「11.1 シャットダウンシーケン スの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。 シャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は、必ず「11.1 シャットダウンシーケンスの設定」 を参照して設定を行ってください。
- 設定項目
 - ▶ ローランタイムしきい値

LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合、コンソールから[OS シャットダウン待機時間]または[OS シャットダウン期間]を変更すると、[OS シャットダウン待機時間] + [OS シャットダウン期間] の値が [ロ ーランタイムしきい値] として反映されます。

例えば

OS シャットダウン待機時間:3分

OS シャットダウン期間 : 3分

に設定した場合、[ローランタイムしきい値]は6分に設定されます。

ただし、現在のローランタイムしきい値が、[OS シャットダウン待機時間] + [OS シャットダウン期間] の 値より大きければ、現在のローランタイムしきい値が使用されます。

なお、以下の操作により[ローランタイムしきい値]が変更されますので注意してください。 ・設定プロファイルの適用を実施すると、[ローランタイムしきい値]はデフォルトの5分に変更されます。

LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合、WebUI から任意の値を設定することができます。[サーバ ーシャットダウン]ー[シャットダウンの設定]を選択して[設定]を押します。 表示される設定画面で [ローランタイムしきい値] を設定します。(下図参照)

PowerChute Business Edition	PowerChute Humes Lonon	Smart-UPS 1500 RM
	システムシャッサプクの設定 UPSパッテリ状態時間しきい値	?
> Smart-UPS 1500 RM	ローラッけんしぎい値 5 マ分 ローポップ 灯信号時間 2 マ 分	
▼サーバーシャットダウン シャットダクンの設定	 (OSのシャットヤ"ン	
システムの設定 すぐにサーバをシャットダウン	OSシャットダウン時間 180 V 秒	

LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合、"デバイスのプロパティ"画面より[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]を選択し、[OS とアプリケーションのシャットダウン] で設定した内容がローランタイムしきい値として使用されます。(下図参照)

OSがシャットダウンする時間		300 秒
必要な場合は、OSのシャゥ	トダウンに先立ち、コマンドファイル	を使用してアプリケーションをシャットダウンできます。
マント、ファイルの選択		test.cmd V 72
アンドファイルを実行するの(こ必要な時間	60) 秒
venely		
	は:	
^{ャットッ リノノ} Uビスは、UPS7	「60 秒間バッテリ運転した後	に開始します。
^{17919 920} uckla、 OPS7 続いて: 0 秒	が60秒間バッテリ運転した後	に開始します。
ですううう ucAla、 OPSA 続いて: 0 秒 60 秒	が 60 秒間バッ疗リ運転した後(コマンドファイル実行の肌 OSシャットダウンの開か	に開始します。 開始 治
19757 JUCAは、UPSA 続いて: 0 秒 60 秒 360 秒	ŷ 60 秒間バッテリ運転した後 OSシャットダウンの間 PowerChuteIージュ ンとントグルーブ Outle	に開始します。 開始 治 エントに電源供給しているコンセントグループ Outlet Group 1 の電源れ et Group 2 も、コンセントゥーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源れになります
17777 UCAL OPS7 続いて: 0 秒 60 秒 360 秒		に開始します。 開始 治 ことに電源供給しているコンセンゲッループ Outlet Group 1 の電源れ et Group 2 も、コンセントラーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源れになります
17777 JUCALS、OFS7 続いて: 0秒 60秒 360秒 360秒 5000 5000 5000 5000 5000 5000 5000 5	が 60 秒間パッテリ運転した後(コマント*ファイル実行の) OSシャットジ*クンの間 PowerChuteIージ*コ コンセントク*ループ* Outle	に開始します。 開始 治 」ンドに電源供給しているコンセントゲッループ Outlet Group 1 の電源オフ et Group 2 も、コンセントラーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源オフになります
17777 JUCALS、OPS7 続いて: 0秒 60秒 360秒 360秒 5000 5000 5000 5000 5000 5000 5000 5	 ⁶0 秒間パッテリ運転した後(に開始します。 開始 治 いた電源供給しているコンシンゲットープ Outlet Group 1 の電源わ et Group 2 も、コンセントッーケンス画面を介して設定された待機時間に基づいて電源わになります コントに電源供給しているコンセントグットープ Outlet Group 1 の電源わ et Group 2 も、コンセントッーかン画面を介して設定された待機時間に基づいて電源わになります

▶ ローバッテリ信号時間

志酒陪宇沙宁

LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合、WebUI からのみ設定することができます。[サーバーシャ ットダウン]ー[シャットダウンの設定]を選択して[設定]を押します。表示される設定画面で[ローバッテリ信号 時間]を設定します。(下図参照)

PowerChute Business Edition	PowerChute' ADARASE LOTION	Smart-UPS 1500 RM
	システムシャッサウンの設定	?
Smart-UPS 1500 RM		
▼サーバーシャットダウン シャットダウンの設定	OSのシャットギウン	
システムの設定 すぐにサーバをシャットダウン	OSシャットダウン時間 180 V 秒	

LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合、"デバイスのプロパティ"画面より[シャットダウン]-[シャットダウンの設定]を選択し、[電源障害設定]-[ランタイム制限で]で設定した内容がローバッテリ信号時間として使用されます。(下図参照)

電源障害時のシャットダウン開	始:	
○ 即時		
○ UPSのバッテリ運転が次	次の時間経過後	60 秒
 ランタイム制限で 		1200 秒
○ 電源障害時にシャットダ	9ンせず	

※ 参考 [ローバッテリ信号時間] について

例えば、UPS バッテリ能力が弱っている場合、UPS バッテリの電源供給可能時間が、「11.4.1 電源障害 時のシャットダウンプロセス(電源保護方針が「安全性を重視」の場合)」で設定した[バッテリ状態時間し きい値] + [OS シャットダウン待機時間] + [OS シャットダウン期間]の合計時間より少なくなる場合が あります。このような状態の UPS がシャットダウンプロセスを実施した場合、正常にシャットダウンが完了 する前に、UPS バッテリの電源供給が停止してしまいます。それを防止するために、PowerChute Business Edition は UPS バッテリの電源供給可能時間が、[ローバッテリ信号時間] として設定されている時間以下に なった時にシャットダウンプロセスを開始します。

[ローバッテリ信号時間]は、[OS シャットダウン待機時間] + [OS シャットダウン期間] より大きい時間 を設定する必要があります。

ただし、[ローバッテリ信号時間]の設定は、UPS が保持している設定可能な値を選択します。[OS シャット ダウン待機時間]+ [OS シャットダウン期間]が UPS で保持している値より大きい場合は、[ローランタイ ムしきい値] にて適切な値を設定してください。

電源障害が発生し、UPS バッテリの電源供給可能時間が [ローバッテリ信号時間] または[ローランタイムしきい値] まで低下すると、シャットダウンプロセスを開始します。

現時点でのバックアップ時間を表示するには、コンソールからはデバイスのプロパティを開き、[全般]ー[バッ テリステータス]を選択し、[ランタイム残量]にて確認することができます。(下図参照)



WebUI では[Smart-UPS 1500 RM] – [UPS ステータス]を選択し「ランタイム残量」を確認します。 (使用する UPS タイプが Smart-UPS 1500 RM の場合です。)

LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合は、デバイスのプロパティを開き、[Smart-UPS 1200]-[UPS ステータス]-[ランタイム残り時間]にて確認することができます。(使用する UPS タイプが Smart-UPS 1200 の場合です。)(下図参照)

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>፟</u> ንየሃ Ի ሃ [°] ፓን	1初片*-管理	ወታ	
UPSZ7-9Z					
- システムステータス					
デバイスステータス		オンライン (グ゛リーンモート゛)			
UPS負荷		7.5 %			
ランタイム残り時間		81分			
内部温度		31.0°C / 87.8°F			
負荷電力		6.76 %VA			
負荷電流		0.8 A			
UPS LCDは読み取り専	用です	いいえ			

電源障害(停電など)が発生した際のシャットダウン開始および電源回復時の UPS 動作の設定について説明します。

<電源障害時のシャットダウン開始の設定>

■LCD パネルなし Smart-UPS を使用時

PowerChute Business Edition コンソールから対象の PowerChute Business Edition エージェントを選択し、「デバイ スのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン]-[電源障害]にて行います。

[電源障害]の項目は、デバイスのプロパティ画面左下にある「詳細項目の表示」 にチェックを入れると表示されます。

デ゙゚ゕ゚゚イスのプロペ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚ヮ゚゚゚゚゚゚	\otimes
Windows	\sim
 □ 全般 本スト/ UPS情報	<u> て-200更新</u> 電源障害時のシャットタウン/開始: 四時 UPSのハシアリ状態が太の時間経過後: <u> 1 ☆</u> 分 うンタイム上限時 電源回貨時のUPS再起動: 町時 ハ'シアリ?容量 90 0 % 行機時間 0 0 秒 しtxl、(UPSを手動でオンにする)
☑ 詳細項目の表示	道用(A) 閉じる(C) へい7(H)
準備完了。	

注意:「電源回復時のUPS再起動」を設定することができるのはマスタサーバのみであり、スレーブサーバでは設定 することはできません。

▶ 電源障害時のシャットダウン開始

電源障害が発生した際にシャットダウンプロセスを開始する条件を設定します。

-即時:電源障害が発生した場合、直ぐにシャットダウンプロセスを開始します。

-UPS のバッテリ状態が次の時間経過後:

電源障害が設定した時間継続した場合、シャットダウンプロセスを開始します。

-ランタイム上限時:

電源障害が継続しランタイム残量がローランタイムしきい値またはローバッテリ信号時間を下回った場合、 シャットダウンプロセスを開始します。

注意:「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"に設定していた場合、瞬断発生によりシャットダウンが実 行される場合があります。

■LCD パネル付き Smart-UPS を使用時

PowerChute Business Edition コンソールから対象の PowerChute Business Edition エージェントを選択し、「デバイ スのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]ー[シャットダウンの設定]にて行います。

3	ヤットダウンの設定			
	- 電源障害設定			
	電源障害時のシャットダウン開始: 〇 即時			
	UPSのバッテリ運転が次の時間経過後	60 秒		
	○ ランタイム制限で	120 秒		
	○ 電源障害時にシャットダウンせず			

電源障害時のシャットダウン開始
 電源障害が発生した際にシャットダウンプロセスを開始する条件を設定します。
 ー即時:電源障害が発生した場合、直ぐにシャットダウンプロセスを開始します。
 ーUPSのバッテリ運転が次の時間経過後:

電源障害が設定した時間継続した場合、シャットダウンプロセスを開始します。

- ー**ランタイム制限で**: 電源障害が継続しランタイム残量がローランタイムしきい値またはローバッテリ信号時間を下回った場合、
- シャットダウンプロセスを開始します。 -**電源障害時にシャットダウンせず**: 電源障害が発生してもシャットダウンプロセスは開始されません。 但し、"バッテリ状態時に通信切断"イベント発生やローランタイムしきい値を下回った場合はシャットダウンプ ロセスが開始されます。
- 注意:「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"に設定していた場合、瞬断発生によりシャットダウンが実 行される場合があります。
- <電源回復時の UPS 再起動の設定>
- ▶ 電源回復時の UPS 再起動 電源回復した際の UPS 動作について設定します。
- ■LCD パネルなし Smart-UPS を使用時
 - -即時:電源回復すると、直ぐに UPS からの電源供給が再開されます。
 - -バッテリが次の容量まで充電された時:
 - 電源回復し設定した条件(バッテリ容量および待機時間)を満たした場合、UPS からの電源供給が再開されます。
 - しない(UPS を手動でオンにする):
 電源回復しても UPS は自動起動しません。手動で UPS をオンする必要があります。
 手動で UPS をオンすると UPS からの電源供給が再開されます。

■LCD パネル付き Smart-UPS を使用時

LCD パネル付き Smart-UPS を使用の場合、電源回復時の設定は「コンセントシーケンス」にて行います。 コンセントシーケンスについては、「10.3 コンセントシーケンス」を参照してください。

注意:「電源回復時の UPS 再起動」を"即時"に設定していた場合、UPS からの電源供給停止/再開の間隔が数秒 間と短くなることがあります。このような場合、サーバ本体装置の仕様によっては、UPS からの電源供給が再 開しているにも関わらずサーバ起動が行われないことがあります。詳細につきましては、「19.33 電源障害 (停電など)によるシャットダウン後、サーバ装置本体の仕様によりサーバが UPS に連動して起動しなくなる問 題」を参照してください。

≪電源障害によるシャットダウン動作について≫

電源障害発生によりシャットダウンプロセスを開始した場合は、OSシャットダウンが実行される前に電源回 復しても、各種設定値に基づき OSシャットダウンおよび UPS の電源供給停止が行われます。 また、UPS の電源供給停止前に電源回復しておりかつ設定している電源回復時の UPS 再起動の条件を満たし ていたとしても、一旦、UPS の電源供給が停止し、その後 UPS からの電源供給が再開されます。

12 スケジュールシャットダウンの設定

PowerChute Business Edition ではサーバのシャットダウン日時および再起動日時を設定することでスケジュール運転ができます。

12.1 LCD パネルなし Smart-UPS の場合

注意:スケジュール運転は『PowerChute Business Edition コンソール』よりデバイスのプロパティ画面を表示し 設定します。WebUI ではスケジュール運転を設定することができません。

- 以下、スケジュール運転の設定方法を説明します。
- PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバで、スケジュールを設定するサーバを選択して、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン]ー[スケジュールシャットダウン] を選択してください。

以下のような画面が表示されますので「新規エントリ」ボタンを押してください。

デバイスのプロバティ	\otimes
Windows	\sim
	データの更新 スケジュールシャットダウン 新規エントリ 10/177< 前B除 エージェントの概算日付/時刻! 2013/12/02 11:36 (シャットダウンの名前) 頻度) 重複:

- ② 「新規スケジュールシャットダウン」ウィンドウが表示されますのでここでシャットダウンをする日時を設定してください。
 - また、任意に各シャットダウンスケジュールごとに名前を付けることもできます。
 - 注意:「再起動の日付/時間」を設定することができるのはマスタサーバのみであり、スレーブサーバでは設定することはできません。

新規スケジュールシャットダウン 🛛 😣
シャットダウンの名前
次回のシャットダウンの日時
2013/12/02 🔲 時間 20:00:00 🛨
再起動の日付/時間
2013/12/03 🔲 時間 8:00:00 🗧
○ 一度のみ ○ 海日繰り返す ○ 毎週繰り返す
OK(<u>O</u>) (++)/t/(<u>C</u>)

く「再起動の日付/時間」の「時間」の設定について>

再起動の時間は、「次回のシャットダウンの日時」に設定した日時から「11.1 シャットダウンシーケンスの 設定」の『OS シャットダウン待機時間』+『OS シャットダウン期間』+6分単位で設定します。 マルチサーバ構成の環境においては以下の点も留意してください。

- ・ スレーブサーバでスケジュールシャットダウンを行った場合、スレーブサーバがシャットダウンした後もUPSの出力は停止しません。
- マスタサーバがスケジュールによるシャットダウンを開始すると、スレーブサーバでも連動してシャットダウンが行われます。
- マスタサーバでスケジュールシャットダウンを行った場合、『OS シャットダウン待機時間』+『OS シャットダウン期間』+『ローバッテリ信号時間』経過後にUPS がスリープモードへ移行します。
- ③ スケジュールの日時を設定後に「OK」ボタンを押すと、再び「デバイスのプロパティ」ウィンドウに戻ります。 このとき先に登録したスケジュールの情報が画面内に表示されますので、登録内容に誤りがないかを確認して ください。スケジュールを追加する場合は同様に「新規エントリ」ボタンにて追加を行ってください。
 - 注意:スケジュールシャットダウンの「期間」の欄に表示される時間は「11.1 シャットダウンシーケンスの 設定」において設定する『コマンドファイルの待機時間』、『コマンドファイルの期間』、『OS シャッ トダウン待機時間』、『OS シャットダウン期間』の値と連動します。 それらの設定値を変更すると、その値に応じて下記の「期間」に表示される時間が増減します。

デバイスのプロパティ)
Windows	\sim	
□-全般 	データの更新 スケジュールシャットタ・ウン	
····管理者情報 ····································	1111 1111 1111 1111 1111 11111 11111 1111	
	エージェントの概算日付/時刻: 2013/12/02 11:37	
画·エネルギー管理		
	シャットダウンの名前 類度 重複 2013/12/02 20:00:00 12時間 毎日 毎日	e.

注意:すでに登録されているスケジュールと、新たに追加(あるいは編集)したスケジュールの登録内容に重 複している部分がある場合、以下のように「重複する日時」の欄に登録したスケジュールに関する日時 が表示されます。この「重複する日時」に表示されている行のスケジュールは実行されません。

(シャットタウンの日時	期間	(シャットダウンの名前)	頻度	重複する日時
2013/12/02 20:00:00	12時間		毎日	2013/12/06 20:00:00
2013/12/06 20:00:00	2日.12時間		毎週	

重複した日時のスケジュール登録を行った場合の動作については、「ヘルプ」ボタンを押して表示されるヘル プの「重複したスケジュールシャットダウン」に記載された内容を確認してください。 ④ 必要なスケジュールを登録後、最後に「適用」ボタンを押してください。「適用」ボタンを押すと設定したス ケジュールが対象サーバに記録されます。これでスケジュール設定は完了です。

ϝ· ៱·ʹ ϯ ϪϴϽʹʹ <mark>Ϥ</mark> Λʹʹ <mark>ϝ</mark> ィ					×
Windows				-	-
 - 全般 ホスト/ UPS/情報 - 管理者情報 - UPSのD/情報 - UPSステータス - ハッデリステータス - エ電源ハラメータ B・Iネルギー管理 - サーハシャットダウン> - シャットダウン>>-ケンス - スケジュールシャットダウン - シャットダウンタイプ B・診断 B・ロウファイル - コクラアイル 	データの更新 新規エントリ フロハティ エージェン ジャットなウンの日時 2018/12/02 20:00:00 2018/12/06 20:00:00	○の概算日付/8 の概算日付/8 128寺間 2日、128寺間	スクシュールシ 寺刻: 2013/12/02 11 シャットダウンの名前	/ャット :38 毎日 毎週	ドウン <u> 重複で</u> 2013/
 ✓ 詳細項目の表示 準備完了。 	(iii (iii)	適用(<u>A)</u>) やンセル(0) ~	► (H),t1

注意: PowerChute Business Edition コンソールにて何らかの値の変更を行った場合、「適用」ボタンが有効 になります。この状態で「キャンセル」等で終了しようとすると、以下のようなウィンドウが表示され ます。

この場合、「はい」を選択すると変更内容が対象サーバへ適用されません。

$\overline{}$
●部の変更内容を適用していません。本当に終了しますか?

- 12.2 LCD パネル付き Smart-UPS の場合
- 以下、スケジュール運転の設定方法を説明します。
- PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバで、スケジュールを設定するサーバを選択して、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]ー[スケジュールされたシャットダウン] を選択してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute	ſ	>phipp.d.	ルギー管理	ወታ
			初期セットアッフ°		
UPSZF-9Z			シャットダウンの設定		
>>=====			スケジュールされたシャットダウン		
- >४७४४४४-७४			コンセントシーケンス		
			負荷制限機能		
デ川゙イスステータス		わう	コンセント管理		
UPS負荷		7.5	直ちにシャットダウンする		

2 カレンダー画面にて設定する日付をクリックしてください。

0 今日			2013 12月			適用
E .	月	火	水	木	金	±
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

③ 「スケジュールされたシャットダウン」ウィンドウが表示されますので、スケジュール名やシャットダウン日 時など各項目を設定してください。

タケジュールされたシャットダウン		
スケジュール名	daily	
シヤットダウン日時	2013/12/02 時間:	20:00
ウェークアップ日時	2013/12/03 時間:	08:00
頻度:		
1回	0	
1日に1回	۲	
週に1回	0	
Outlet Group 1 Outlet Group 2	✓ ✓ -+-パー(こ言语供給しているひか)め*ループが含ま	約ます。サーパーテド砷田できない順に他の2^ジュールシeッルダンけ運続去
natto.		
日本標準時		
		ок <i>‡</i> †>±л

④ スケジュールの日時を設定後に「OK」ボタンを押すと、再びカレンダー画面に戻ります。このとき先に登録したスケジュールの情報が画面内に表示されますので、登録内容に誤りがないかを確認してください。 スケジュールを追加する場合は同様に設定する日付をクリックし追加を行ってください。

D 今日			2013 12月			遃
E I	月	火	水	木	숲	±
1	2	3	4	5	6	
20	:00 daily		20:00 daily		20:00 daily	
		20:00 daily		20:00 daily		20:00 daily
8	9	10	11	12	13	
aily		20:00 daily		20:00 daily		20:00 daily
20	:00 daily		20:00 daily		20:00 daily	
15	16	17	18	19	20	
aily		20:00 daily	10	20:00 daily	20	20:00 daily
20	:00 daily		20:00 daily		20:00 daily	
22	23	24	25	26	27	
aily		20:00 daily		20:00 daily		20:00 daily
20	:00 daily		20:00 daily		20:00 daily	
29	30	31	1	2	3	
aily		20:00 daily		20:00 daily		20:00 daily
20	:00 daily		20:00 daily		20:00 daily	
5	6	7	8	9	10	
aily		20:00 daily		20:00 daily		20:00 daily

注意: すでに登録されているスケジュールと、新たに追加(あるいは編集)したスケジュールの登録内容に重 複している部分がある場合、以下のように「スケジュール確認」画面が表示されます。

スクジュール確認	×
このスケジュールは既存のスケジュールされたシャッ す。詳細については、ヘルプの「スケジューノ を参照して下さい。処理を続行します;	ットダウンと重複していま ルされたシャットダウンの重複」 か?
	ок ‡ †>セル

重複した日時のスケジュール登録を行った場合の動作については、画面右上にある「ヘルプ」をクリックし、 表示されるヘルプの「重複するスケジュールされたシャットダウン」に記載された内容を確認してください。

⑤ カレンダー画面の右上にある「適用」ボタンをを押してください。



注意:「適用」ボタンを押さないと設定が反映されませんので、設定後は必ず「適用」ボタンを押してください。

LCD パネル付き Smart-UPS では、コントロールコンセントグループ毎にスケジュールの設定が可能です。 但し、[コンセントの設定]にて" PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセン トグループ"に設定したコンセントグループがオフの場合、他のコンセントグループのスケジュールシャットダ ウンは行われません。個別にコントロールコンセントグループのスケジュール設定を行う場合には注意してく ださい。

緑色のアイコンが表示されているコンセントグループは、「10.1 コンセントの設定」で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループとして設定したものです。

PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループが含まれないスケ ジュール設定はカレンダー画面ではグレーで表示されます。

255	*1-14名			da	ilv. aroun?									
					my_groupz	****								
289	19 97日時			20	13/12/02	時間	19:00							
9I-	クアップ日時			20	13/12/03	時間	07:00							
類	度:													
10	0			0	0									
16	1C10													
週	こ1回			0)									
		20												
ਤ 7	Cutlet Group	-)": 1		Г	7									
	Outlet Group	2		5	7									
		_			-									
日本	<標準時													
										ок	抐	/t/k		
クジュ ールされた シャ スクジュールを追加する	ットダウン には、下のカレン!	ダーの日付ネ	をクリックします。[達	1用] #	がかを列がして新	規まり	こは更新したスクジュ	- <i>li</i> e	保存しま	す。				
か [*] 1- された> ス ^{か*1- を追加する 〇 〇 〇 今日}	ットダ [、] ウン には、下のか?? 】	9*-の日付;	をクリックします。[遙	[用] (** <i>9</i> ンをクリックして親 2013 12月	規ま/	こは更新したスクジュ	- <i>l</i> æ	保存しま	<u>च</u> .			適用	
が*1- ルされた シイ スクシ*1-ルを追加する 〇〇〇〇 今日	ットダ・ウン には、下のかり 月	9*-の日付?	をクリックします。[遙 火	[用] (**90を列ックして新 2013 12月 水	規ま/	こは更新したスクジュ 木	- <i>li</i> ē	保存しま	す。 金			適用	
が [*] 1- ルされた られ ^{スケ>*} 1-ルを追加する 000 今日	ットダ・ウン には、下のカレンタ 月 1	ም-の日村 2	をクリックします。[遙 火	[用] i 3	**90を列99して新 2013 12月 水	規ま/ 	こは更新したスクジュ 木	-læ	保存しま	す。 金	6		適用	
が ^{*1} - トされた が ^{*1-} トを追加する 0 0 今日 日	ットダックン には、下のかり 月 1 19:00 daily_g	デーの日付? 2 proup2	を列ックします。[達 火	[用] i	**ダンをクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま) - 4	こは更新した2/シジュ 木 49:00 doily.comm2	- <i>li</i> を 5	保存しま 19:00 daily	す。 金 y_group2	6	() () () () () () () () () () () () () (適用	
かジュ ールされた シリ スクジュールを追加する 0 0 今日 日	ットケックン には、下のかり?? 1 19:00 daily_g	ም [~] -の日付? 2 Iroup2	を列90します。[適 <u>火</u> 19:00 daily_group2	2用] i	3 [*] タンをクリックして親 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま/ - 4	こは更新したスケシ*ュ 木 19:00 daily_group2	-læ	保存しま 19:00 dail	す。 金 y_group2	6	19:00 daily_	適用 group2	
が*1- よされた シi パ*1- よ 造加する 0000 日	ットケックン には、下のかり?? 1 19:00 daily_g 8	かーの日付 2 proup2 9	をクリックします。[達 火 19:00 daily_group2	2用] i 3 10	**9>を列ックして新 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま/ - 4 11	こは更新したスケジュ <u>木</u> 19:00 daily <u>g</u> roup2	- <i>l</i> æ	保存しま 19:00 dail	す。 金 y_group2	6	19:00 daily_	適用 proup2	1
が*1- よされた シ が*1- よさ加する 000000000000000000000000000000000000	rットダ [・] ウン には、下のかい? 1 19:00 daily_g 8	9*-の日村? 2 rroup2 9	をがりゅうします。 [達 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /11] i 3 10	* 9)をりりりして第 2013 12月 水 19:00 daily_group;	規まだ - 4 11	こは更新したスケジュ 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>Iを</i> 5 12	保存しま 19:00 dail;	₫. 金	6	19:00 daily_	適用 group2 group2	1
が*1- よされた 対 ゆ*1- 水を追加する 000000000000000000000000000000000000	ryトダ*ウン には、下のかい? 1 19:00 daily_0 8 19:00 daily_0	ŷ*-の日村 2 group2 9 group2	をクリックします。[達 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /11] i 3 10	* ⁵ ジンをクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま - 4 11	には更新したスクジュ 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>li</i> æ	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail;	of ₀ œ y_group2 y_group2	6	19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2	1
がゞ」- 小された シ れか、」- 小された シ ・ ・ ・ 日 19:00 dally_group2 18:00 dally_group2	ryトダ*ウン には、下のかが 1 19:00 daily_0 8 19:00 daily_0	9 [*] -の日付 2 group2 9 group2	を 刈y?します。[達 <u>火</u> 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1月1〕i 3 10	*9>を列ックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま) - 11	こは更新したスケジュ 木 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>li</i> を 5	保存しま 19:00 daily 19:00 daily	す。 金 y_group2 y_group2	6	[19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2	1
が [*] 1- ルされた 対 パゲ [*] 1- ル を追加する 0 0 今日 日 19:00 dally_group2 tally_group2	rットグ・ウン には、下のかい? 1 19:00 daily_g 8 19:00 daily_g	9 ^{*-} の日村 2 rroup2 9 rroup2	をクリックします。[達 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /#] i 3 10	* 9)をハックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま) - 11 18	こは更新したスパシ*1 木 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>li</i> ⁄c 5 12 19	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail;	す。 金 y_group2 y_group2	6 13 20	(19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2	1
か ³ 1- トされた シ の ・ ・ 19:00 dally_group2 tally_group2 tally_group2 19:00 dally_group2	ryトダ*ウン には、下のかい? 1 19:00 daily_g 19:00 daily_g	9 ^{*-} の日村 2 2 roup2 9 roup2 16	をクリックします。[達 メ 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /FI] i 3 10	*9>をフリッフして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18	<u>大</u> 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>li</i> æ 5 12 19	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail;	₫. ♠ y_group2 y_group2	6 13 20	19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か ³ 1- トされた シ か ³ 1- トさ追加する ののの一つののの 今日 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1919°57 (c.(d., FO)1079 19:00 daily_0 19:00 daily_0 15 19:00 daily_0	す [*] -の日付 2 2 yroup2 9 yroup2 16 yroup2	をクリックします。[通 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /11] i 3 10	** 97をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18	たは更新したスクシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>li</i> を 5 12	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	₫. ✿ y_group2 y_group2 y_group2	6 13 20	19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か ^{5*} 1 - 小された 対 か ^{5*} 1 - 小を追加する 000 今日 日 19:00 daily_group2 faily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 15 12 22	9 [*] -の日付 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 3 1 1 1 2 2 3 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	をクリックします。[達 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 /1] i 3 10 17 24	* 9)をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	たは更新したスタシ*1 木 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>h</i> を 5 12 19 26	保存しま 19:00 daily 19:00 daily 19:00 daily	す。 分 y_group2 y_group2 y_group2	6 13 20 27	19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か*1- トされた シ か*1- トさ追加する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1 19:00 daily of 1 19:00 daily of 19:00 daily of 19:00 daily of 222	9 ^{*-} の日付 2 proup2 9 proup2 16 proup2 23	をクリックします。[達 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1/#1] i 3 10 17 24	**9>をグリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	こは更新したスケシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>小</i> を 5 12 19 26	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	す。 全 y_group2 y_group2 y_group2	6 13 20 27	19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か**1- トされた> か**1- トを注加する 〇 〇 〇 今日 日 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 22	9 [*] -の日付 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	をクリックします。[通 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	10 10 17 24	** 97をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	こは更新したスカシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- ル を 5 12 19 26	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	₫. ♣ y_group2 y_group2 y_group2 y_group2	6 13 20 27	19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2 group2	1
か ^{3×} 1- トされた 対 な ^{3×} 1- トを追加する 〇〇〇一今日 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 19:00 daily_0 15 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0	9 [*] -の日付 2 roup2 9 roup2 16 roup2 23 roup2	をクリックします。[達 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	2 /11] i 3 10 17 24	* 9)をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	たは更新したスジ>*1 木 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>l</i> ⁄c 5 12 19 26	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	₫ 。	6 13 20 27	[19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か*1- トされた シ か*1- トを追加する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	Image: system Image: s	9*- D EH1 2 proup2 9 proup2 16 proup2 23 proup2 30	をがりゃうします。 [値	10 10 17 24 31	** 97をグリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま) - - 11 18 25	こは更新したスケシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>l</i> ⁄c 5 12 19 26	保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	д <u>क</u> <u>y</u> group2 <u>y</u> group2 <u>y</u> group2 <u>y</u> group2	6 13 20 27 3	(19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2	1
か>*1- トされた> か>*1- トされかする ののの会社 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 22 29	9*-の日付 2 group2 16 group2 23 group2 23 group2 30	をグリックします。[通 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	10 10 17 24 31	** 97をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	こは更新したスクシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>In</i> 5 12 19 26	保存しま 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail	\$\overline{f}_{2}\$ \$\overline{f}_{2}\$ \$	6 13 20 27 3	[19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2 group2 proup2	1
か*1- トされた シ か*1- トさ追加する ・ 今日 日 19:00 daily_group2 faily_group2 19:00 daily_group2 faily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	Image: system Image: s	9°-ФНМ ггоир2 ггоир	をクリックします。[途 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	2 /8] i 3 10 17 24 31	** 9>をかりゅうして第 2013 12月 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25	たは更新したス۶>*1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>I</i> /æ	【 保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	\$\overline{f}_{2}\$ \$\overline{f}_{2}\$ \$	6 13 20 27 3	[19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2 proup2 proup2	1
か*1- トされた シ か*1- トさ追加する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 15 19:00 daily_0 15 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0	9°-0844 2 16 16 16 17 17 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	をがりゃくします。 [達 メ 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	2 7	** 97&70199UC 98 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規まが - 11 18 25	こは更新したスケシ* 1 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	- <i>In</i> 5 12 19 26	、 保存しま 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail; 19:00 dail;	す。 金 <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>	6 13 20 27 3 3	(19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2 group2 yroup2	1
か**1- トされた> か**1- トされかする 〇 〇 〇 今日 日 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 5	9"-0日11 2 9 9 16 23 23 23 30 30 23 30 2 30 2 30 2 30 2	をグリックします。[通 火 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	2000) i 3 10 17 24 31 7	** 97をクリックして第 2013 12月 水 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25 1 8	こは更新したスカシ* 1 第二日、一次、「「「「「」」」、「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」	- <i>Ir</i> ਣ 5 12 19 26	、 保存しま 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail	g.	6 13 20 27 3 3	(19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	適用 group2 group2 group2 group2 proup2 proup2	22
か*1- トされたシ か*1- トさ追加する ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 1 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 22 19:00 daily_0 29 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0 29 19:00 daily_0 19:00 daily_0 19:00 daily_0	у"-0) Н(1) поцр2 2 9 9 16 16 16 23 23 30 30 30 30 6 6	をクリックします。 (論 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	100 117 24 31 7	** 97をグリックして第 2013 12月 米 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2 19:00 daily_group2	規ま 4 11 18 25 1 8	こはJUE新したスか>* 1 本 19:00 daily_group2	- <i>l</i> ⁄c 5 12 19 26 2 9	保存しま 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail 19:00 dail	す。 金 梁 y group2 y group2 y group2 y group2 y group2 y group2	6 13 20 27 3 3	(19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_ 19:00 daily_	道用 group2 group2 group2 group2 group2 group2	1.

メインコンセントグループとコントロールコンセントグループを有する機種では、メインコンセントグループ のスケジュールを設定すると他のコントロールコンセントグループもシャットダウンするコンセントグループ に含まれます。メインコンセントグループのみのスケジュールを設定することはできません。

ケジュール名	daily_Main ×
ヤットダウン日時	2013/12/02 時間: 20:00 🚱
rェークアッフ。日時	2013/12/03 時間: 08:00 🗃
頻度:	
10	0
1日(こ1回	۲
還(こ1回	0
Outlet Group 1	₩.
UPS Outlets	
このスヤジュールには、メインコンセントグループが含	まれます。そのため、他の、わけパープも同じようにすべてシャゥトジかされます。PowerChuleがシャゥトジかするので、他
∃本標準時	
※注意

「UPS インタフェース拡張ボード(N818-80)」を使用してマスターサーバ1台とスレーブサーバ1台以上のマ ルチサーバ構成を行っている場合、マスターサーバのスケジュールシャットダウン設定に連動してスレーブサ ーバのシャットダウンを行う場合は、UPS 装置のすべてのコントロールコンセントグループがオフ/オン対象と なるよう、チェックを入れる必要があります。

(マスターサーバおよびスレーブサーバの電源コンセントを接続しているコントロールコンセントグループのみ をオフ/オンするようなスケジュール設定を行った場合、スレーブサーバについては、OS シャットダウンが行わ れないまま、強制電源断の動作となる場合があります。)

含	ŧれるコンセントグル−プ:		
	Outlet Group1		
	Outlet Group2		
4	このスクシュールには、PowerChuteがインストールされたサ ントは実施されません。	ーバーに電源供給	しているコンセントグルーフが含まれます。サーハーが使用できない間に他のスクジュールシャットダ

13 コンセント管理

コンセント管理は、PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバを選択して、「デバイスのプロ パティ」ウィンドウを表示後、「シャットダウン」ー「コンセント管理」を選択します。

選択すると、コンセントグループの名前と現在のステータスが表示されます。緑色のアイコンが表示されているコン セントグループは、「10.1 コンセントの設定」で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされ ているコンセントグループとして設定したものです。

ドロップダウンメニューよりコンセントグループのアクションを指定することができます。

※注意

UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)によるマルチサーバ構成の場合、「コンセント管理」における各種シャットダウン、オフおよび再起動操作を行っても、スレーブサーバではOS シャットダウンが行われない動作となり、 最終的には強制電源断となる場合があります。このため、マルチサーバ構成では「コンセント管理」による各種オ フ操作を行わないでください。

コンセント管理		
门北水名	ステータス	7953)
Outlet Group 1	お	7%3)なし 通用
Outlet Group 2	が	70%3)なし 行機時間後にお ですってすって
		(ロ)に4/ 谷機時間後に3ヶりが、ウン、AC再起動 即時シャットが、ウン、AC再起動 谷機時間後に再起動 印味車要予動

ー待機時間後にオフ:

"OS がシャットダウンする時間"あるいは"経過後コンセントグループの電源オフ"に設定した時間経過後に、コンセントグループを電源オフにします。

-即時オフ(※):

直ちにコンセントグループを電源オフにします。

-待機時間後にシャットダウン、AC 再起動:

"OS がシャットダウンする時間"あるいは"経過後コンセントグループの電源オフ"に設定した時間経過後に、コンセントグループを電源オフにします。その後、AC 商用電源が復旧し"コンセントグループ電源オンまでの時間"の条件を満たすとコンセントグループが電源オンします。

ー即時シャットダウン、AC 再起動(※):

直ちにコンセントグループを電源オフにします。その後、AC 商用電源が復旧し"コンセントグループ電源オン までの時間"の条件を満たすとコンセントグループが電源オンします。

-待機時間後に再起動:

"OS がシャットダウンする時間"あるいは"経過後コンセントグループの電源オフ"に設定した時間経過後にコン セントグループを電源オフにします。

その後、"コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間"+"この追加待機時間を使用してコンセントグル ープの電源オンのシーケンスを決めます"経過後にコンセントグループが電源オンします。

-即時再起動(※):

直ちにコンセントグループを電源オフにします。

その後、"コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間"+"この追加待機時間を使用してコンセントグル ープの電源オンのシーケンスを決めます"経過後にコンセントグループが電源オンします。

(※) 直ちにコンセントグループを電源オフするため、PowerChute Business Edition エージェントがインストー ルされているコンセントグループに対し実行した場合、シャットダウン処理が行われず、即時にサーバの電源 がオフすることになります。

注意:メインコンセントグループとコントロールコンセントグループを有する機種では、コントロールコンセン トグループがオンの場合、メインコンセントグループはグレーアウトされ操作できません。

コンセント管理

口池水名	୵テ᠆タᡘ	77532	
UPS Outlets	か	7%3がなし 💟 適用	
Outlet Group 1	<i>4</i> 2	7がおなし 💟 適用	

14 負荷制限機能

負荷制限機能は、PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバを選択して、「デバイスのプロパ ティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]ー[負荷制限機能]を選択します。 負荷制限機能を使用しコントロールコンセントグループを電源オフにできます。 必要な項目にチェック入れ、設定値を入力し[適用]ボタンを押してください。 設定した条件を満たすと該当のコンセントグループは電源オフとなります。 "関連付けられているアクション"は負荷制限機能によるコンセントグループがオフになったときにアクションを実行 させることができます。

負荷制限機能

▲ 以下のいずれかの状況に該当する場合、電力負荷制限により、お使いのコンセントグループへの給電が停止されます。安全なシャットダウンが 保証されないため、各コンセントグループに接続されている機器を把握することが必須となります。								
Outlet Group 1 🕐 Outlet Group 2	Outlet Group 1 🕐 Outlet Group 2							
1)セトゲループが電源わになるとき: □ パッテリ運転時間が次を超過: □ パッテリ運転が次を下回った場合のランタイム残り時間: □ UPS過負荷状態あり	1800秒 120秒							
関連付けられているアクション:	180 秒							
	海田							

負荷制限機能を使用するにあたり以下の点にご注意ください。

- "関連付けられているアクション"の"電源オフ待機時間を使用"にチェックを入れていない場合、設定した条件を満た すと該当のコンセントグループは即時電源オフします。 なお、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループにチェックを入れ ていない場合は、シャットダウン処理は行われませんので注意してください。
 - "電源オフ待機時間の使用"の値は、「シャットダウンの設定」の"OS がシャットダウンする時間"、「コンセントシー ケンス」の"経過後コンセントグループの電源オフ"になります。

"電源オフ待機時間の使用"の値を変更する場合は、上記のそれぞれの設定画面で変更してください。

- ●負荷制限機能によりコンセントグループが電源オフした後、電源復旧時に自動起動させるには、"関連付けられているアクション"の"AC商用電源復旧時にコンセントグループを自動的に電源オン"にチェックを入れてください。 なお、本設定値と「コンセントシーケンス」の"AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源 オン"とは異なります。
- "UPS 過負荷状態あり"では、"関連する操作"の設定は無効になります。 条件を満たすと該当のコンセントグループは即時電源オフします。 コンセントグループの電源オンは、手動で行ってください。
- ●負荷制限機能の設定は「コンセントシーケンス」の設定より優先されます。負荷制限機能を使用しない場合は、設定条件の各項目のチェックボックスにチェックを入れないでください。
- ●負荷制限機能の設定/変更を行う場合は、該当のコンセントグループが電源オンしている必要があります。
- ●メインコンセントグループには負荷制限機能は使用できません。
- ●UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を接続して、マルチサーバ構成にて運用している場合、負荷制限機能は利用しないでください。負荷制限機能によるシャットダウン条件が発生した場合でも、スレーブサーバに対するシャットダウン処理が行われず、強制電源断の動作となります。

15 UPS との通信設定について

LCD パネルなし Smart-UPS 使用時、 PowerChute Business Edition コンソール、または WebUI を使用することで シグナリングタイプの変更、および COM ポートの変更ができます。

注意: LCD パネル付き Smart-UPS では、シグナリングタイプの変更はできません。シグナリングタイプの変更をす る場合には、PowerChute Business Edition エージェントの再インストールが必要です。

また、ポートを変更については、マスタサーバの場合には、PowerChute Business Edition エージェントの 再インストールが必要です。下記画面での変更はできません。

PowerChute Business Edition コンソールから変更を行う場合は、デバイスのプロパティを表示後、「詳細項目の表示」 のチェックボックスをオンにし、[通信] – [UPS の通信]を選択することで表示される下記画面にて変更を行います。



WebUIの場合は[サーバーシャットダウン]-[システムの設定]にて表示される下記画面より変更を行います。

PowerChute Business Edition	PowerChute*			Smart-UPS 1500 RM
	システムの設定			?
	通信のりた			
Smart-UPS 1500M	ንታት ሀ ንታቁናን°	1-22	~	
▼サーバーシャットダウン	デバイスの通信ポート			
シャットダウンの設定 システムの設定	通信ポート	COM2 V		

- 15.1 シグナリングタイプの変更
- ※ LCD パネル付き Smart-UPS でシグナリングタイプの変更をするためには、PowerChute Business Edition エージェントの再インストールが必要です。

シグナリングタイプの作業を行う前に、以下のことを注意してください。

<シグナリングタイプの変更を行う際の注意>

シグナリングタイプを変更する場合は、そのシグナリングタイプに対応したケーブルを予め準備しておいてください。

UPS との通信に使用するケーブルは「2 ハードウェア要件」の "接続ケーブル" を参照してください。

- シグナリングタイプ変更を行う場合、その作業途中に「通信切断」のイベントが発生しますので留意してください。
- シグナリングタイプが『シンプルシグナリング』に設定されているサーバにスマートシグナリング用のシリアルケーブルを接続すると、「電源障害」のイベントが検出されます。
 これは、シンプルシグナリングの設定になっているサーバにスマートシグナリング用のシリアルケーブルを接続すると、PowerChute Business Edition が「電源障害」を検出する仕様です。このイベントが検出されたために、
 実際に UPS が電源障害によるオンバッテリ状態になることはありません。ただし、PowerChute Business Edition としては「電源障害」と認識し、コンソールの[サーバシャットダウン]ー[電源障害]にて設定する「電源障害時のシャットダウン開始」の条件に適合した場合、サーバのシャットダウン処理を開始しますので注意してください。



- シグナリングタイプをスマートシグナリングからシンプルシグナリングに変更する場合、「Interface Expander のベーシックポート」を選択してください。
- 以前に設定していたスケジュールは、シグナリングタイプを変更することでそれぞれ以下のようになります。不要な混乱を避けるためにも、シグナリングタイプを変更する前に、以前に設定したスケジュール情報は削除することをお奨めします。(シグナリングタイプを変更した後でも、スケジュール情報の編集、削除は可能です。)

[スマートシグナリングからシンプルシグナリングに変更した場合]
 設定されているスケジュール情報は以下のように変更されます。
 次回のシャットダウン日時:(以前の情報のまま変更されません)
 期間:再起動なし
 頻度:(以前の情報のまま変更されません)
 動作としてスケジュールシャットダウン時間にサーバはシャットダウンされますが、その後サーバは自動起動
 されません。

[シンプルシグナリングからスマートシグナリングに変更した場合]
 設定されているスケジュール情報は以下のように変更されます。
 次回のシャットダウン日時:(以前の情報のまま変更されません)
 期間:『OS シャットダウン待機時間』+『OS シャットダウン期間』+6分 に変更されます
 頻度:(以前の情報のまま変更されません)
 動作としてスケジュールシャットダウン時間にサーバがシャットダウンされ、シャットダウン時間から「期間」の時間経過後にサーバが自動起動されます。

- 15.1.1 スマートシグナリングからシンプルシグナリングへの変更
- シグナリングタイプを変更するサーバのデバイスのプロパティを表示し、[通信]-[UPS の通信]を選択します。
 ※「通信」メニューを表示するには、画面左下の「詳細項目の表示」にチェックを入れてください。
 現在設定しているシグナリングタイプ「スマートシグナリング」が表示されます。

Windows		
 日・全般 ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSのD情報 UPSステータス ハシテリステータス 電源ハラメータ 	<u>疗──次の更新</u>	UPSの通1
ーローエネルギー管理 ーローサーハジャットなウソ		通信ポートの設定
ーー:診断 ー・ログファイル ー・通信	シケプナリンク・ステータス:	スマートシウナリング
UPSの通信	シケナリンケタイフキ	74-1
····· SINIME/EUE	ホ°−トのステータス:	通信OK
	ホペート:	COM2

- サーバからシリアルケーブルを外してください。
 (このとき「通信切断」のイベントが発生します。)
- ③ ドロップダウンメニューより「Interface Expander のベーシックポート」を選択し、「適用」ボタンを押してくだ さい。

デバイスのブロバティ	\otimes
Windows	\sim
 日・全般 ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSのDI情報 UPSステータス リ・ハシャッドなウン スケジュールシャットなウン スケジュールシャットなウン モブルットがウンタイプ ロウフィル 	<u>データの更新</u> UPSの通信 通信ポートの設定 シヴェリングステータン・ ステートがサリング
- イベンログ - ログオプション - ログオプション - ロクラクション - ロPSの通信 - SNMP通信	ジがサリングダイフキ Interface Expanderのペー>ックオペート @ ポ [*] ートのステータス: <u>3時/ましん</u> ポ [*] ート: COM2 @
☑ 詳細項目の表示	適用(A) (キ)/セル(C) ヘルフ*(H)
準備完了。	

- ④ 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押してください。
 - 注意:シリアルケーブルを外すまで、メッセージの「OK」ボタンは押さないように注意してください。また、この時点ではシンプルシグナルのシリアルケーブルも接続しないでください。



⑤ デバイスのプロパティウィンドウに戻りますので、下記の丸で囲まれたボタンが「キャンセル」から「閉じる」 に変わった後、他のメニューは選択せずに「閉じる」ボタンを押してください。

$\overline{\tau}' \Lambda' \overline{I} \overline{\lambda} \mathcal{O} \overline{J}' \overline{I} \Lambda' \overline{\tau}_{\overline{I}}$	×
 → 金般 → な入/ UPS情報 ● 管理者情報 → UPSのD情報 → UPSステータス → パッデリステータス − ポッデリステータス − 電源パラメータ 	<u>デー</u>
 ロメルギー管理 ロサーバンをかりなヴン ロジファイル ログファイル ご信 SNMP通信 	通信ホペートの設定 ジがナリングステータス: Interface Expanderのパーシックホペート ジグナリング%イプ: Interface Expanderのパーシックホペート @ ホペートのステータス: 通信OK ホペート: COM2 @
✓ 詳細項目の表示 第編書で、	道用(A、【開じる(Q)】*#7*(H)

⑥ コンソールのメイン画面が表示されますので、データの更新ボタンをクリックし変更したシグナリングタイプの 内容が正しく反映されているかを確認します。

Power(Chute Business Editio	n Basic			×				
ביא-אע <u>כ</u>) א	レゾール(C) 表示(V) ツール(I) ヘルプ(H)								
🖬 🖪 🎒									
	171 J	्रेन-१२	(UPSモデル	(I-ジェントのOS)					
	Windows	オンライン	Back-UPS Smart UBS 1999	Windows Server 2008 R2					
27-92	Mindows	42712(99=.	. Smart-UFS 1200	Windows Server 2012 R2					
電源 イヘントサマリ									
st.									
電圧分析									
	windows		場所:						
リスクアセスメント	UPS∓ร%ป: Back-UPS		連絡先:						
	□ ◆オンライン 詳細:システムは正常に動f	乍しています。							
デバイスリストにに	」 は2台のデバイスがあります。								

- ⑦ その後、シンプルシグナリング用のシリアルケーブルをサーバに接続してください。
- ⑧ 対象のサーバの状態が「オンライン」であることを確認してください。

Power	Chute Business Edition	Basic		. O O X					
コンソール(<u>C</u>)	コンソール(C) 表示(V) ツール(I) ヘルブ(H)								
🖬 🖪 🖨	- 30 ∰								
	(ホスト名	(२२-५२	(HPSIF*)	<u> [I-ジェントのos</u>					
	Windows	オンライン (5%)	Back-UPS	Windows Server 2008 R2					
ステータス	V windows	42712(99~	Smart 61-0 1200	Windows Server 2012 R2					
-									
電源 イベントサマリ									
st.									
電圧分析									
	windows		場所:						
リスクアセスメント	Broty W. Back UPS		連絡先:						
	□ √ オンライン								
	「「「「「「「」」」、「「」」、「「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「	しています。							
デッバイスリストにの	は2台のデンバイスがあります。		接続先:Windows						

- ⑨ 次は UPS から送信される信号を正しく受信できるかを確認しますが、そのための準備として[サーバシャットダウン] [電源障害]の設定を確認します。マルチサーバを構成するすべてのサーバ(マスタサーバおよびすべての スレーブサーバ) について「電源障害時のシャットダウン」の設定が「即時」以外になっていることを確認してください。
 - ※『即時』に設定されていると、⑪の確認操作時にサーバがシャットダウンされます。

● 全般 ホスト/ UPS情報 ● ホスト/ UPSでは報 管理者情報 ● UPSのD/情報 ● UPSの方・タス ● サーパシャットダウンソ シャットダウンシーケンス ● シャットダウンシーケンス スケジュールシャットダウン ● ウブフィル ● UPSのパッテリ状態が次の時間経過後: ● 通信 ● UPSのパッテリ状態が次の時間経過後: ● ジャット ● UPSのパッテリ状態が次の時間経過後: ● ジャット ● UPSのパッテリ状態が次の時間経過後: ● ジャット ● UPSのパッテリ状態が次の時間経過後: ● UPSのパッテリ ● UPSのパッテリ ● UPSのパッテリ ● UPSのパット ● UPSのパット ● UPSのパット ● UPSのパット ● UPSのパット ● UPSのパット ● UPSのパット	デハイスのフ′ロハ′ティ Windows	
✓ 詳細項目の表示 通用(A) 閉じる(C) ヘルプ(H)	 □- 全般 □- ホスト/ UPS情報 □- 管理者情報 □- UPSのD/情報 □- UPSステ-タス □- サーパシャットなウシッ □- カシットなウシットクシス □- スケンシュールシャットなウシット □- ひかっよなショールシャットなウシット □- ロケファイル □- 通信 	<u>予一処更新</u> 電源障害時のシャットタウン開始: ● UPSのバッテリ状態が次の時間経過後: 1 ◆ 分 * フットイ LEBE
_	☑ 詳細項目の表示	適用(A) 閉じる(C) へルフ(H)

① UPS の電源コンセントを抜いて UPS をオンバッテリ状態にしてください。対象サーバが「電源障害」を検出した場合、シグナリングタイプの変更は正しく行われています。

Power	Chute Business Edition	ı Basic			- • ×			
コンソール(<u>C</u>)	表示(⊻) ツール(丑) ヘルフ℃上	D						
🖬 🖪 🎒	- 30 ∰							
	「木木名	(रन-१र	(UPSモデル	(I-ジェントのOS	<u> </u>			
	Windows	警告	Back-UPS	Windows Server 2	008 R2			
ステータス	Vindows 🗸	オンライン (クリー	Smart-UPS 1200	Windows Server 2	012 R2			
-								
電源 イベントサマリ								
str.								
電圧分析								
	windows		場所:					
リスクアセスメント	ant Till Dook - UDS		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
(詳細:商用電源障害のため、UPSをハージ動作に切り替えました。 詳細							
	推奨する対処方法:UP3 入力電源に関する問題が	5が正しく接続され。 5見つからない場合	、サーキットフルーカが正しく言 は、ご購入先(と問い合わ	没定されていることを確認 0せて下さい。	怨して下さい。			
デバイスリストに(。 は2台のデバイスがあります。 1	警告	接続先:Windows					

- ※「電源障害」が検出されない場合はシリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通 信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接 続 BOX(Share UPS)」と正しく接続されているかを確認してください。また、サーバ装置の仕様により使用 可能なシリアルポートが限られている場合がありますので、サーバ装置添付のマニュアル等も確認してくだ さい。
- ① ⑨において設定を変更した場合は、環境にあった設定に戻して使用してください。

- 15.1.2 シンプルシグナリングからスマートシグナリングへの変更
 - 注意:LCDパネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を接続して、スレーブサーバ として利用している場合、LCDパネルなし Smart-UPS の画面と同様のメニュー表示となり、以下で説明 するメニュー操作にて「シグナリングタイプ」を画面上は変更することができる表示になりますが、実際 には LCD パネル付き Smart-UPS との正常な通信を行うことができない状態となります。 このため、LCD パネル付き Smart-UPS においてシグナリングタイプを変更したい場合には、必ず PowerChute Business Edition エージェントの再インストールを行ってください。
- シグナリングタイプを変更するサーバのデバイスのプロパティを表示し、[通信] [UPS の通信]を選択します。([通信]メニューは左下の「詳細項目の表示」のチェックをオンにすると表示されます。)

現在設定されているシグナリングタイプ「Interface Expander のベーシックポート」が設定されています。

Windows	\sim
 日・全般 ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSのD情報 UPSのD情報 UPSステータス サーハシャッドウン サーハシャッドウン 田・サーハシャッドウン 	<u>テーシ如更新</u> UPSの通信
ピ ^{> 週16} ↓UPS20)通信 ↓SNMP通信	通信ホ ⁺ -トの設定 ジケナリングステータス: Interface Expanderのハ [*] >ックホ [*] -ト ジケナリンクタイフ [*] Interface Expanderのハ [*] >ックホ [*] -ト シウナリンクタイフ [*] Interface Expanderのハ [*] >ックホ [*] -ト の ホ [*] -トのステータス: 通信のK ホ [*] -ト・COM2
☑ 詳細項目の表示	」 適用(A) 開じる(C) へルフ(H)

- ② サーバからシリアルケーブルを外してください。
- ③ ドロップダウンメニューより「スマート」を選択し、「適用」ボタンを押してください。

デバイスのプロパティ	\otimes
Windows	\sim
 日・全般 ホスト/ UPSは情報 一管理者情報 一ピアのDU情報 UPSステータス サーハシャットタウン ログファイル ログファイル ローロタン) ログファイル ローロタン) ローレアの) ローレアク) ローレアク) ローレアク)	<u>デーかの更新</u> UPSの通信 通信ホートの設定
SNMP通信	ジグゲリングステータフ・ ジグゲリングライフキ スマート の
	ホ ^ペ ートのステータス: 通信OK
☑ 詳細項目の表示	適用(A) トンセル(C) ヘルフ(H)
準備完了。	

④ 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押してください。
 (このとき「通信切断」のイベントが発生します)
 注意:シリアルケーブルを外すまで、メッセージの「OK」ボタン押さないように注意してください。

これでPowerChute Business Editionエージェントはスマートシケナリングに設定されます。
ケーブルを接続したままシウナリングタイプを変更するとサーハガジャットダウンする可能¥性があります。シンプルシウナリングワーブルを 抜いたことを確認し、OKを押してください。OKを押し、シウナリングタイプ変更を適用後にスマートシウナリングワーブルを接続して 下さい。Interface Expanderを使用している場合は「Interface Expanderのヘーシックホート」を選択してください。
<u></u>

また、この時点ではスマートシグナリング用のシリアルケーブルも接続しないでください。

⑤ デバイスのプロパティウィンドウに戻りますので、下記の丸で囲まれたボタンが「キャンセル」から「閉じる」 に変わった後、他のメニューは選択せずに「閉じる」ボタンを押してください。

デベイスのプロペティ		\otimes
Windows		\sim
 E-全般 ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSのDI情報 UPSステータス サーハシャットタウン B・サーハシャットタウン B・ワンティル 	<u>デー物の更新</u>	UPSの通信
□-通信 □UPSの通信 □-SNMP通信	通 シケナリンケステータス: シケナリンケタイフ* スマー ホペートのステータス: ホペート: CON	信木*~トの設定 スマートシグナリンゲ -ト 通信OK M2
 評細項目の表示 準備完了。 		適用(【開じる(C)】ル7℃出)

⑥ コンソールのメイン画面が表示されますので、データの更新ボタンをクリックしてください。サーバにケーブルが接続されていない状態であるため、しばらくするとステータスが「不明」表示されます。

Power(Chute Business Edition Basic			
בארעב (<u>C</u>)	表示(ソ ッール(ゴ ヘルフベビ)			
🖬 🖪 🛋				
	(ホスト名) (ステータス) (UPSモデル) (エージェントのOS)			
	Windows 不明 Windows Server 2008 R2			
ステータス	V windows オフライア (ソソー Smart-UPS 1200 Windows Server 2012 R2			
-				
電源 イベントサマリ				
A.				
電圧分析				
i = i	windows 场阶:			
リスクバセスメント	UPStf%: 連絡先:			
□(?)UPS との通信UEの 詳細・Devices Edition エーンシルボUDSや通信できません				
	EFABLEOWERONDE DUSINESS EURION I -7 IPR/0F3Z201EC732200			
	推奨する対処方法:適切な通信ケーブルがUPSおよびPowerChute Business Edition エージェント のシステムの通信ボートに正しく接続されていることを確認して下さい。 それでも問題が推続する場合は、 ご購入先に問い合わせて下さい。			
デバイスリストにし	は2台のデバイスがあります。1 不明 接続先:Windows			

- ⑦ その後、スマートシグナリング用のシリアルケーブルをサーバに接続してください。
- ⑧ 対象サーバのステータスが「正常」かつ、「UPS モデル」に現在接続している UPS の名前が表示されます。
 注意:スマートシグナリングに変更した場合、スマートシグナリング用のシリアルケーブルをサーバに接続後、 サーバと UPS の通信を確立するためにしばらく時間がかかります。

Power	Chute Business Edition I	Basic			- • ×
בעעב (<u>C</u>) א-אעב	表示(⊻) ツール(エ) ヘルブ(出)				
🖬 🖪 🎒	- 30 ∰				
	(木木)名	(२न-१२	HPST7%	፲፲ージェントመOS	
	Windows	オンライン	Smart-UPS 1500 RM	Woldows Server 20	008 R2
ステータス	Vindows	オンライン (グツー	Smart-or-3 1200	Windows Server 20	J12 R2
-					
電源 イヘントサマリ					
st.					
電圧分析					
:=1					
:=;	windows		場所:		
リスクアセスメント	UPSモデル: Smart-UPS 1500	RM	連絡先:		
	□ ◆オンライン				
	詳細:システムは正常に動作し	っています。			
			拉结件业品		
771797NEC	よ2古のナバイスかめります。				

15.2 通信ポートの変更

※LCD パネル付き Smart-UPS のマスタサーバではポートを変更する場合、PowerChute Business Edition エージェントの再インストールが必要となります。 下記手順での変更はできません。 LCD パネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボードを接続したスレーブサーバについては、下記手順にて通信ポートの変更が可能です。

PowerChute Business Edition コンソールからのシリアルポートの変更手順を説明します。

対象サーバのデバイスのプロパティを表示させ、[通信]-[UPS の通信]を表示させてください。
 現在設定されているシリアルポートが表示されます。

デバイスのプロパティ	\otimes
Windows	\sim
	デーシの更新 UPSの通信 通信ホ ⁴ ートの設定 シグブナリングステータス: シグブナリングステータス: スマートシグナリング メウナリングタイプ* スマート ホ ⁴ ートのステータス: ホ ⁴ ートのステータス: ホ ⁴ ート: COM2
▶ ■ 詳細項目の表示	」 適用(A) 【閉じる(C) 【ヘルフ*(H)
準備完了。	

② ポートのドロップダウンメニューより、変更するシリアルポートを選択してください。

ϝ ·៱·ϯ ϪϴϽ ʹ <mark>Ϥ</mark> Λʹʹ ϝ ィ	\otimes
Windows	\sim
	デークの更新 UPSの通信 通信ホペートの設定 ジウゲリングステータス: スマートシクゲリング・ ジウゲリングダイフ* スマート シウゲリングダイフ* スマート シウゲリングタータス: 近く一トのステータス: 近く一トのステータス: 近く一トの 水ペート: COM1
♥ 詳細項目の表示	適用(A) (キャンセル(C)) ヘルフで出)
準備完了。	

③ 「適用」ボタンを押す前に、対象サーバに接続されているシリアルケーブルを変更した通信ポートにつなぎかえてください。つなぎかえましたら、「適用」ボタンを押してください。 (つなぎかえることで、「通信切断」のイベントが検出されます。)

デバイスのプロバティ	\otimes
Windows	\sim
 C 全般 本社/ UPS(情報) 管理者(情報) UPSの可信報0 UPSの可信報0 UPSのプリステータス パッデリステータス ボッパットウ マリア・ダス 電源パラメータ リッパットットがアン 日本 ビリアフィル 日 ロPSの通信 SNMP:通信 	シーシの更新 UPSの通信 シウゲリングステータス スマートンウナリング シウゲリングステータス スマートンウナリング シウゲリングステータス スマートンウナリング ホートのスケータス 通信のK ホート: COM1
☑ 詳細項目の表示	(油田(A) キャンセル(C) ヘルフで <u>日</u>
準備完了。	

④ 正しく変更されたかを確認するために、以下の確認を行ってください。

なお、対象サーバが使用しているシグナリングタイプにより確認方法が異なりますので注意してください。 <スマートシグナリングで使用している場合>

「適用」ボタン押下後、しばらく待ち、デバイスのプロパティウィンドウの[ログファイル]ー[イベントログ]を 参照してください。

最新のログに「通信確立」が出力されている場合は、UPS との通信が確立しています。

※ 最新のログが「通信切断」のままの場合は、UPS との通信が確立していません。シリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS」 と正しく接続されているかを確認してください。サーバ機種によっては、使用可能なシリアルポートが限ら れている場合があります。使用されるサーバ機種にて使用可能なシリアルポートを確認し、PowerChute Business Edition で使用するシリアルポートとして設定してください。

<シンプルシグナリングで使用している場合>

UPS から送られる信号を正しく受信できるかを確認するために、UPS をオンバッテリ状態にして「電源障害」 イベントを発生させますが、その前にマルチサーバを構成しているすべてのサーバ(マスタサーバおよびすべて のスレーブサーバ)について [サーバシャットダウン]-[電源障害]の「電源障害時のシャットダウン開始」設定 が<u>『即時』以外</u>に設定されていることを確認してください。

※『即時』に設定されていると、「電源障害」発生後サーバがシャットダウンされます。

デバイスのプロパティ	\otimes
Windows	\sim
 □ 全般 ▲ホスト/ UPS情報 管理者情報 UPSのD情報 UPSステータス サーパシャリなワンクス スケジュルシャリオウン ンキリオウンクス フケックス マクシットなり ログファイル ログコアイル ログコアケル ログコアケル ログコアション ロ ゴ信 	定応の更新 電源障害時のシレャントタウン開始: 町時 ● UPSのバッテリ状態が次の時間経過後: ● UPSのバッテリ状態が次の時間経過後: ● 分 > 2444上限時
✓ 詳細項目の表示	適用(A) 閉じる(C) へルブ(H)
準備完了。	

PowerChute Business Edition コンソールのメイン画面を表示して、UPS の電源コンセントを抜き、UPS をオン バッテリ状態にしてください。UPS からの信号を正しく受信できている場合、対象サーバに「電源障害」が表示 されます。

Power	Chute Business Editio	n Basic			- • ×
コンソール(<u>C</u>)	表示(⊻) ツール(エ) ヘルフ℃!	Ð			
🖬 🗟 🎒	🚯 🏢				
	(ホスト名)	(ステータス	(UPSモデル	(I-ジェントのOS	
	Windows	警告	Smart-UPS 1500 RM	Windows Server 2	008 R2
ステータス	V Windows	オンライン (グリー	Smart-UPS 1200	Windows Server 2	012 R2
-					
電源 イベントサマリ					
self-					
電圧分析					
	windows		場所:		
リスクアセスメント	UPSER'S CHARLENDE 15	00 BM	連絡先:		
	□ <u>▲</u> 電源障害				
	詳細:商用電源障害のな 詳細	とめ、 UPSをパッテク動	作に切り替えました。		
	推奨する対処方法: UF 入力電源に関する問題が	Sが正しく接続され、 が見つからない場合は	サーキットフルー加が正しく設 ご購入先 に問い合わ	定されていることを確認 せて下さい。	?して下さい。
デッバイスリストに	は2台のアハイスがあります。	書書	接続先:Windows		

※正しく受信できていない場合、状態が「正常」から変化しません。「電源障害」が検出されない場合は シリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通信ポート」に正しく接続さ れているか、および「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」 と正しく接続されているかを確認してください。サーバ機種によっては、使用可能なシリアルポート が限られている場合があります。使用されるサーバ機種にて使用可能なシリアルポートを確認し、 PowerChute Business Edition で使用するシリアルポートとして設定してください。

16 ユーザ名、パスワードの変更

16.1ユーザ名、パスワードの変更手順

PowerChute Business Edition サーバおよび、エージェントのユーザ名/パスワードを変更する場合は、コンソールのメイン画面より、[ツール] → [ユーザ名/パスワードの変更]を選択します。

Power	Chute Business Edition Basic			- • ×
コンソール(C)	表示(ゾ(I) _^ルブ(出)	_		
🔒 🗟 🎒				
R	ホストター ユーザ名/パスワードの変更(a)	UPSモデル mart-UPS 1500	(エージェントのOS VMA 5.10	(IP7ト) 172.16
<u>ス</u> テータス	Windows オンフィン (クリー	Smart-UPS 1200	Windows Server 20)12 R2 172.16
電源 イヘシトサマリ				
A				
電圧分析	<	IIII		>
	ESXi	場所:		
・・ リスクアセスメント	UPSモデル: Smart-UPS 1500	連絡先:		
	詳細:システムは高効率状態で運転中です。			
- =°o°∕zilzk(=)	 	t存在于Windows		
7 /1 /9 / NI	は2百(1)7 ハイスルめります。			

- 注意:現在のユーザ名/パスワードが分からない場合は、下記手順による変更はできません。現在のユーザ名/パ スワードが分からない場合、PowerChute Business Edition サーバおよび、エージェントをアンインストー ルし、再度インストールしてください。
- 注意:下記手順によりユーザ名/パスワードを変更した場合、ログインしているサーバおよび登録されている全て のエージェントのユーザ名/パスワードが変更されます。
- ① ユーザ名/パスワードの変更画面が表示されます。

ユーザ 名/パフ	マワードの変更	\otimes	
	ユーザ`名/パス	ワードの変更	
現 新 新しいパスワート 〕	ユーザ ² 名 在のハ ² スワート しいハ ² スワート ² の確認入力 適用(A) 閉じる(C) へ	ил«П)	現在のユーザ名が表示 されます。

- ユーザ名を変更する場合

[ユーザ名]欄に新しいユーザ名を入力し、[現在のパスワード]欄にパスワードを入力した後、[適用]ボタンを選 択してください。

- パスワードを変更する場合

[現在のパスワード]欄に現在のパスワードを入力し、[新しいパスワード]・[新しいパスワードの確認入力]欄に 新しいパスワードを入力した後、[適用]ボタンを選択してください。

注意:パスワードのみを変更する場合は、ユーザ名は変更/削除しないでください。 インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 - ユーザ名とパスワードを同時に変更する場合

ダイアログボックスの全ての欄 ([ユーザ名]、[現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワードの 確認入力]) に値を入力してください。

注意:ユーザ名とパスワードには、3~16 文字の半角英数文字(大文字・小文字)・記号(%=-~^@{[+]},. /_の15 文字が使用可能)を使用して設定してください。

② 正常に変更された場合、以下のメッセージが出力されます。



16.2 確認方法

ユーザ名/パスワードの変更が正しく行われているかを確認します。

- 注意: ログイン画面の [ユーザ名とパスワードを保存する] チェックボックスを有効にしている場合、再設定するま で保存しているユーザ名/パスワード(ログイン時に表示されるユーザ名/パスワード)は変更前の値になり ます。下記の確認手順を実行し、保存しているユーザ名/パスワードを変更してください。
- ① コンソールのメイン画面より[コンソール] → [ログイン設定]を選択し、ログイン画面を表示します。

•	PowerChuit	e Business Editio	n Basic			- • ×
-עעב	ル(C) 表示(V) -14(I) -147°(Ð			
<u>1</u>	「イン設定(」)…					
17			27-92	(UPSモデル	(I-ジェントのOS	(IP71-
ED ED	畑(ビ) 刷プレビュー(r).	ⁱ s	オンライン (クリー オンライン (クリー	Smart-UPS 1500 Smart-UPS 1200	Windows Server 2	172.16 012 R2 172.16
終	7(<u>x</u>)					
て イペジ						
4	A					
雷田	₩					
	ESX			場所:		
	UPS	モデル: Smart-UPS 15	00	連絡先:		
yz971		オンライン (グリーンモ	- ド) ***죠`₩#==+=:∞=+			
	iii	第二 ソスアムは「同外」 半小	感じ運転中じり。			
デ バイン	スリストには2台(のデハイスがあります。		接続先:Windows		

- ② 変更したユーザ名/パスワードを入力しログインします。コンソールのメイン画面が表示され、登録していたエ ージェントが表示されていれば問題ありません。
 - 注意:新しいユーザ名/パスワードを保存する場合は、[ユーザ名とパスワードを保存する] チェックを有効にしていることを確認しログインしてください。



17 IP アドレス、コンピュータ名の変更

17.1 IP アドレスを変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンの IP アドレスの変更は、以下の 手順で行ってください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントの IP ア ドレスを変更する場合
 - 注意: PowerChute Business Edition エージェントをコンソールのデバイスリストから削除後、再登録する際、 UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されます。
 - デバイスリストから削除する前に以下の設定情報をメモしておいてください。
 (各設定値の確認は、「20.1.5 確認事項」を参照してください。)
 「ローランタイムしきい値」はWebUIでのみ確認、設定を行うことができます。
 「OS シャットダウン期間」はWebUIでは「OS シャットダウン時間」と表現されています。
 LCD パネル付き Smart-UPS 使用時、"コンセントの遅延"では
 「OSのシャットダウン期間」は、「OSがシャットダウンする時間」

「電源回復時のUPS再起動」は、「AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン」 と表現されています。

また、LCD パネル付き Smart-UPS では「UPS 再起動待機(時間/容量)」項目および「ローランタイムしきい 値」項目は存在しません。

感度()		
警告音()		
OS のシャットダウン期	間 ()秒	
UPS 再起動待機(時間	D ()秒	
UPS 再起動待機(容量	b) ()%	
電源回復時の UPS 再起]動()	
セルフテストの診断スな	ァジュー ル()
ローランタイムしきい	直()秒	

WebUI を使用して PowerChute Business Edition エージェントの設定を個別に行った場合は、 その設定情報もメモしておいてください。

- ② PowerChute Business Edition エージェントサービス(APC PBE Agent)を停止し IP アドレスを変更します。
- ③ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから、変更をするエージェントを削除します。
- ④ PowerChute Business Edition エージェントサービス(APC PBE Agent)を起動し、PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストにエージェントを再登録します。
- ⑤ ①でメモした設定情報を設定します。
- ◆ PowerChute Business Edition サーバの IP アドレスを変更する場合
 - PowerChute Business Edition コンソールからPowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、 ログアウトします。
 - PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を停止し、IP アドレスを変更します。
 PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を起動します。
 - ③ IP アドレス変更後、PowerChute Business Edition コンソールから初めてログインする際は、手動で変更後の IP アドレスを「サーバ」欄に入力しログインしてください。
- ◆ PowerChute Business Edition コンソールの IP アドレスを変更する場合 特に作業は必要ありません。

17.2 コンピュータ名を変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンのコンピュータ名の変更は、以下の手順で行ってください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントのコンピュータ名を変更する場合
 - PowerChute Business Edition コンソールからPowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、 ログアウトします。
 - ② コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
 - ③ 再度、PowerChute Business Edition コンソールを起動し、ログインします。
- ◆ PowerChute Business Edition サーバのコンピュータ名を変更する場合
 - PowerChute Business Edition コンソールからPowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、 ログアウトします。
 - ② コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
 - ③ PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ下にある"console.ini"ファイルを開きます。 (デフォルト: ¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥console)
 - 注意: PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ配下ではなく以下のフォルダに作 成されることがあります。
 - なお、以下のフォルダを表示するためには、エクスプローラを起動し、「ツール」→「フォルダオプション」の[表示]タブにて、"すべてのファイルとフォルダを表示する"を選択してください。

「%SystemDrive%¥ユーザー¥<ユーザ名>¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files ¥APC¥PowerChute Business Edition¥console フォルダ内」

- ④ "console.ini"ファイル内の[ServerHistory]に残っている変更前のコンピュータ名・IP アドレスを手動で削除します。
 - 例) コンピュータ名を"hostname1"から変更する場合 [ServerHistory]

hostname1=192.168.1.101 ← 1 行削除する

⑤ コンピュータ名変更後、PowerChute Business Edition コンソールから初めてログインする際は、「ローカルサ ーバの検出」を実施し、検出された変更後のコンピュータ名(ホスト名)を選択します。

変更後のコンピュータ名(ホスト名)が検出されない場合は、手動でホスト名または IP アドレスを「サーバ」 欄に入力しログインしてください。

※コンピュータ名変更前に「ユーザ名とパスワードを保存する」のチェックを入れていた場合、チェック が外れていることがあります、必要に応じて再設定してください。

በታሻን	\otimes
	コンソールを接続するPowerChute Business Edition サーバのユーザ名とパスワードを入力して 下さい。
*	ユーザ名: apc パスワード: ●●●
	サーバ: Windows <u>a カルサーバの検出</u>
接紙	売(n) (キャンセル(C)) ヘルフペH)
🗌 ユーザ名とパスワー	小を保存する

◆ PowerChute Business Edition コンソールのコンピュータ名を変更する場合 特に作業は必要ありません。

17.3 IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンの IP アドレス、コンピュータ名の変更は、以下の手順で行ってください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントの IP ア ドレス、コンピュータ名を変更する場合
 - 注意: PowerChute Business Edition エージェントをコンソールのデバイスリストから削除後、再登録する際、 UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されます。
 - PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから削除する前に設定情報をメモしておいてください。(17.1 IP アドレスを変更する場合①項を参照してください。)
 - ② PowerChute Business Edition エージェントサービス (APC PBE Agent) を停止し、IP アドレス、コンピュー タ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
 - ③ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから、変更をするエージェントを削除します。
 - ④ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストにエージェントを再登録します。
 - ⑤ ①項でメモした設定情報を設定します。
- ◆ PowerChute Business Edition サーバの IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合
 - PowerChute Business Edition コンソールからPowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、 ログアウトします。
 - ② PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を停止し、IP アドレス、コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
 - ③ IP アドレス、コンピュータ名変更後、PowerChute Business Edition コンソールから初めてログインする際は、「ローカルサーバの検出」を実施し、検出された変更後のコンピュータ名(ホスト名)を選択します。
 変更後のコンピュータ名(ホスト名)が検出されない場合は、手動でホスト名または IP アドレスを「サーバ」 欄に入力しログインしてください。

ログイン	\otimes
	コンソールを接続するPowerChute Business Edition サーバのユーザ名とパスワードを入力して 下さい。
*	ユーザ名: apc
	transition for the second sec
接続(r) [++>telk@) [^ll7"(B)
□ ユーザ名とパスワート?	を(保存する

注意:変更前のコンピュータ名(ホスト名)がログイン画面のローカルサーバのリストに残ります。削除した い場合は、PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ下にある"console.ini" ファイルから変更前のコンピュータ名・IP アドレスを削除してください。 [削除手順]

- 1) PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ下にある"console.ini"ファイルを開き ます。(デフォルト: ¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥console)
 - 注意: PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ配下ではなく以下のフォル ダに作成されることがあります。 なお、以下のフォルダを表示するためには、エクスプローラを起動し、「ツール」→ 「フォルダオプション」の[表示]タブにて、"すべてのファイルとフォルダを表示する"を選択して ください。

「%SystemDrive%¥ユーザー¥<ユーザ名>¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files ¥APC¥PowerChute Business Edition¥console フォルダ内」

- 2) "console.ini"ファイル内の[ServerHistory]に残っている変更前のコンピュータ名・IP アドレスを手動で削除します。
 - 例) コンピュータ名を"hostname1"、IP アドレスを"192.168.1.101"から変更する場合 [ServerHistory] hostname1=192.168.1.101 ← 1 行削除する
- ◆ PowerChute Business Edition コンソールの IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合 特に作業は必要ありません。

18 コンソールと WebUI における機能差分

LCD パネルなし Smart-UPS を使用する場合のみ

	機能	Console	WebUI	備考
操作	「管理者情報」の設定	0	Δ	WebUIではメモの登録が不可
	「UPSのID情報」の設定	0	Δ	WebUIではUPS名のみ設定可能(デバイス1~4の 設定は不可)
	「最終バッテリ交換日」の設定	0	Δ	WebUIでは月まで登録が可能(日は不可)
	「バッテリ切替値(上限)」の設定	0	0	
	「バッテリ切替値(下限)」の設定	0	0	
	「感度」の設定	0	0	
	「警告音」の設定	0	0	
	「コマンドファイル」の設定	0	0	
	「コマンドファイル待機時間」の設定	0	×	コマンドファイル実行を開始するまでの待機時間
	「コマンドファイル期間」の設定	0	0	コマンドファイルの実行に要する時間
	「コマンドファイル」のテスト	0	×	コマンドファイルをテストする
	「OSシャットダウン待機時間」の設定	0	×	OSシャットダウンを開始するまでの待機時間
	「OSシャットダウン期間」の設定	0	0	OSのシャットダウンが開始されてからUPSが OFFになるまでの時間の設定 ※WebUIでは「OSシャットダウン時間」という項 目名になる
	「シャットダウンタイプ」の設定	0	0	Windowsサーバのみ設定可、Linuxは不可
	「ローバッテリ信号時間」の設定	×	0	
	「ローランタイムしきい値」の設定	Δ	0	Consoleでは「OSシャットダウン待機時間」+「OS シャットダウン期間」に自動で設定される。WebUI では値を直接設定可能
	「スケジュールシャットダウン」の設定	0	×	
	「電源障害時のシャットダウン開始までの待機時間」の設 定	0	0	WebUIでは[イベント]→[アクション]の「バッテリ状 態しきい値超過」 イベントで設定可能
	「電源回復時のUPS再起動の有無」の設定	0	0	
	「UPS再起動待機(容量)」の設定	0	0	
	「UPS再起動待機(時間)」の設定	0	0	
	「セルフテスト」の実行	0	0	
	「セルフテスト診断スケジュール」の設定	×	0	設定可能なパラメータは「UPS起動時」、「UPS 起動時およびその後7日ごと」、「UPS起動時およ びその後14日ごと」、「しない」
	「UPSランタイム較正」の実行	0	0	
	「UPSランタイム較正」の停止	0	0	

	機能	Console	WebUI	備考
確認	「バッテリのステータス」の表示	0	0	
	「バッテリ電圧」の表示	0	0	
	「ランタイム残量」の表示	0	0	
	「バッテリ容量」の表示	0	0	
	「エネルギー使用量」の表示	0	0	
	「シグナリングタイプ」の表示	0	0	
	「ポートのステータス」の表示	0	×	
	「イベントログ」の表示	0	0	
	「データログ」の表示	0	0	
	「電源イベント」のグラフ表示	0	×	
	「入力電圧」のグラフ表示	0	×	
	「リスクアセスメント」の表示	0	×	

19 運用上の問題点と注意事項

PowerChute Business Edition 使用時に発生する問題および注意事項については、各項目を参照してください。

19.1インストール関連

19.1.1 インストール上の問題

インストール時のエラーメッセージ

PowerChute Business Edition のインストール時に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
不明なプログラムがお使いのコンピュータへのアクセス	このメッセージは Windows OS のセキュリティ機能で、ユーザー
を要求しています。	アカウント制御(UAC)を有効にしていると表示されます。イン
	ストールを続行するには、[許可]をクリックして下さい。
UPS サービスを停止できません。再起動してからもうー	セットアッププログラムはWindowsのUPS サービスを停止でき
度セットアップし直して下さい。	ませんでした。コンピュータを再起動してから、PowerChute
	Business Edition エージェントを再インストールして下さい。
<エージェント/サーバ>サービスのインストール時にエラ	PowerChute Business Edition サービスのインストールに失敗し
一が発生しました。再起動してからもう一度セットアップ	ました。既にインストールされている PowerChute Business
し直して下さい。	Edition ファイルが無いこと、およびコンピュータで使用している
	OS がサポートされていることを確認して下さい。
次の dll のロード時にエラーID が発生しました: dll の ID	セットアッププログラムが DLL ファイルのロードに失敗しまし
	た。再インストールを行う前に、次のことを実行して下さい。
	 コンピュータで使用しているOSがサポートされているか確認
	して下さい。
	 コンピュータが PowerChute Business Edition エージェントの
	要件に記載の要件を満たしているか確認して下さい。
必要なリソースのロードに失敗しました。	PowerChute Business Edition コンポーネントのインストールに
	必要な DLL ファイル、InstallShield リソース、およびその他のリ
	ソースをロードできませんでした。コンピュータに十分なメモリ
	があることを確認してから、もう一度インストール作業を行って
	下さい。ハードウェア要件を参照して下さい。
パスワードが3~16文字ではありません。	3~16 文字のパスワードを使用して下さい。
ユーザ名が3~16文字ではありません。	ユーザ名は3~16文字の長さにする必要があります。
いったんログオフしてから、管理者権限を持つアカウント	PowerChute Business Edition コンポーネントをインストールす
を使ってセットアッププログラムを再実行して下さい。	るには、コンピュータに対する管理者権限が必要です。
選択したパスは正しくありません。	PowerChute Business Edition はローカルハードディスク以外の、
	ネットワークドライブなどのドライブにはインストールできま
	せん。
セットアッププログラムが UPS サービスを再開できませ	Windows の UPS サービスが再開しません。たとえば、
ん。電源保護を有効にするには、サービスを手動で再開す	PowerChute Business Edition エージェントの新バージョンをイ
るかまたはコンピュータを再起動する必要があります。	ンストールするために PowerChute Business Edition 旧バージョ
	ンをアンインストールした時に、サービスが停止しました。コン
	ピュータを再起動するか、または手動でサービスを再開して下さ
両万のバスワードが一致していなければなりません。 	[バスワード]フィールドおよび[確認]フィールドに入力したパス
	ワードは、同一である必要があります。
続行するにはあなたの許可が必要です。	このメッセージは Windows OS のセキュリティ機能です。[続行]
	をクリックして下さい。

19.1.2 エージェントインストール時に「OpenService failed」というエラーメッセージが表示される PowerChute Business Edition エージェントのインストールをキャンセルすると、以下のメッセージが表示される場合 があります。このメッセージが発生すると、PowerChute Business Edition フォルダの一部は削除されないままになる 場合がありますが、そのまま、PowerChute Business Edition を再インストールすることができます。 また、フォルダは手動で削除することも可能です。

APC PBE Agent	X
OpenService failed - 指定されたサービスはインストールされたサービスとして (0x424)	存在しません。
	OK

19.1.3 OS イベントビューア:アプリケーションに「ソース: crypt32 ID:8/エラー」が記録される

PowerChute Business Edition をインストールすると、OS イベントビューア:アプリケーションに「ソース: crypt32 ID:8/エラー」が記録される場合があります。

(回避策)

本現象は、以下のマイクロソフトのサポートページに記載されている現象です。

詳細および解決方法については下記をご確認ください。

http://support.microsoft.com/kb/317541/ja

19.1.4 OS アップグレードおよび Service Pack 適用

すでに PowerChute Business Edition がインストールされたサーバに対して OS をアップグレードする場合や Service Pack を適用する場合は、PowerChute Business Edition をいったんアンインストールする必要があります。なお、アンインストールをする前に PowerChute Business Edition にて行った設定情報 (UPS の設定値、スケジュール情報等) を予めメモしておいてください。

OSのアップグレードおよび Service Pack 適用後に、再度、PowerChute Business Edition をインストールし、メモした内容を基に再設定を行ってください。

19.1.5 PowerChute Business Edition アンインストール時の UPS 通信ケーブルの取り外し

PowerChute Business Edition をアンインストールして、再インストールする前にシステムを手動で再起動するような 場合、サーバから UPS と通信するためのシリアルケーブルを取り外してください。

再起動時に、OSから通信ポートに文字列が送信され、UPSがスマートシグナルモードの場合、UPSがこの文字列を バッテリ動作に切り替える命令と解釈してしまうことがあります。

例えば、PowerChute Business Edition がインストールされていない状態で UPS のシリアルポートに通信ケーブルが 接続されたシステムを再起動すると、OS が送信した文字列によって UPS がバッテリ動作に切り替わりランタイム較 正が実行されてしまいます。このような不要なバッテリ動作への切り替えによってバッテリ残量が減少し、インスト ールが失敗することがあります。

19.1.6 PowerChute Business Edition エージェントのバージョンについて PowerChute Business Edition エージェントのバージョンは、

LCD パネル付き Smart-UPS を使用した環境では、バージョン: 9.1.1

LCD パネルなし Smart-UPS を使用した環境では、バージョン: 9.0.3

となります。

19.2 UPS とサーバ間の通信問題関連

19.2.1 セットアッププログラムが UPS を自動検出できない

PowerChute Business Edition が UPS を自動検出しない場合は、以下の点を確認してください。

- 注意:セットアッププログラムでは、N8180-80 UPS インタフェース拡張ボードに添付のシリアルケーブルおよび N8580-04 UPS インタフェースキットで接続されているデバイスは検出されません。したがって、UPS イン タフェース拡張ボードまたはマルチサーバ接続 BOX(Share UPS)のベーシックポートを介して接続される UPS のポートと UPS タイプを、セットアップ中に指定してください。本製品添付のシグナリングケーブルで 自動検出が行えない場合は、以下の点を確認してください。
 - UPS を接続する COM ポートを端末エミュレータなどの他のサービスで使用している場合は、そのサービスを 停止するかまたは UPS を他の COM ポートに接続して、[自動検出の実行]でセットアッププログラムの UPS 検索を再度実行します。
 - PowerChute Business Edition エージェントサービス(APC PBE Agent)が実行されているか確認します。
 - 適切なケーブルを使用しており、しっかりと接続されているか確認します。「2 ハードウェア要件 接続ケ ーブル」を参照してください。
 - USB ケーブルを使用している場合は、次の項目を確認してください。

 通信ポートが USB に設定されているか確認します。(シリアルから USB 接続に変更するには、PowerChute Business Edition Agent を再インストールする必要があります。)
 Windows の [コントロール パネル] から [管理ツール] → [コンピュータの管理] → [HID] (ヒューマンインタフェースデバイス)を選択してご使用の USB デバイスについて確認します。[HID]、または([HID] の下)に [American Power Conversion USB UPS] ドライバが表示されていない場合は、ご使用のコンピュータの USB ポートが有効であるか確認します。USB ポートの代わりに USB ハブ(お勧めしません)を使用している場合は、ハブに電源が通っているか、アダプタが必要か(ハブのマニュアルを参照)、UPS に接続されている USB ケーブルが連結終端のケーブルか、UPS のアップストリームにある USB デバイスすべてが通信しているかに ついて確認します。

19.2.2 PowerChute Business Edition の状態が「通信なし」「通信切断」となる場合 PowerChute Business Edition の状態が「通信なし」、「通信切断」の場合は、UPS との通信が正常に行われていません。これらの問題を解決するには、シグナリングタイプとシリアルケーブルの確認作業を行ってください。

シグナリングタイプ	接続するケーブル の型番	補足
LCDパネルなしSmart-UPS		
スマートシグナル(Smart)	K410-313(1A)	シリアルケーブル(940-0024 E)
シンプルシグナル (Simple)	N8580-04	シリアルケーブル(940-0020 E)
LCDパネル付きSmart-UPS		
	(UPSに添付)	シリアルケーブル (940-0625A)
スマートシグナル(Smart)	K410-283(4A)	シリアルケーブル (940-1525A)
	K410-248(1A)	USBケーブル
	(N8180-80 UPSイ	
シンプルシグナル (Simple)	ンタフェース拡張	シリアルケーブル (940-0020E)
	ボードに添付)	

シグナリングタイプとシリアルケーブルの確認

PowerChute Business EditionがUPSと通信するシグナリングタイプには、スマートシグナルとシンプルシグナル があります。

スマートシグナルはUPSの様々な状態を監視でき、さらにPowerChute Business EditionからUPSに対して様々なアクションをとることができるシグナリングタイプです。

上記表を参照し、実際の環境で使用しているケーブルが正しいか確認してください。

USBケーブルを使用してUPSと接続する場合、PowerChute Business Editionエージェントインストール時に USBケーブルを接続せずにインストールすると、UPSとの接続を確立することができなくなります。

ー旦PowerChute Business Editionエージェントをアンインストールし、再度インストール手順に従いインストー ルしてください。

LCDパネル付きSmart-UPSでUPSインタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成の場合、 スケジュールによる再起動または、停電の復旧によるサーバ起動の際に、マスタサーバのPowerChute Business Editionの状態が「通信なし」となる場合があります。

この状態は、PowerChute Business EditionとUPSとの間の通信確立処理の中で一時的に表示される状態であり、 運用上問題はありません。通信確立状態になるのを待ってください。

サーバOSの起動処理が安定後もこの状態が回復しない場合は、サーバとUPSとの間の接続状態を確認してください。主な確認項目を以下に記載します。

-正しいケーブルを使用しているか

-UPSとケーブルが正しく接続されているか

-サーバとケーブルが正しく接続されているか

-PowerChute Business Edition以外のアプリケーションがシリアルポートを使用していないか

また、下記LO機能あるサーバにおいて、シリアルコマンドラインインターフェースを有効に設定するとシリア ルポート(COMポート)経由の通信が停止することがあります。

Express5800/R120h-1E Express5800/R120h-2E Express5800/R120h-1M Express5800/R120h-2M Express5800/T120h

そのため、UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を「Disabled」にしてください。 1. System Utilities(F9) > System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port

2. System Utilities(F9) > System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status

19.2.3 DNS サーバが見つからない場合のネットワーク通信上の問題

次のいずれかの状況下において、PowerChute Business Edition エージェント、サーバ、およびコンソールからのネットワーク通信上の問題が発生する恐れがあります。

- ご使用のネットワークにDNSサーバが無い
- ご使用のローカルシステムが最近、ネットワークから切断された
- ローカルシステムとDNSサーバの間にネットワーク上の問題が発生している
- ピアツーピアネットワークまたはスタンドアロンシステムを実行している

この問題を解決するには、IP アドレスを使用するよう PowerChute Business Edition を設定して DNS サーバのホス ト名を解決しないようにします。

- 1. PowerChute Business Edition コンソールを開きます。
- 2. [表示]メニューから[設定]を開きます。
- 3. [ネットワーク]タブを選択します。
- 4. [ホスト名を解決する]オプションの選択を解除します。
- 5. [適用] をクリックします。

19.3.1 OSのスタンバイ機能作動により設定したスケジュールシャットダウンの時間がずれる問題 Windows環境において、PowerChute Business Edition よりスケジュールシャットダウンを設定し、設定した時間に OSのスタンバイ機能が作動している場合、実際のシャットダウンはスタンバイ状態から復帰後に実行されます。ま た、スタンバイ状態からの復帰時刻が設定したシャットダウン開始時間を経過していても、シャットダウンは実行さ れます。

(例) スケジュールシャットダウンを午後7時~午前7時で設定し、コンピュータが午後5時~午後9時までスタンバイ状態にあった場合、午後9時にスタンバイ状態から復帰した時に午後7時に管理上のシャットダウンが開始される旨のメッセージが表示されます。その数分後にシャットダウンが開始され、12時間後にUPS が再起動します。

19.3.2 PowerChute Business Edition のスケジュール機能を使用する際の注意

PowerChute Business Edition コンソールにて設定できるシャットダウン/起動のスケジュール機能 (スケジュール機能の詳細は「11.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス」を参照してください)を利用して、サーバの自動運転を行う場合、PowerChute Business Edition のスケジュール機能以外の手段によりサーバがシャットダウンされると、スケジュール設定が有効になりません。

【スケジュールどおりに起動しない例】

20:00 オフ、8:00 オンのスケジュール設定を行っているとします。ここで保守作業などのため21:00 にサーバを 起動し、22:00 に PowerChute Business Edition のスケジュール機能以外でシャットダウンした場合、その後のス ケジュール設定は有効となりません。つまり、8:00 にサーバは自動でオンされません。

PowerChute Business Edition のスケジュール運転の設定を有効にするには、PowerChute Business Edition のスケジュール機能によりシャットダウンを行ってください。

19.3.3 ランタイム較正を実行中にスケジュールシャットダウンを行っても UPS がオフされない

- シャットダウン/起動のスケジュールが登録されているサーバ上でランタイム較正を実行した場合、スケジュールシャットダウン時間になるとサーバのシャットダウンは行われますが、UPS ではランタイム較正が実行されたまま電源 供給が停止しないため、スケジュール起動時間になってもサーバは起動しません。
- ランタイム較正を実行する場合は、ランタイム較正中にスケジュールによるシャットダウンが行われないように注意 してください。
- ※LCD パネル付き Smart-UPS ではランタイム較正実施中にスケジュールシャットダウン時間となった場合、ランタ イム較正がキャンセルされスケジュールシャットダウンが優先されます。

19.3.4 スケジュールシャットダウンにおける最大スリープ時間について

PowerChute Business Edition のスケジュールシャットダウンの設定画面にて設定できる最大スリープ時間は、使用する UPS 機種にかかわらず、「14 日 23 時間 54 分」です。

しかし、UPS HW の仕様により、UPS 機種により最大スリープ時間が異なります。

- ーLCD パネルなし Smart-UPS : 14 日 23 時間 54 分
- -LCD パネル付き Smart-UPS : 14 日

このため、LCD パネル付き Smart-UPS では、スリープ時間が 14 日を越える(14 日 6 分以上)ようなスケジュールシャットダウンを実行した場合、UPS はスリープ状態とはならずにオンラインとなり、設定値通りに動作しません。 LCD パネル付き Smart-UPS をご使用の場合は、UPS のスリープ時間が 14 日までとなるよう設定してください。

19.3.5 「スケジュールされたシャットダウン」の設定について

LCD パネル付き Smart-UPS を使用した環境にて、スケジュール運転の設定を行う際、カレンダー画面にてスクロールを行うと正しく日付が選択できないことがあります。これは Internet Explorer に起因する事象になります。選択位置を調整し、スケジュール運転する日付の設定を行ってください。

19.3.6 スケジュールシャットダウン開始時刻前のエージェントサービス起動によりコマンドファイルが実行さ インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

れない問題

PowerChute Business Edition のスケジュール運転機能を利用してスケジュールシャットダウンを行っている場合、ス ケジュールシャットダウン開始時刻まで10分未満のタイミング(スケジュールシャットダウンの開始時刻10分前 に記録される「yy/mm/dd hh:mm に設定されている管理上のシャットダウンが開始されました」のイベントが記録さ れないタイミング)にて PCBE エージェントサービスが起動した場合、そのスケジュールシャットダウン開始後のシ ャットダウンシーケンスにおいて、コマンドファイルが実行されない問題が発生します。

そのため例えば、停電から復帰後の自動起動または、手動にてサーバ起動を行った際に、あらかじめ設定しているス ケジュールシャットダウンまでの時間が10分未満である可能性の場合には、そのスケジュールシャットダウン処理 をキャンセルし、スケジュールシャットダウンの開始時刻を15分以上先の時刻に再設定してスケジュールシャット ダウン運用を行ってください。

19.3.7 N8142-33 Smart-UPS にてスケジュールによる自動起動が行われない現象について

N8142-33 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している環境において、UPS 装置のファームウェアが「v9.2」または それより古いバージョンの場合、以下の現象が発生する場合があります。

※UPS 装置のファームウェアバージョンの確認手順については、UPS 装置添付のマニュアルにてご確認ください。 <現象1>

スケジュールシャットダウン後、スケジュールの起動時刻になっても UPS がオンラインにならず、スケジュールに よる自動起動が行えない場合があります。

<現象2>

電源障害によるシャットダウンにて、復電後に UPS を自動起動するよう設定していた場合であっても、起動条件を 満たしているにもかかわらず、UPS がオンラインにならず、自動起動が行えない場合があります。

このような現象が発生した場合、以下の回避策を行ってください。

(回避策)

以下の手順にて、UPS のバッテリコネクタを外し、再接続してください。

※ マシンは、予め手動でシャットダウンしておいてください。

- ※ バッテリコネクタの取り外し/再接続方法、および UPS の電源をオフ/オンする手順については、UPS の取扱 説明書をご確認ください。
- (1) UPS 前面の On/Off ボタンを押して、UPS の電源をオフにします。
- (2) UPS のプラグをソケットから取り外します。
- (3) UPS のバッテリコネクタを外します。

その後、前述の手順を逆に実行してください。

- (4) UPS のバッテリコネクタを再接続します。
- (5) UPS のプラグをソケットに接続します。
- (6) UPS 前面の LCD メニューから Control 画面を選択し、リブート(reboot w/ no delay)を実施し、起動してく ださい。

なお、上記現象については、N8142-33 のファームウェアバージョン「v9.6」またはそれ以降のバージョンにて修 正されておりますので、ファームウェアのバージョンアップ実施を推奨いたします。

UPS の最新ファームウェアは以下 WEB のダウンロードの無停電電源装置(UPS) 関連より入手可能です。 http://support.express.nec.co.jp/pcserver/ 19.4 WebUI、デバイスのプロパティ関連

19.4.1 [エネルギー使用量]画面を表示する際に発生する現象について

PowerChute Business Edition コンソールより[デバイスのプロパティ]やWebUI から[エネルギー使用量]画面を表示しようとすると以下のような現象が発生する場合があります。

現象が発生した場合には、それぞれの回避策を実施してください。

※PowerChute Business Edition コンソールでは下記項目を表示するために WebUI の機能を使用しております。

● 現象1

上記画面を表示しようとすると、以下のセキュリティの警告メッセージが表示される。



(回避策)

「はい」をクリックしてください。

● 現象2

上記画面を表示しようとすると、以下のエラーメッセージが表示される。



(回避策)

以下の手順にて、信頼済みサイトに登録してください。

- (1) 上記画面の「追加」ボタンをクリックします。
- (2) 信頼済みサイトのダイアログが表示されますので、"この Web サイトをゾーンに追加する"に登録したいアドレス「https://<ホスト名>」が入力されているか確認し「追加」ボタンをクリックします。
- (3) "Web サイト"に追加されたことを確認し、「閉じる」ボタンをクリックします。

● 現象3

現象2にて信頼済みサイトに追加後、以下のようなスクリプトエラーの警告メッセージが複数回表示される。 例)

■ スクリプト エラー ×
このページのスクリプトでエラーが発生しました。 ライン: 122 文字: 60 Tラー: 書合込みで含ません。
F: 0 URL: https://win2008:6547/js/jquery=1.4.2.min.js
このページのスクリプトを実行し続けますか?

(回避策)

「はい」をクリックして続行してください。

● 現象4

[エネルギー管理]ー[エネルギー管理]ー[エネルギー使用量]の"期間の設定"をクリックすると、以下のエラーが表示される。

Internet Explorer	Internet Explorer
Fに表示されている Web サイトから来ているこのアプリケーションのコンテンツは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成によってブロックされています。	Fに表示されている Web サイトのコンテンツは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成によってブロックされています。
about:security_console.exe	aboutblank
Internet Explorer セキュリティ強化の構成の詳細を表示します。	✓ Web サイトのコンテンツがブロックされる時は、このメッセージを表示する(Q) Internet Explorer セキュリティ強化の構成の詳細を表示します。
この Web サイトを信頼している場合、信頼済みサイトのゾーンに追加 すると、低いレベルのセキュリティでサイトを実行できます。この Web サイ トがローカル イントラネットにある場合、ヘルプの説明を参照して、ローカ ル イントラネットのゾーンにサイトを追加してください。	この Web サイトを信頼している場合、信頼液みサイトのゾーンに追加 すると、低いレベルのセキュリティでサイトを実行できます。この Web サイ トがローカル イントラネットにある場合、ヘルブの説明を参照して、ローカ ル イントラネットのゾーンにサイトを追加してください。
重要:この Web サイトを信頼済みサイトのゾーン(ご追加すると、この Web サイトのすべてのコ ンテンツは低いレベルのセキュリティで実行されます。これは Internet Explorer などのすべて のアプリケーション(ご影響します。	重要・この Web サイトを信頼済みサイトのゾーンに追加すると、この Web サイトのすべてのコ ンテンツは低いレベルのセキュリティで実行されます。これは Internet Explorer などのすべて のアプリケーションに影響します。

(回避策)

現象2の回避策と同様、信頼済みサイトに"about:security console.exe"および"about:blank"を登録してください。

● 現象5

[エネルギー管理]-[エネルギー管理]-[エネルギー使用量]画面が表示されない。

(回避策)

これは、DNS 設定の問題により PowerChute Business Edition コンソールにて PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているマシンのホスト名を解決できないために発生します。 PowerChute Business Edition では、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているマ シンのホスト名を解決するために DNS を使用していますので、DNS は正しく設定しておいてください。

● 現象6

画面に「Webページのナビゲーションは取り消されました」と表示される。

(回避策) 現象5と同様、ホスト名が解決できていないために発生します。 現象5の回避策を実施してください。 19.4.2 WebUIの「連絡先の名前」、「システムの場所」に入力可能な文字について

WebUIの[サーバーシャットダウン]ー[システムの設定]にて設定する「連絡先の名前」および「システムの場所」に入力可能な文字には、以下の文字は使用できません。

:;<=>?+,'&[]{}¥"~-(全角マイナス)--(全角ダッシュ) 上記文字を入力された場合、"入力された文字には、この画面から設定できないものが含まれています。"という警告 メッセージが表示されます。

注意:全角/半角にかかわらず32文字設定可能ですが、最大32バイト(全角16文字)の範囲内で設定してください。

19.4.3 最終バッテリ交換日に設定可能な日付

PowerChute Business Edition コンソールの「デバイスのプロパティ」-[全般]-[バッテリステータス]内の「最終バッテリ交換日」は、今日の日付以降を設定することはできません。

19.4.4 WebUIのタイムアウト時間について

WebUI の操作を何も行わずに、15 分間放置しておくと、WebUI がタイムアウトします。タイムアウト後に WebUI メニューを選択すると、"セッションがタイムアウトしました"というメッセージが表示され、ログイン画面となりま す。

「ユーザ名」「パスワード」を再度入力しログインしてください。

LCD パネル付き Smart-UPS 使用時、デバイスのプロパティを表示させている場合も同様です。

19.4.5 WebUIからスレーブサーバのコマンドファイル設定を「なし」に変更した場合の注意事項

スレーブサーバにコマンドファイルを設定している場合、WebUIからコマンドファイルの設定を"なし"に変更すると OS シャットダウン待機時間が0:00 に設定されます。PowerChute Business Edition コンソールから OS シャットダ ウン待機時間の設定を行ってください。PowerChute Business Edition コンソールからコマンドファイルの設定を"な し"に変更した場合は、変更前に設定していた OS シャットダウン待機時間が保持されます。

また、マスタサーバの場合は PowerChute Business Edition コンソール/WebUI どちらからコマンドファイルの設定 を"なし"に変更しても変更前に設定した OS シャットダウン待機時間が保持されます。

19.4.6 負荷制限機能の画面について

負荷制限機能の画面の「コンセントグループが電源オンになるとき」は誤記です。正しくは「コンセントグループが 電源オフになるとき」になります。

負荷制限機能

Outlet Group 1 Outlet Group 2		
ンセントグループが電源わになるとき:		
	1800 秒	
□ バッテリ運転が次を下回った場合のランタイム残り時間	: 120 秒	
」 UPS過負荷状態あり		
融通付けられているアクション:		
□ 重酒+フ/注機時間を値田	180 税	

適用

19.4.7 [診断]画面のステータス表示について

[診断]画面に表示されている"前回のセルフテストステータス"および"前回のランタイム較正のステータス"が正しく表示されない場合があります。診断テストの結果は、PowerChute Business Edition のイベントログ等で確認してください。

診断				
<i>セルフテスト ステータ</i> ス				
前回のセルフテスト実施日	不明			
前回のセルフテスト ステータス	成功			
ランタイム較正のステータス				
前回のランタイム較正実施日	不明			
前回のランタイム較正のステータス	成功			

19.4.8 UPS LCD の読み取り専用設定

LCD パネル付き Smart-UPS では、機種により UPS LCD を読み取り専用に設定できます。

なお、設定および解除はPowerChute Business Edition エージェントの"デバイスのプロパティ"画面からしか行えませんのでご注意ください。

(1) ["UPS 機種名"]-[UPS 設定]を選択し、

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>></u> ₽ፇトダ [®] ウン	环状*-管理	ወታ
UPS27-92				
コンセントの設定	I			
「バッテリ管理				
診断				
UPS設定				
1 10 1007 70	9	オンライン (ク゛リーンモート゛)		

(2) "UPS 設定"画面の[全般設定]-[UPS LCD は読み取り専用です]にて設定できます。

全般設定	
1100.7	
UPS 名	APC UPS
警告音	警告音有効 🗸
UPS LCDは読み取り専用です	はいいいえ
UPS出力負荷しきい値	80 💟 %
高内部温度しきい値	70 °C
高内部温度警告しきい値	65 °C
	適用

19.4.9 「デバイスのプロパティ」で表示される UPS の情報欄について

PowerChute Business Edition エージェントをインストールしているサーバにおいて、PowerChute Business Edition エージェントサービスが起動してから初期処理が完了するまでの間、"不明"、"ネットワーク通信切断"の状態になるこ とがあります。この状態では、UPS から必要な情報が得られていないので、対象サーバの「デバイスのプロパティ」 を表示しても、UPS の情報欄が"エラー"と表示されてしまいます。

このような場合、PowerChute Business Edition コンソールで対象サーバが"オンライン"と表示された後に、「デバイスのプロパティ」を表示して、情報の確認を行ってください。

19.5 Linux OS 関連

19.5.1 Linux 環境へのインストールについて

「install_pbeagent_linux.sh」を使用せず、rpm コマンドにて PowerChute Business Edition をインストールする場合、それぞれ以下のパッケージをインストールしてください。

LCD パネル付き Smart-UPS を使用(マスタサーバ)する場合: pbeagent-9.1.1-404.i386.rpm

LCD パネルなし Smart-UPS を使用する場合: pbeagent-9.0.3-404.i386.rpm

LCD パネル付き Smart-UPS に N8180-80 UPS インタフェース拡張ボードを

接続して、スレーブサーバとして利用する場合: pbeagent-9.0.3-404.i386.rpm

インストール後は、config.sh を実行してください。

※config.sh の実行においては「6.1 対象サーバで直接インストール作業を行う場合」の⑤あるいは⑩以降の手順を 参考にしてください。

/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh

19.5.2 RedHat Enterprise Linux 5.x 環境ヘインストールする場合の注意

Red Hat Enterprise Linux 5.x 環境へ PowerChute Business Edition をインストールする場合、以下のような注意事項 があります。

●現象1

RedHat Enterprise Linux 5.x 環境へ、"install_pbeagent_linux.sh"を実行しPowerChute Business Edition Basic v9.1.1 エージェントをインストールすると、以下のメッセージが表示され中断される場合があります。

【メッセージ内容】

Error: dl failure on line 864

Error: failed /bin/java/jre/1.7.0_25/lib/i386/server/libjvm.so because /bin/

java/jre/1.7.0_25/lib/i386/server/libjvm.so: cannot restore segment prot after reloc: Permission denied

(回避策)

この問題は、SELinuxによりアクセスポリシーが適用されていることで起こります。

インストール(ファイルのコピー)は完了していますので、下記方法で PowerChute Business Edition エージェントの 設定を行ってください。

(1) 以下のコマンドを実行してください。

chcon -t textrel shlib t /bin/java/jre/1.7.0 25/lib/i386/server/libjvm.so

(2) "config.sh"を実行し、ユーザ名/パスワードの設定、シグナルリングタイプの設定、シリアルポートの設定等を 行ってください。

/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/config.sh

●現象2

RedHat Enterprise Linux 5.x 環境へ PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 をスレーブサーバとしてインストールすると、UPS との通信が確立せず、デバイスリストへの追加ができない場合があります。

(回避策)

この問題は、SELinuxによりアクセスポリシーが適用されていることで起こります。 下記作業を実施してください。

- (1) 以下のコマンドを実行してください。
 chcon -t textrel_shlib_t '/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent/lib/linux/libNatComm.so'
- (2) 以下のコマンドを実行し、PowerChute Business Edition エージェントを再起動してください。
 /etc/init.d/PBEAgent stop
 /etc/init.d/PBEAgent start

19.5.3 RedHat Enterprise Linux 6.x (x64)環境へインストールする場合の注意 RedHat Enterprise Linux 6.x (x64)環境へ PowerChute Business Edition をインストールする際、以下のメッセージが 表示され、インストールができない場合があります。

【例: "install_pbeagent_linux.sh"を実行し PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 をインストールした場合】 == PowerChute Business Edition Agent Installation ==

For instructions on upgrading PowerChute, please refer to the readme file in the Linux install folder.

The 32-bit version of GLIBC is not present. GLIBC has a dependency on nss-softokn-freebl Please install these and run the installer again. e.g. yum localinstall –disablerepo=* glibc-x.xx-x.xxx.xxx.rpm nss-softokn-freebl-x.xx.x-x.xxx.rpm

For further details see Knowledge Base Article FA159745 at http://www.apc.com/site/support/index.cfm/faq/

(回避策)

使用されている環境にPowerChute Business Edition をインストールするために必要なファイルがインストールされていないことにより表示されるエラーです。

PowerChute Business Edition をインストールする前に「glibc-2.12-1.107.el6.i686.rpm」(*)をインストールしてください。

また、上記パッケージをインストールするために、「nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.i686.rpm」(*)が必要な場合があります。

(*)····パッケージのバージョンは、OSのバージョンによって異なります。

以下、RedHat Enterprise Linux 6.4 x64 の場合を例に記載します。

【例】

- (1) DVD-ROM ドライブに RedHat Enterprise Linux 6.4 の DVD 媒体を挿入し「mount」コマンドにて DVD-ROM ドライブをマウントします。
 - 例) mount /dev/dvd /mnt/dvd
- (2) DVD 媒体内の Packages ディレクトリへ移動します。
 - cd /mnt/dvd/Packages
- (3) 「nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.i686.rpm」「glibc-2.12-1.107.el6.i686.rpm」をインストールします。 rpm -i nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.i686.rpm glibc-2.12-1.107.el6.i686.rpm

19.5.4 RedHat Enterprise Linux 7.x 環境ヘインストールする場合の注意

RedHat Enterprise Linux 7.x 環境へ PowerChute Business Edition をインストールする際、以下のメッセージが表示され、正しくインストールができない場合があります。

<メッセージ例1>

== PowerChute Business Edition Agent Installation ==

For instructions on upgrading PowerChute, please refer to the readme file in the Linux install folder.

The 32-bit version of GLIBC is not present.

GLIBC has a dependency on nss-softokn-freebl

Please install these and run the the installer again.

e.g. yum localinstall --disablerepo=* glibc-x.xx-x.xx.xxx.xxx.rpm
nss-softokn-freebl-x.xx.x-x.xxx.xxx.rpm

For further details see Knowledge Base Article FA159745

at http://www.apc.com/site/support/index.cfm/faq/

(回避策)

使用されている環境にPowerChute Business Edition をインストールするために必要なファイルがインストールされていないことにより表示されるエラーです。

PowerChute Business Edition をインストールする前に「glibc-2.17-78.el7.i686.rpm」(*)をインストールしてください。

また、上記パッケージをインストールするために、「nss-softokn-freebl-3.16.2.3-9.el7.i686.rpm」(*)、 「libstdc++-4.8.3-9.el7.i686.rpm」(*)、「libgcc-4.8.3-9.el7.i686.rpm」(*)が必要な場合があります。

(*)····パッケージのバージョンは、OSのバージョンによって異なります。

以下、RedHat Enterprise Linux 7.1 の場合を例に記載します。

【例】

 DVD-ROM ドライブに RedHat Enterprise Linux 7.1 の DVD 媒体を挿入し「mount」コマンドにて DVD-ROM ドライブをマウントします。

例) mount /dev/cdrom /media

- (2) DVD 媒体内の Packages ディレクトリへ移動します。cd /media/Packages
- (3) 「nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.i686.rpm」、「glibc-2.12-1.107.el6.i686.rpm」、「libstdc++-4.8.3-9.el7.i686.rpm」、「libgcc-4.8.3-9.el7.i686.rpm」をインストールします。

rpm -ivh nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.i686.rpm glibc-2.12-1.107.el6.i686.rpm

libstdc++-4.8.3-9.el7.i686.rpm libgcc-4.8.3-9.el7.i686.rpm

<メッセージ例2>

./config.sh: 行 130: /bin/java/jre/1.7.0_25/bin/java: ディレクトリではありません (回避策)

上記メッセージは、RedHat Enterprise Linux 7.xのインストール媒体に含まれる OpenJDK が PowerChute Business Edition に対応していないことにより表示されるエラーメッセージです。なお、PowerChute Business Edition エー ジェントの RPM パッケージインストールまでは完了している状態となっております。

上記メッセージが表示された場合は、以下の手順を実施してください。

(1) 以下の Web ページをたどって、必要なファイルのダウンロードを行ってください。

●修正版 config.sh

「電源管理・自動運転 ESMPRO/UPSManager」

http://jpn.nec.com/esmpro_um/

- → セキュリティ情報
 - → RedHat Enterprise Linux 7.x 環境ヘインストールする場合の注意
 - → 「発生する問題点 2」の回避策にある"修正版 config.sh"
- JRETool

「NEC サポートポータル」

https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx

- → 修正物件ダウンロード
 - → 製品名・カテゴリから探す
 - → PowerChute Business Edition

「PowerChute Business Edition で使用する Java Runtime Environment(JRE)を

システムにインストールされている JRE に変更するツール」

※JRETool を解凍した際に生成される「readme.txt」を参照して、サポート対象となっている JRE バージョ ンをご確認の上、別途 Oracle 社の Web ページから 32bit 版の JRE をダウンロードしてください。

(2) ダウンロードした「修正版 config.sh」を解凍後、RedHat Enterprise Linux 7.x 環境の PowerChute Business
 Edition インストールディレクトリ(/opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent)へ移動し、"config.sh"を「修正
 インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

版 config.sh」のファイルで上書きコピーしてください。 (以下は、「修正版 config.sh」を/tmp に解凍した場合の例です。) cp _p /tmp/config.sh /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent

- (3) PowerChute Business Edition ディレクトリへ移動してください。cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent
- (4) 以下のコマンドを実行してください。chmod 540 config.sh
- (5) 上書きした「config.sh」を実行してください。実行後の手順については「6.1 対象サーバで直接インストー ル作業を行う場合」を参照してください。
 ./config.sh
 ※上記シェルスクリプトを実行する途中で、以下のメッセージが表示され PowerChute Business Edition エー ジェントを開始するかの確認が表示されますが、そこでは、「No」を選択してください。
 Start PowerChute Business Edition Agent? (Yes or No)
- (6) JRETool に含まれていた「readme.txt」を参照して、ご使用になられている RedHat Enterprise Linux 7.x のバ ージョンをサポートする JRE をダウンロード後、インストールしてください。
- (7) JRETool を解凍して生成された"PcbeJreConfigTool.tar"を RedHat Enterprise Linux 7.x 環境の適当な場所(例: /opt/update)にコピーしてください。コピーした場所へ移動した後は、JRETool に含まれていた「readme.txt」に記載されている手順に従って作業を行ってください。

19.5.5 Linux 環境で使用する際の注意

Linux 環境でファイアウォールを有効にして運用している場合、PowerChute Business Edition エージェントをデバイ スリストに追加、およびリモートから WebUI にてアクセスする、またはデバイスのプロパティを表示するためには、 一部ファイアウォールを解除する必要があります。

例えば、Red Hat Enterprise Linux Server 6.4 環境では、[システム]-[管理]-[ファイアウォール]を選択し、「ファイア ウォールの設定」 画面の"その他のポート"にて、デバイスリストに追加する場合は「2161/TCP」「2161/UDP」、WebUI にてアクセスするまたはデバイスのプロパティを表示する場合は「6547/TCP」を追加してください。

19.5.6 Red Hat Enterprise Linux 5.x、Red Hat Enterprise Linux 6.x 環境で使用する際の注意事項 Red Hat Enterprise Linux 5.x、Red Hat Enterprise Linux 6.x 環境にて PowerChute Business Edition を使用する場合、 以下のような注意事項があります。

(1) PowerChute Business Edition では文字コード: EUC-JP を使用していますが、デフォルトの文字コードがUTF-8 となっているため、以下のような現象が発生します。

● 現象1

コマンドファイル実行で出力される内容が文字化けする。

(回避策1)

- ① ターミナルのメニューバーより「端末」->「文字コードの設定」を選択し、EUC-JP に変更します。
- ② ファイルを参照します。

例)「cat <参照するファイル>」または、「more <参照するファイル>」

(回避策2) 文字コード変換コマンド iconv を使用する。

① 以下のコマンドを実行します。

iconv -f <変換元の encoding> -t <変換する encoding> <変換するファイル>

例) EUC でエンコードされた test.log ファイルを UTF-8 に変換して out.txt ファイルに出力する場合 iconv -f EUC-JP -t UTF-8 test.log > out.txt

② 変換後のファイルを参照します。

例)「cat <参照するファイル>」または、「more <参照するファイル>」

● 現象2

Linux コンソール上で Linux readme.txt.ja および readme.txt.ja の内容が文字化けする。

(回避策)

PowerChute Business Edition の Readme ファイルは EUC-JP で書かれていますので、現象1の(回避策)を 実施し、ファイルを参照してください。

もしくは、Linuxreadme.txt.jaUTF8 および readme.txt.jaUTF8 を参照してください。

(2) PowerChute Business Edition では Linux OS での仮想化環境は未サポートです。 Xen カーネルで起動すること自体未サポートとなります。

19.6 UPSSleep 仕様関連

19.6.1 UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最小の次回起動時間

UPSSleep 実行の際に引数としてサーバの次回起動時間を指定しますが、指定できる最小の次回起動時間は、

(そのサーバ上の現在のシステム時間)+ 6分後

になります。それより少ない時間を次回の起動時間に指定した場合、UPSSleep はそのコマンドを拒否し、下記のエ ラーが OS のアプリケーションログに記録されます。

ID: 3400

ソース: APCPBEUPSSleep

説明:引数が無効です。

19.6.2 UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間

UPSSleep 実行の際に引数として指定可能な最大の次回起動時間は

(そのサーバ上の現在のシステム時間) +13 日 23 時間 54 分後

になります。それ以上先の時間を指定した場合、UPSSleep はそのコマンドを拒否し、下記のエラーが OS のアプリケーションログに記録されます。

ID: 3400

ソース: APCPBEUPSSleep

説明:引数が無効です。

※ 使用している UPS によっては次回の起動時間を 99.9 時間後までしか設定できないものがあります。

19.6.3 UPSSleepの引数に指定した次回起動時間と実際の起動時間

PowerChute Business Edition v9.1.1 以降の場合:

UPSSleep で指定した起動時刻通りに動作しますが、指定する時刻は、シャットダウンシーケンスの時間よりも後の時間を設定してください。

PowerChute Business Edition v9.1.1 より以前のバージョンの場合: UPSSleep で指定した起動時刻に、シャットダウンシーケンスの時間が自動的に加算されます。 19.7 シャットダウンシーケンス、電源障害時の動作関連

19.7.1 OSのシャットダウン期間について

[OS のシャットダウン期間] (WebUI では「OS シャットダウン時間」) の設定値は、OS のシャットダウンが開始さ れてから UPS の電源がオフになる時間です。設定前にサーバのシャットダウンに必要な時間を計測し、その時間を <u>十分に超える値を設定</u>してください。

※LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合は、「OS がシャットダウンする時間」と表現されています。

19.7.2 「電源障害時のシャットダウン開始」の設定値について

「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"に設定していた場合、瞬断発生によりシャットダウンが実行される場合があります。

19.7.3 スレーブサーバのイベントログへ「ランタイム不足が検出されました。」と記録される現象

スレーブサーバの「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"に設定していた場合、マスタのスケジュールシャットダウン時にスレーブサーバのイベントログに「ランタイム不足が検出されました。PowerChute Business Edition は 直ちにシャットダウンを実行します。」と記録されます。

動作上の問題はありませんが、ログを記録しないようにするには「電源障害時のシャットダウン開始」を"即時"以外 に設定してください。 19.7.4 電源障害(停電など)によるシャットダウン後、サーバ装置本体の仕様によりサーバが UPS に連動して起動しなくなる問題

電源障害(停電など)時の動作として、UPS からの AC 電源の停止/開始の間隔が数秒間と短くなるような場合、サー バ本体装置の仕様によりサーバ側が UPS からの AC 電源の停止/開始を認識できず、UPS からの電源供給は開始さ れているにも関わらず、サーバが起動しない場合があります。

そのような場合、UPS の電源供給停止後、起動要因発生から一定時間、UPS から電源供給を開始しないように設定し、AC 電源の停止/開始の間隔を延ばすことで、この問題を回避することができます。

<サーバが UPS に連動して起動しない場合の例>

■ 設定値

電源障害時のシャットダウン開始	UPS のバッテリ状態が次の時間経過後:1分
電源回復時の UPS 再起動	即時

注意:この設定値は、説明上設定した値です。他の設定内容であっても、UPS からの AC 電源の停止/開始の間隔 が短くなるような場合は本現象が発生します。



- ① 電源障害(停電など)発生。以降 UPS はバッテリによる電源供給を行う
- ② バッテリ状態時間しきい値を超過したので、シャットダウンプロセスが開始される
- ③ コマンドファイルが開始される
- ④ コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS は電源供給停止後、すぐに電源供給を開始する

※このときに、サーバ側が UPS からの AC 電源の停止/開始を認識できず起動しない

(回避策)

<LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合>

- (1) PowerChute Business Edition コンソールを起動します。
- (2) デバイスのプロパティ画面を表示し、[サーバシャットダウン]ー[電源障害]を選択します。 ※電源障害項目は、デバイスのプロパティ画面左下の「詳細項目の表示」にチェックを入れると表示されます。
- (3) [電源回復時の UPS 再起動]-[バッテリが次の容量まで充電された時]を選択し、待機時間を設定してください。 投入要因発生後、再起動待機時間に設定した時間経過した後に UPS からの電源供給が開始されます。 ※設定値についてはサーバ本体の仕様を確認の上、サーバ本体装置にて必要な時間以上の値を設定してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合>

- (1) PowerChute Business Edition コンソールを起動します。
- (2) デバイスのプロパティ画面を表示し、[シャットダウン]-[コンセントシーケンス]を選択します。
- (3) 「コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間」あるいは「この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます」を選択し、遅延時間を設定してください。投入要因発生後、設定した時間経過した後に UPS からの電源供給が開始されます。

※設定値についてはサーバ本体の仕様を確認の上、サーバ本体装置にて必要な時間以上の値を設定してください。 インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

19.8 UPS 本体仕様関連

19.8.1 UPS HW の機能によるシャットダウン動作について UPS HW の機能(例えば、UPS LCD より[UPS Control]-[Off-Use Delay]を実行した場合)によりシャットダウンが行わ れた場合、コマンドファイルを実行するよう設定していても実行されません。 「他のアプリケーションがシャットダウンする時間」の設定も無効となります。

これは、仕様になります。

19.8.2 ローランタイムによるシャットダウンプロセスについて

電源障害から回復時に UPS が自動起動するよう設定していても、ローランタイムによるシャットダウンプロセス開始後、OS シャットダウン完了前(PowerChute Business Edition エージェントサービス停止前)に電源回復した場合、 UPS がスリープ状態とならずにオフ状態となります。 本動作は仕様になります。

19.8.3 メインコンセントグループとコントロールコンセントグループを保有する機種の注意事項 メインコンセントグループとコントロールコンセントグループを保有する機種を使用時、PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンはコントロールコンセントグループから給電してください。 "コンセントの設定"も正しく PowerChute Business Edition エージェントをインストールしたマシンに電源供給して いるコンセントグループを設定してください。 設定方法は「10.1 コンセントの設定」を参照してください。

設定方法は「IU.Iコンセントの設定」を参照してくたさい。

19.9 PowerChute Business Edition サーバ、コンソール関連

19.9.1 PowerChute Business Edition サーバ、コンソールの必要性について

PowerChute Business Edition エージェントのみをインストールし運用する場合であっても、初期設定および各種設定 値の変更を行う際には、PowerChute Business Edition サーバおよびコンソールが必要となります。

例えば、電源障害発生時の OS シャットダウンなどの設定は、PowerChute Business Edition サーバのインストール過程で行う、設定プロファイルの作成時に選択した電源保護方針を基に設定されます。

設定プロファイルおよび電源保護方針については、「5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール」を 参照してください。

PowerChute Business Edition エージェントをインストールした後、「設定プロファイルの適用」を行わずに電源障害 (停電など)が発生した場合、UPS のバッテリ容量がなくなるまで、サーバのシャットダウンは行われません。

また、LCD パネルなし Smart-UPS では、スケジュールシャットダウンの設定や OS シャットダウン待機時間の設定 値は PowerChute Business Edition コンソールでのみ設定することができます。

よって、PowerChute Business Edition エージェントのみをインストールし運用する場合であっても、管理用に Windows 環境を準備し PowerChute Business Edition サーバおよびコンソールをインストールし環境構築してください。

※電源保護方針によって設定された内容が必ずしも使用されている環境において適切であるとは限りませんので、設 定プロファイルの適用後、運用に沿った設定値に変更してください。

なお、設定したスケジュール設定や電源障害時の設定値は PowerChute Business Edition エージェントおよび UPS に て保持されるため、設定後は、PowerChute Business Edition エージェントのみの環境でスケジュールや電源障害時の シャットダウンなどは正常に行われます。

ただし、設定プロファイルにて E-Mail 通知やブロードキャスト通知を設定している場合、これらの通知は PowerChute Business Edition サーバより通知が行われるため、管理用の Windows 環境は常時必要です。

19.9.2 同じエージェントを複数のコンソールから同時アクセスした場合の不整合

1つのエージェントを複数のコンソールから同時にアクセスしないように注意してください。また、WebUIを使用する場合も同様に同時に複数のマシンからアクセスしないようにしてください。これは、同時に設定が行われた場合に設定の不整合が生じるのを防止するためです。

19.9.3 旧バージョンの PowerChute Business Edition コンソールから v9.1.1 サーバへの接続について

PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 サーバへはPowerChute Business Edition Basic v9.1.1 コンソールから接続 してください。旧バージョンの PowerChute Business Edition コンソールから PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 サーバへの接続は未サポートです。旧バージョンの PowerChute Business Edition コンソールから PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 サーバへの接続しようとした場合、以下のメッセージが表示されます。



(回避策)

- 上記メッセージにて「いいえ」を選択します。
 ※PowerChute Business Edition のバージョンによっては、「いいえ」を選択すると、PowerChute Business Edition コンソールが終了します。
- ログイン画面が表示されるので、「キャンセル」を選択します。
 ※「接続」を選択しても砂時計のままログインできません。
- ③ 再度、PowerChute Business Edition コンソールを起動し、適切な PowerChute Business Edition サーバへログイ ンしなおしてください。

万一、「はい」を選択した場合は、画面に従い、アップデートを実行してください。

その後、PowerChute Business Edition コンソールをアンインストールし、使用しているバージョンの PowerChute Business Edition コンソールをインストールしなおしてください。

19.9.4 同じ PowerChute Business Edition サーバへ同時ログインできる限度数

同じ PowerChute Business Edition サーバへ同時にログインできる PowerChute Business Edition コンソールは5 台で す。同時に6 台以上の PowerChute Business Edition コンソールからログインしようとすると下記メッセージが表示 されます。

	\otimes
i 🕄	選択したPowerChuteサーバーにロゲインできません。接続限度数に達しました。このPowerChute Business Editionサーバーには、最高5台までのクライアントが接続できます。後でもう一度やり直して下さい。

19.10その他

19.10.1 スタンバイモードで Agent が一時的に使用できない コンピュータがスタンバイモードになると、PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しなくなりま す。

19.10.2 SNMP サービス PowerChute Business Edition は、システムの SNMP サービスを利用して SNMP トラップを送信します。SNMP を 使用してマシンに接続している UPS を管理するには、該当する PowerChute Business Edition エージェントのマシン に「SNMP」サービスを正しくインストールし、設定を行う必要があります。PowerChute Business Edition コンソー ルには、使用中のシステムにSNMP サービスがインストールされていない場合も SNMP オプションは表示されます。 注意: Windows 以外では PowerChute Business Edition の SNMP オプションはサポートされません。

19.10.3 PowerChute Business Edition の輸出について PowerChute Business Edition は暗号化技術を含んでいるため、外国為替および外国貿易管理法の規定により、海外に 輸出することができません。

19.10.4 PowerChute Business Edition の E-Mail 受信者に使用できる文字について E-Mail 通知機能に関して、メールアドレスに使用可能な文字、記号は以下のものになります。 これ以外の記号については、使用不可となっていますので注意してください。

【使用可能文字・記号】

英数字、「_」(アンダスコア)、「.」(ドット)、「@」(アットマーク)、「-」(ハイフン)

19.10.5 エクスポートの区切り文字についての制限事項

PowerChute Business Edition コンソールの「電源イベントサマリ」、「電圧分析」を表示しているときに、コンソールのメニュー[コンソール]ー[エクスポート]を選択することで表示されるエクスポートに関する設定ウィンドウにおいて、「データ」タブの区切りを"カスタム"として選択している場合、右の入力欄にプロンプトが表示されます。その入力欄に入力する文字列について、以下の制限事項があります。

入力欄には何文字も入力できますが、区切り文字として認識されるのは最初の1文字のみです。

入力文字は1バイト文字であり、ASCIIコードの33(0x21) '!' (エクスクラメーション) から126(0x7E) '~' (チルダ) までの文字に限られます。

19.10.6 サービスにて表示されるパス情報について

[管理ツール]ー[サービス]を選択して、「APC PBE Agent」サービスおよび「APC PBE Server」サービスのプロパティを表示した際に表示される『実行ファイルのパス』情報は、インストールしたフォルダのパスが半角英数字で6文字以上の場合、パス名が8.3 形式で表示されます。

また、PowerChute Business Edition サーバのサービスが動作中のサーバにおいて、タスクマネージャの「プロセス」 タブを選択して表示される実行中のプロセス一覧内に、「PBESER~1.EXE」と表示されたプロセスがあります。その プロセスは PowerChute Business Edition サーバサービスのプロセスを表しています。

19.10.7 SNMP カードを使用する場合

SNMP カードを使用する場合、PowerChute Business Edition は使用できません。SNMP カードを使用する場合は、 ESMPRO/AutomaticRunningController および ESMPRO/AC Enterprise を使用してください。

19.10.8 設定プロファイルの適用時に初期化される項目について

PowerChute Business Edition エージェントがインストールされた各サーバにて個別の設定を行った後に「設定プロファイルの適用」あるいは「設定プロファイルの再適用」を行うと、各エージェントにて行った設定内容が設定プロファイルの内容に初期化されます。設定プロファイルの適用を行う前に各エージェントにて設定した個別の設定内容 (OS シャットダウンまでの時間、WebUI にて設定するイベントアクション等)をあらかじめメモしておき、設定プロファイル適用後に再設定してください。

19.10.9 Windows ファイアウォール機能を有効にして使用する場合の注意事項

Windows ファイアウォール機能を有効にして使用する場合は下記の回避策を実施してください。

● 問題点1

いずれかの環境に該当する場合、リモート監視ができない。

- 対象マシンにインストールされている PowerChute Business Edition エージェント、サーバをネットワーク 上の異なるマシンで管理する場合
- ネットワーク上の異なるマシンにインストールされている PowerChute Business Edition エージェント、サーバを対象マシンで管理する場合

(回避策)

対象マシン上にて、Windows ファイアウォールの「許可されたアプリおよび機能」/「許可されたプログラム および機能」または「例外リスト」に登録されている 'PowerChute Business Edition エージェント'および' PowerChute Business Edition サーバ'を有効にしてください。

【設定手順】

- (1) [コントロール パネル] → [Windows ファイアウォール] を起動します。
- (2)「Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可する」/「Windows ファイアウォールを 介したプログラムまたは機能を許可する」または、Windows ファイアウォールの設定画面の[例外]タブを 選択します。
- (3) リスト内にある 'PowerChute Business Edition エージェント' および 'PowerChute Business Edition サ ーバ にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。
 - ※リスト内に 'PowerChute Business Edition エージェント'および' PowerChute Business Edition サー バ が存在しない場合、下記手順に従い、手動でプログラムを"許可されたアプリおよび機能"/"許可 されたプログラムおよび機能"または"例外リスト"に追加してください。
 - ①[別のアプリの許可] /[別のプログラムの許可]または[プログラムの追加]ボタンをクリックします。
 - ②[アプリの追加]/ [プログラムの追加]画面の下にある [参照] ボタンをクリックし、PowerChute Business Edition インストールフォルダ下の 'pbeagent.exe' または 'pbeserver.exe' を選択し [開く] ボタンをクリックします。

追加するプログラムは、[アプリの追加]/ [プログラムの追加] 画面に表示されます。

- ③追加するプログラムが選択されていることを確認し、[追加]または[OK]ボタンをクリックします。
- ④ 'APC PowerChute Business Edition Agent' または 'pbeagent.exe'、'PowerChute Business Edition Server' または 'pbeserver.exe' がリスト内に追加されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
- ※ Windows ファイアウォールの設定を有効にしている場合、PowerChute Business Edition エージェント、 サーバをインストールする際に下記のような設定確認メッセージが出力され、「はい」を選択すると例外 リストに自動的に登録されます。

(例)エージェントをインストールした場合

質問	x
PowerChute Business Editionのセットアップ、は、Windows ファイアウォールが有効になっていることを検知したため、 エーショントサービスをWindows ファイアウォールの外外リストに追加します。 PowerChute Business Editionをマットワーク上で監視・管理するためには、 Windows ファイアウォールの例外リストに追加されるエージョントサービスが 例外プ・ログ・ラムとして有効になっていることが必要です。 エージョントサービスをWindows ファイアウォールの例外プ・ログ・ラムとして有効にしますか? 後でこの設定を変更するためには、Windows ファイアウォールの例外リストに追加される る 「PowerChute Business Edition エージョント」のチェックポックスを必要に応じてオン・ ィオしてください。	
[#UY] [UVIZ(N)

- ※ 同一マシンに PowerChute Business Edition の全コンポーネントをインストールし運用する場合には、上記のプログラムを追加する必要はありません。ただし、コンソールログイン画面でローカルサーバを検出することができない場合があります。 また、127.0.0.1 または localhost がログイン先として表示されますので、そのままログインするか、手動でローカルマシンのホスト名または IP アドレスを入力しログインしてください。
- ※ 同一マシンに PowerChute Business Edition の全コンポーネントをインストール後、ネットワーク上の異なるマシンヘログインし、その後、PowerChute Business Edition コンソールよりローカルサーバの検出を行ってもローカルマシンが表示されないことがあります。 PowerChute Business Edition の"pbeserver.exe"をWindows ファイアウォールの例外リストに追加するか、手動でローカルマシンのホスト名または IP アドレスを入力しログインしてください。

問題点2

対象マシンにて PowerChute Business Edition によるポップアップメッセージが送受信できない。 (回避策)

Messenger サービスが提供されていない環境では、PowerChute Business Edition によるポップアップメッセ ージの送信/受信はできません。

問題点3

ネットワーク上の異なるマシンにインストールされている PowerChute Business Edition サーバから対象マシ ンにインストールされている PowerChute Business Edition エージェントを検出した場合、IP アドレスで表示 される場合がありますが表示の問題であり動作に影響はありません。

問題点4

MIB ブラウザから対象マシンの PowerChute Business Edition エージェントにアクセス出来ない。 (回避策)

MIB ブラウザから、PowerChute Business Edition エージェントにアクセスして設定や情報の取得を行う場合、 Windows ファイアウォールの「Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可する」/ 「Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する」または「例外リスト」内にあ る"SNMP Service"にチェックを入れてください。 追加方法については、「問題点1の回避策」を参照してください。

問題点5

インストール・アンインストール中に以下のダイアログが表示される。 「次のプログラムにこのコンピュータへの変更を許可しますか?」 「続行するにはあなたの許可が必要です」

(回避策)

「はい」または[続行]をクリックし続行してください。

問題点6

「管理者情報」に、JIS2004 で追加された文字および環境依存文字 (unicode)を入力すると「?」と表示される。

(回避策)

PowerChute Business Edition はJIS2004 で追加された文字および環境依存文字(unicode)をサポートしていないため、それらの文字を入力すると「?」と表示されます。

JIS2004 で追加された文字および環境依存文字(unicode)は使用しないでください。

● 問題点7

使用している環境によっては、UPSSleep.exe や Export.exe を実行しても、PowerChute Business Edition エ ージェントインストールフォルダ配下(utils フォルダ内)に UPSSleep.log や Export.log が作成されない場合が あります。

(回避策)

使用している環境によっては、以下のフォルダにファイルが作成される場合があります。 なお、以下のフォルダには、隠しファイルとして作成されます。

「%SystemDrive%¥ユーザー¥<ユーザ名>¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files¥APC¥ PowerChute Business Edition¥agent¥utils」

※上記フォルダを表示するためには、エクスプローラを起動し、「ツール」→「フォルダオプション」の[表 示]タブにて、"すべてのファイルとフォルダを表示する"を選択してください。

なお、UPSSleep.exe または Export.exe ファイルを"管理者としてこのプログラムを実行する"に設定(右クリックメニューより[プロパティ]ー[互換性]ー[特権レベル]にて設定)すると、PowerChute Business Edition エージェントインストールフォルダ配下(utils フォルダ内)に作成されます。

問題点8

PowerChute Business Edition にてアプリケーションを起動させるようなコマンドファイルを設定した場合、 コマンドファイル実行時、「対話型サービス ダイアログの検出」 画面が表示され、アプリケーションを起動で きない場合がある。(例、notepad)

※環境によっては、「対話型サービス ダイアログの検出」 画面が表示されない場合もあります。 (回避策)

本現象に対する回避策はありません。

このようなアプリケーションを起動させるようなコマンドファイルを設定しないでください。

● 機能改善

以下の設定を行っていない場合、スケジュールシャットダウン時、または電源障害発生時の OS シャットダウン後にシステムの電源が OFF となります。

そのためサーバの BIOS 設定によっては、スケジュール起動時・電源異常回復時に UPS が出力を開始しても システムが自動起動しない場合があります。

(BIOS の設定によって、[AC-Link]の設定を[Power On]に設定変更ができない機種)

現象を回避するためには、グループポリシーを変更し、[Windows システムのシャットダウンのときに電源を 切らない] 設定を有効にする必要があります。

【設定方法】

- ① [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、「gpedit.msc」と入力します。
- [ローカル コンピュータ ポリシー] [コンピュータの構成] [管理用テンプレート] [システム] を順に展開します。
- ③ [Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない] をダブルクリックします。
- ④ [設定] タブ内の、[有効] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

※なお、この設定はシャットダウンタイプにて「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合には 有効になりません。

● 注意事項:Hyper-V

Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012 環境でのみ、PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 を Hyper-V 環境(ホスト OS) ヘインストールし使用できます。 但し、ゲスト OS へのインストール、使用は未サポートです。

以下は Server Core 環境で使用する場合のみに関するものです。

制限事項1

PowerChute Business Edition エージェントのみインストールします。PowerChute Business Edition サーバお よびコンソールはインストールできません。

制限事項2

「プログラムと機能」が提供されてないため「プログラムと機能」を使用したアンインストールができません。 インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1 (回避策)

PowerChute Business Edition エージェントをアンインストールする場合には、PowerChute Business Edition インストールフォルダにある「UninstallAgent.bat」ファイルを実行してください。

19.10.10 リスクアセスメントの警告表示について

PowerChute Business Edition エージェントを PowerChute Business Edition サーバ/コンソールに登録した場合、 PowerChute Business Edition コンソールの[リスクアセスメント]にて警告表示される場合があります。

しかし、何れの場合も PowerChute Business Edition の動作には影響はありません。

(1) [アプリケーションシャットダウン] が警告表示される

PowerChute Business Edition には Deluxe 版と Basic 版があり、本製品は Basic 版となります。

アプリケーションシャットダウンは、Deluxe 版のみで提供されている機能であり、Basic 版ではサポートされて いません。よって、MS IIS のようなアプリケーションが動作している環境では、リスクアセスメントのアプリケ ーションシャットダウンに警告マークがつき、「利用不可」と表示されます。

これは仕様です。

但し、LCD パネル付き Smart-UPS の場合は MS IIS のようなアプリケーションが動作している環境でも警告表示 されません。

(2) [IEバージョンの PowerChute エージェント]が警告表示される

旧バージョンの PowerChute Business Edition エージェントを登録していた場合に警告表示されます。

19.10.11 UPS 診断テストが実行できない

以下の場合、UPS 診断テスト(セルフテストおよびランタイム較正)は実行できません。

- バッテリ運転している時
- ーバッテリ未接続状態の時

ーUPS にてバッテリ交換を検出している時

ーUPS にて故障アラームを検出している時

また、以下の場合も実行できません。

■セルフテスト

■ランタイム較正

— UPS の負荷が 15%未満の場合(LCD パネル付き Smart-UPS の場合)

―UPS が出力を停止している場合

—UPS がシャットダウン中の場合

また、以下の場合、ランタイム較正が中断されます。

―バッテリ運転になった場合

—UPS の負荷が 10%未満になった場合(LCD パネル付き Smart-UPS の場合)

コンセントグループがオフになり負荷が15%未満になった場合も含む

—UPS の負荷が実施した時点から 10%以上変化した場合

19.10.12 デバイス情報フレームの表示切れについて

PowerChute Business Edition コンソールの下記デバイス情報フレームの"推奨する対処方法"の表示が切れております が、全文は「推奨する対処方法:「コンセントの設定」画面へ移動して、PowerChute によって保護されているサーバーに電源 供給しているコンセントグループを選択するためにここをクリックしてください。」になります。 ※全画面表示すると全文が表示されます。



19.10.13 仮想化環境での使用について

PowerChute Business Edition では、下記の仮想化環境のみサポートしています。

・Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 での Hyper-V 環境

- VMware vSphere 5.1(VMware vSphere Management Assistant 5.1.0/5.5.0)
- VMware vSphere 5.5(VMware vSphere Management Assistant 5.5.0)
- VMware vSphere 6.0(VMware vSphere ManagementAssisntant 6.0.0)
- VMware vSphere 6.5(VMware vSphere ManagementAssisntant 6.5.0)

※上記は 2017/11/30 時点の対応 OS であり、最新の動作環境については、下記サイトでご確認ください。 http://jpn.nec.com/esmpro_um/

→動作環境 → 対応 OS 一覧 → PowerChute Business Edition

PowerChute Business Edition のコンポーネントは仮想サーバ上または vMA 上にのみインストールしてください。 仮想サーバ上で動作する仮想マシン(vMA 除く)にはインストール不要です。 なお、仮想サーバ上で動作する仮想マシンは、仮想サーバに連動してシャットダウン/起動するよう、あらかじめ設

定しておいてください。

※設定方法の詳細については、各仮想サーバで提供されているドキュメント等にてご確認願います。

19.10.14 UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成における注意 LCD パネル付き Smart-UPS に UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)を使用したマルチサーバ構成による運用 を行う場合、以下の注意事項があります。

●UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)のディップスイッチの設定は工場出荷時の下記設定から変更しないで ください。(ディップスイッチの変更を行ってご使用された場合の動作については、未サポートとなります。)

ディップスイッチ設定			
1	2	3	4
1	1	1	0

●マスタサーバ、スレーブサーバの電源コンセントは、全て同じコントロールコンセントグループに接続して利用してください。

●電源障害時のシャットダウンに関するパラメータである、マスタサーバにて設定する「UPS のバッテリ運転が次の 時間経過後」のパラメータと、スレーブサーバにて設定する「UPS のバッテリ状態が次の時間経過後」のパラメー タについては、マスタサーバが5秒先にシャットダウンプロセスを開始できるように設定してください。

(設定例)

マスタサーバ:「UPS のバッテリ運転が次の時間経過後」 55 秒

スレーブサーバ:「UPS のバッテリ状態が次の時間経過後」1分

- ※スレーブサーバのシャットダウンプロセスが先に開始するようなパラメータ設定を行った場合、マスタサーバの シャットダウンプロセスが正しく動作しない場合があります。
- ●PowerChute Business Edition のスケジュール機能によるマスタサーバ、スレーブサーバの停止、起動を行う場合は、 スケジュール設定画面において、マスタサーバ、スレーブサーバの接続されているコンセントグループを含め、UPS 装置が保有するすべてのコンセントグループをオフ/オンする対象としてチェックを有効にしてください。



他のコンセントグループのチェックを無効のままでスケジュール運転を実行した場合、マスタサーバの OS シャットダウン後にスレーブへ発信される"ローバッテリ信号"が出力されないため、スレーブサーバにおいては OS シャットダウンが行われずに強制電源断の動作となる場合があります。

●マルチサーバ構成の場合、「13 コンセント管理」におけるコンセントグループの各種シャットダウン、オフおよび再起動関連操作や、「14 負荷制限機能」の機能は使用しないでください。マルチサーバ構成においてこれらの機能を利用したシャットダウン動作が発生しても、スレーブサーバに対するシャットダウン指示が正しく行うことができず、スレーブサーバでは強制電源断となる場合があります。

●マルチサーバ構成でマスタサーバ、スレーブサーバの停止、起動を行う場合は、コンセントシーケンスの設定で、 各コンセントグループの

このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める のチェックを有効にしてください。

PowerChuter BUSINESS EDITION	PowerChute Business E R120d10	dition		w	ww.apc.co.jp በታኝተን	🕼 🔮 クイックステータス バージョン情報 ヘルブ
Smart-UPS X 3000	PowerChute	シャットダウン	I\$1	垰⁻管理	በታ`	
コンセントシーケンス						
			***	💋 Outlet Gr	oup1	
			***	Outlet G	roup2	
 0		3:00	+++ 1:00	Outlet Gr +++ コンセントオン	oup3 コンセントオフ	
☑ AC商用電源復旧時	ミュすべてのコンセントグループを自動的に	電源オン				海田
Outlet Group1	🖖 Outlet Group2 👌 Outlet Gr	roup3				
😃 このエレセントゲルー	プを電源オフシーケンスに含める:		V			
コンセントゲルーフ。の電流	原わり時間					
経過後コンセンド	ブループの電源オフ:		18	D 秒		

このチェックを無効のままでシャットダウンを実行(電源障害発生時や、WebUIの[シャットダウン]ー[直ちにシャッ トダウン]を実行する場合、など)した場合、マスタサーバの OS シャットダウン後にスレーブへ発信される"ローバ ッテリ信号"が出力されないため、スレーブサーバにおいては OS シャットダウンが行われずに強制電源断の動作と なる場合があります。

19.10.15 NIC が複数枚ある場合に接続先として選択されるアドレスについて

PowerChute Business Edition コンソール起動時に表示される"サーバ"の接続先のアドレスは、起動時にアクティブな NIC が自動的に選択されて表示されます。

(注意:自動的に選択されるアクティブなNICは、OS上で設定できるNICの優先順位の設定とは関係はありません。)

そのため、マシンに複数の NIC が搭載されている(複数の IP アドレスを持っている) 場合では、PowerChute Business Edition サーバに接続できないアドレスが選択され、サーバのログインに失敗することがあります。

その場合は、以下の方法に従って手動で接続可能なサーバのホスト名または IP アドレスに切り替え、ログインしてく ださい。

【ログイン方法】

PowerChute Business Edition コンソールログイン画面の"サーバ"テキストボックスの右側の選択用アイコンをクリックし、接続可能なサーバのホスト名またはIP アドレスを選択してください。またはテキストボックスに直接入力し、サーバに接続してください。

19.10.16 PowerChute Business Edition のサービスの起動に失敗する

PowerChute Business Edition のサービスの起動に失敗し、下記エラーメッセージが表示される場合があります。 Failed to start APC PBE Agent/Server Service, Time out 90 seconds. Service start operation canceld

【原因】

PowerChute Business Edition エージェントと PowerChute Business Edition サーバの設定ファイル(m11.cfg)の破損により、本事象が発生することがあります。

PowerChute Business Edition のインストールフォルダ内に格納されている m11.cfg ファイルには、IP アドレスや、 設定した各種情報が適時更新され、保存されているため、 本ファイルが破損すると PowerChute Business Edition が 正常に動作、および起動ができなくなります。

破損原因はファイルにアクセス中にシステムの電源断(ダーティシャットダウン)によって発生する可能性があります。 インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

【確認方法】

m11.cfg ファイルを一旦別の場所にコピーし、Text エディタ等で開いてください。 何も記載がない場合(ファイルサイズが 0 byte)や、NULL で埋め尽くされているような場合、破損していると判断でき ます。

【回避方法】

m11.cfg が破損してしまうと、正常に稼働を続けることができないため、 PowerChute Business Edition の再インストールを実施してください。 また、PowerChute Business Edition エージェント(サーバ)の m11.cfg のみが破損した場合、PowerChute Business Edition エージェント(サーバ)のみの再インストールで問題ありません。

(備考)

m11.cfg ファイルはデフォルトでは下記のフォルダにあります。 PowerChute Business Edition エージェントの m11.cfg ファイル: c:¥program files¥APC¥PowerChute Business Edition¥Agent¥

PowerChute Business Edition サーバの m11.cfg ファイル: c:¥program files¥APC¥PowerChute Business Edition¥Server¥

19.10.17 一部機種で自動セルフテストが実行されなくなるについて

【対象機種の製品名と型番】 無停電電源装置(3000VA) N8180-64 無停電電源装置(1000VA) N8180-66 無停電電源装置(1500VA) N8180-67 無停電電源装置(500VA) N8180-68/68A 無停電電源装置(750VA) N8180-69 無停電電源装置(1500VA)「2U」 N8142-41 無停電電源装置(3000VA)「2U」 N8142-42 無停電電源装置(1200VA)「1U」 N8142-100 無停電電源装置(3000VA)「2U」 N8142-101 無停電電源装置(3000VA)「2U」 N8142-102

【事象】

7日、もしくは14日おきで設定されている自動セルフテストが実行されなくなります。 PCBEのログに周期的に実行されているセルフテストが記録されなくなっている場合にはセルフテストが停止してい る可能性があります。

【条件】

UPS が長時間バッテリー運転を続け出力停止、ブレインオフした場合に自動セルフテストの設定内容にかかわらず自動セルフテストが停止されます。

【対処方法】

ー度手動でセルフテストを実行してください。 手動によるセルフテストを実施することで設定されている自動セルフテストが回復し、再び設定周期でセルフテスト が実施されます。

20 障害発生時の資料採取方法

ここでは障害が発生した場合の資料採取方法を説明します。以下に記載されている Windows 環境および Linux 環境お よび VMware 環境での障害資料を採取し、「20.4 障害調査依頼票」に記載されている情報を調べてください。 ※重要: 『UPS インタフェース拡張ボード』または『マルチサーバ接続 BOX (Share UPS)』を使用し、マルチサー バ構成にて運用中の場合は、すべてのサーバ(マスタサーバ、スレーブサーバ)の資料を採取して送付してください。

20.1 Windows 環境

以下に採取が必要な障害資料を記載します。

- 20.1.1 PowerChute Business Edition のログ
- PowerChute Business Edition エージェント
 - (1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているフォルダを開く。
 (デフォルト: ¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent)
 - (2) その中にある下記ファイルおよびフォルダを採取してください。
 - [エージェントインストールフォルダ直下]
 - DataLog
 - EventLog
 - m11.cfg (注意:m11の1は数字の1です。)
 - ・ m11.bak (注意:m11の1は数字の1です。)
 - debug.txt
 - data.dat
 - pcbeproxy.txt
 - ・ cmdfile.log (存在する場合のみ採取してください)
 - hs_err_pid*.log (存在する場合のみ採取してください)
 *は不定な数字です。
 - commkey
 - proclog.txt
 - ・ proclog.txt.bak (存在する場合のみ採取してください)
 - PCBE-EnergyUsageCostHistory.txt
 - ・ EventLog.txt (存在しない場合は作成してください。作成方法は注1を参照してください)
 - [エージェントインストールフォルダ下の「cmdfiles」フォルダ]
 - ・ 「cmdfiles」フォルダおよびその配下のすべてのファイル
 - [エージェントインストールフォルダ下の「utils」フォルダ]
 - pcbeproxy.ini
 - ・ UPSSleep.log (存在する場合のみ採取してください)
 - 注意: UPSSleep.exeを実行するとシャットダウンが実行されますので注意してください。
 - 以下のファイルは、Export.exe を実行すると作成されます。Export.exe 実行後に採取してください。
 - Export.log
 - [エージェントインストールフォルダ下の「log」フォルダ]
 - pcbe.log
 - ・ pcbe.log.n (n=1~9) (存在する場合のみ採取してください)
 - [エージェントインストールフォルダ下の「energylog」フォルダ]
 - ・ YYYY-MM.log (YYYY-MM は数字)

※"UPSSleep.log"および"Export.log"がPowerChute Business Edition エージェントのインストールフォルダ配 下ではなく以下のフォルダに作成されることがあります。

なお、以下のフォルダを表示するためには、エクスプローラを起動し、「ツール」→「フォルダオプション」 の[表示]タブにて、"すべてのファイルとフォルダを表示する"を選択してください。

「%SystemDrive%¥ユーザー¥<ユーザ名>¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files

¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥utils フォルダ内」

注 1: EventLog.txt は Export.exe を実行した場合(Windows 環境のみ)、または LCD パネル付き Smart-UPS 使用時、"デバイスのプロパティ"画面にて[ログ]ー[イベントログ]を選択し、"イベント ログ"画面下部にある"エクスポート"を実行した場合に作成されます。

日付	時刻	1^*21
13/12/11	17:26:14	オンライン(グ [*] リーンモート [*]) - ON
3/12/11	17:26:13	通信確立
3/12/11	17:26:11	監視開始
3/12/11	17:15:58	監視停止
3/12/11	16:15:57	オンライン(グ・リーンモート [®]) - ON
3/12/11	16:15:56	通信確立
3/12/11	16:15:54	監視開始
3/12/11	16:11:06	監視停止
3/12/11	15:11:05	オンライン(グ [・] リーンモート [・]) - ON
3/12/11	15:11:03	通信確立

- PowerChute Business Edition サーバ
 - (1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition サーバがインストールされているフォルダを開く。(デフ オルト: ¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥server)
 - (2) その中にある下記ファイルを採取してください。
 - ・m11.cfg (注意:m11の1は数字の1です。)
 - ・m11.bak (注意:m11の1は数字の1です。)
 - data.dat
 - debug.txt
 - console.ini
 - commkey

■ PowerChute Business Edition コンソール

- (1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition コンソールがインストールされているフォルダを開く。 (デフォルト: ¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥console)
 - ※PowerChute Business Edition コンソールのインストールフォルダ配下ではなく以下のフォルダに作成されることがあります。
 - なお、以下のフォルダを表示するためには、エクスプローラを起動し、「ツール」→「フォルダオプション」 の[表示]タブにて、"すべてのファイルとフォルダを表示する"を選択してください。

「%SystemDrive%¥ユーザー¥<ユーザ名>¥AppData¥Local¥VirtualStore¥Program Files

- ¥APC¥PowerChute Business Edition¥console フォルダ内」
- (2) その中にある下記ファイルを採取してください。• console.ini
- 20.1.2 OSのイベントログの採取

下記手順にて保存したファイルを採取してください。

イベントログは、システムログとアプリケーションログの両方を採取してください。

- ① [コントロールパネル]→[管理ツール]のイベントビューアを起動します。
- ② ツリーでアプリケーションログを表示させ、【操作】を指定し、【すべてのイベントを名前をつけて保存】/
 【ログファイルの名前を付けて保存】を選択します。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力し「保存」 ボタンを選択してください。
- ④ 同様に、システムログ(ツリーでシステムログを指定)も保存してください。

20.1.3 システム情報ファイル

下記手順にて保存したファイルを採取してください。

- ① スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を起動し、『名前』の入力欄に「msinfo32.exe」と入力 してください。「システム情報」が起動します。
- ② メニューから【ファイル】→【上書き保存】を選択します。
- ③ 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。

20.1.4 Collect ログの採取

PCBE に必要な Collect ログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリ ティは使用しているサーバ装置の EXPRESSBUILDER または Starter Pack に格納されています。または、下記サイ トからもダウンロード可能です。

・装置情報収集ユーティリティ (Windows 版 Ver 3.3.0) <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110130>

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にて Collect ログを採取してください。

・ESMPRO/ServerAgentService またはESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログ は、ESMPRO/ServerAgentService またはESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」で採取します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ(デフォルトは ¥ESM)の ¥tool フォルダ配下にあります。

collect.exe により採取される情報は、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフ オルダ下の「¥ tool¥ log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。

・ESMPRO/ServerAgentService またはESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合は、装置情報 収集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「¥stdclct¥collect.exe」を実行してください。採取される情 報は「¥stdclct¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。

上記内容の詳細について、装置情報収集ユーティリティに添付している readme.txt をご参照ください。

20.1.5 確認事項

下記にあります確認事項の項目も採取してください。

(1) BIOS の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK (AC 連動モード)を「Power ON」(サーバ機種により「Always Power On」の場合があります)にしていただく必要があります。BIOS の 設定方法については、サーバにより異なります。サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。 注意: AC-LINK は、サーバ機種により「 After Power Failure 」あるいは「Automatic Power-On」と記載 されている場合があります。

(2) WebUI を使用するための準備

採取していただく資料の中にはWebUIのみでしか確認できない情報があります。「9 WebUI での操作」を参照して、WebUI を使用する準備ができていることを確認してください。

(3) PowerChute Business Edition 各コンポーネントのバージョン情報の確認

PowerChute Business Edition コンソールを使用して情報の確認をします。

PowerChute Business Edition コンソールを起動し、メインメニューの「ヘルプ」→「バージョン情報」を起動してください。以下の赤丸で囲まれている情報を「障害調査依頼票」の該当箇所にそれぞれ記入してください。



次に、障害が発生したサーバ(マルチサーバ構成をしている場合、マルチサーバを構成しているサーバすべて) のエージェントの情報を確認します。PowerChute Business Edition コンソールで対象サーバを選択し、右クリッ クして「プロパティ」を選択して「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示させてください。

■LCD パネルなし Smart-UPS 使用時

「全般」→「ホスト/UPS 情報」を選択して、以下の矢印で示された情報を「障害調査依頼票」に記入してください。

デバイスのブロバティ		\otimes
Windows		~
□-全般 ホスト/ UPS情報	<u>データの更新</u>	ホスト/ UPS情報
一管理者情報 		ホストパ吉幸品
	IPፖኑՆス:	172.16.1.97
ー ローエネルギー管理 ー サーハシャットダウン	エージェントのパージョン: OS:	9.0.3.404
田…日/ジライル 田…日/ジライル 田…通信		windows betver 2006 K2 Enterprise
		UPSI香菇
	UPSモデル:	Smart-UPS 1500 RM
	シリアル番号:	AS0830111194
	製造日:	2008/07/23
	ファームリェアのリビンョン:	617.18.A
	■現10/19/9/又19(□)	2010/12/29
✓ 詳細項目の表示		適用(A) 閉じる(C) ヘルフ*(H)
準備完了。		

PowerChute Business Edition エージェントの バージョン情報を障害調査依頼票の該当 箇所に記入

く参考>

WebUI からも PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を確認することはできますが、 PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソールのバージョン情報は確認で きませんので注意してください。

【PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を WebUI にて確認する方法】 WebUI を使用して PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバに接続し、 PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を確認します。

 $([へ ル]) \rightarrow [PowerChute Business Edition について」を選択します。)$

接続方法:ブラウザを起動し下記 URL を入力してください。

https://エージェントがインストールされているサーバの IP アドレス:6547

▼ ∿⊮ フ° 日次	連絡先の名前	
PowerChute Business	システムの場所	PowerChute Business Edition
Edition (c. 5x1) 保護されたシンテムの情報 ・ログアウト サーパ名 OS	エージェントのバージョン情報	
	サーバ名	エッテントのパインコン情報
	05	Windows Server 2008 K2 Enterprise
	(4010) . P. 52 5.	
	製品ハーンヨノ	
	ハーション	9.0.3.404

■LCD パネル付き Smart-UPS 使用時 画面右上部にある「バージョン情報」を選択してください。



PowerChute Business Edition Windows 小) ひりょう www.apc.co.jp | ロクマク | パーシッヨン情報) ルフ°

表示された「バージョン情報」画面の下部にある、以下の矢印で示された情報を「障害調査依頼票」に記入してください。

'-ジョン情報	
UPS情報パラメータ	
UPSŧ7*ル	Smart-UPS 1200
UPS SKU	NMM1200RMJ1U
ファームウェアリヒ゜シ゜ョン	UPS 09.5 / MCU 09.5 (20 - 8)
製造日	2012/11
刘邓晋号	AS1248238178
バッテリ設置日付	2012/11
UPSのID情報	APC UPS
保護されたシステムの情報	
サーバー名	Windows
IP7ト [*] νλ	PowerChute Business Edition エージェン
ΙΡፇჁኈνλ	トのバージョン情報を陪実調本休萌要の
OS	
UPS通信ポート	該当固所1~記入
連絡先の名前	
システムの場所	
製品バージョン	
Л°-ў°∃>	9.1.1.404

(4) UPS の設定値の確認

UPS にて保持している設定値を確認します。

これらの情報はSmart-UPS 側の RAM に保持される情報のため、PowerChute Business Edition ログに記録されません。下記手順により各設定値を確認し、「20.4 障害調査依頼票」に記載してください。

UPS 機種により採取する情報が異なります。 使用している UPS に関する情報を採取してください。 LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合は、①項へ進んでください。 LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合は、⑤項へ進んでください。

■LCD パネルなし Smart-UPS 使用時

「バッテリ切り替え値(上限)」、「バッテリ切り替え値(下限)」、「感度」の設定を確認します。
 「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[全般]-[電源パラメータ]を選択し、以下の画面にて確認します。
 ※「電源パラメータ」メニューを表示するには「詳細項目の表示」にチェックを入れてください。

ϝ· Ͷʹϥ Ϫ ϴϽʹʹ <mark>Ϥ</mark> Ͷʹʹ <mark>ϝ</mark> ィ			×
Windows			~
	<u>テ^-ぬの更新</u>	電源の設定 パッテリ切り替え値(上限) 110 パッテリ切り替え値(下限) 090 感度: 高 UPS出力電圧: 100 警告音: 電源障害	電源ハ°ラメータ ◎ ◎ ◎
☑ 詳細項目の表示		適用(A) (キ	6)41/0) (11/7°(H)
準1備完了。			

く参考>

WebUIから確認する場合は、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバに接続し、[UPS 種類]-[環境設定]より確認します。

PowerChute Business Edition	PowerChute' Rolates EDTON	Smart-UPS 1500 RM
	GPSの設定	?
	電圧の設定	
Smart-UPS 1500 RM	出力電圧 100 VAC	
UPSステータス	パッ デリ切替値(上限) 108 ✔ VAC	
エネルギー使用量	パップリ切替値(下限) 86 V VAC	
^{「「「「「「「」」」} 「「」」 「「」」 「」」	感度	

② 「ローバッテリ信号時間」「ローランタイムしきい値」の設定を確認します。

「ローバッテリ信号時間」および「ローランタイムしきい値」の設定は、WebUI からのみ確認可能です。 WebUI を使用して PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバに接続し、 [サーバーシャットダウン]-[シャットダウンの設定]より確認します。

なお、「ローランタイムしきい値」は「シャットダウンシーケンスにかかる時間」になります。

		Smart-UPS 1500 RM
PowerChute Business Edition	PowerChute*	Čá i
	シャッゆウンの設定	?
	シャットダウンシーケンスサマリ	
Smart-UPS 1500 F M	シャットダウンシーケンスにかかる	1115分
	ローバッジ信号時間	2 分
▼サーバーシャットダウン	マメウァイルを実行する	Idu
シバリンク設定	ገ ገአንንብሥ <mark>ጸ</mark>	C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition\agent\cmdfiles\test.cmd

③「OS シャットダウン期間」の設定を確認します。
 「OS シャットダウン期間」は、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[サーバシャットダウン]
 ー[シャットダウンシーケンス]を選択し、以下の画面にて確認します。

 ;ͺͺͺͺͺͺ			$\overline{\mathbf{x}}$
Windows			~
 □・全般 □・1ネルキー管理 ・サーハシャットダウン - スケンネールシャットダウン - スケンネールシャットダウン - 電源障害 - シャットダウンタイプ □・シャットダウンタイプ □・シャットダウンアイル 	<u>デー物の更新</u>	. که:	<u>ንትፃኘንንን-ታንス</u>
		待機時間(分)	期間(分)
	コマントウァイル	0:00	1.00
	OS	3:00	3:00
	2	キャットタウンシーケンスの設定	
✓ 詳細項目の表示		適用(A)	閉じる(C) (^ルプ(H)
準備完了。			

④ 「電源回復時の UPS 再起動」の設定を確認します。

「電源回復時の UPS 再起動」は、[サーバシャットダウン]-[電源障害]を選択し、以下の画面にて確認します。「電源回復時の UPS 再起動」の設定内容を障害調査票に記入してください。 ※「電源障害」メニューを表示するには「詳細項目の表示」にチェックを入れてください。

"即時"または"次が発生した後(バッテリ容量、待機時間)"を選択している場合は、障害調査票内の「OS の再起動を有効にする」の欄に「はい」と記入してください。

"しない(UPS を手動でオンにする)"を選択している場合は、「OS の再起動を有効にする」の欄に「いい え」と記入してください。

デベイスのプロペティ	\otimes
Windows	\sim
 □-全般 □-エネルギー管理 	<u>产物更新</u> 電源障害
ー・サーハ [、] シャットダウン	
… スケジュールシャットなウン … 雷源障害	電源障害時のシャットタウン開始
シャットダウンタイプシャットダウンタイプ	 □ 即時 ○ UPSのパッテリ状態が次の時間経過後:
ーロックファイル ー・通信	
	電源回復時のUPS再起動:
	 □ ม™न ○ バッテリが次の容量まで充電された時
	パッデリ容量 90 ◎ % 注まi/ig=き目 ○ ▲ 封
	1寸1版((1)198友手動でお)(にする)
☑ 詳細項目の表示	適用(A) (キャンセル(C) (ヘルフペH)
準備完了	

く参考>

WebUI から確認する場合は、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサー バに接続し、[サーバーシャットダウン]-[シャットダウンの設定]より確認します。

★サーバーシャットダウン シャットダックの設定	アメトファイルを実行する アメトファイル名	ולג) C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition\agent\cmdfiles\test.cmd
システムの設定 すぐにサーバをシャットダウン	マメファル実行所要時間	1分
	OSシャットダウン時間	3分
> 7° −900°	OSንቀንትንንንታብን	シャットなってン
	この再起動を有効にする	lat)
	UPS再起動待機(容量)	90 %
> ログアウト	UPS再起動待機(時間)	0分

■LCD パネル付き Smart-UPS 使用時

⑤ 「バッテリ切り替え値(上限)」、「バッテリ切り替え値(下限)」、「感度」の設定を確認します。 「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、["UPS 機種名"]-[UPS 設定]を選択します。

Smart-UPS 1200	PowerChute	ንየፃኑምዕን	环冲*-管理	<i>۵७</i> *	
UPS27-92					
コンセントの設定					
パッテリ管理					
診断					
UPS設定					
7 10 1007 70	3	オンライン(ク゛リーンモート゛)			

表示された「UPS 設定」画面にて確認します。

Smart-UPS 1200	PowerChute	ን የ ም ኮ ም ሳን	 לים	
UPS設定				
電源設定			 	
出力電圧		100 VAC		
切り替え電圧上限		108 VAC		
切り替え電圧下限		92 VAC		
電力品質感度		標準~		
全般設定			 	
UPS名		APC UPS		
警告音		警告音有効 🗸		
UPS LCDは読み取り専用	ਿਰ	いいえマ		
UPS出力負荷しきい値		80 🖌 %		
高内部温度しきい値		70 °C		
高内部温度警告しきい値		65 °C		
		適用		

⑥ 「ローバッテリ信号時間」「ローランタイムしきい値」の設定を確認します。

「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]ー[シャットダウンの設定]を選択します。 以下の矢印で示された情報を確認してください。

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> ቀቃ ኑ ም ዕን	环#*-管理	ሆ
シャットダウンの設定				
- 電源障害設定				_
電源障害時のシャットダウン開 ○ 即時	1941:		「ランタイム制限で」	で表示されている項目が 間」に該当します。
 UPSのバッテリ運転が 	欠の時間経過後	60 秒	_/	
○ ランタイム制限で		120 秒		
○ 電源障害時にシャットダ	かせず			
- OSとアプリケーションのシャット	<i>ዓ</i> ን ን			
OSがシャットダウンする時間		180 秒		
必要な場合は、OSのシャゥ	トダウンに先立ち、コマンドファイルを	を使用してアプリケーション?	をシャットダウンできます。	
コマント、ファイルの選択		未選択	77	
- シャットダウンサマリ				
電源障害が発生したとき シャットダウンプロセスは、UPSカ	は: ぶ 60 秒間バッテリ運転した後に	開始します。		
続いて:				
0 秒	OSシャットダウンの開始			
180 秒	PowerChuteI-ジェン	トに電源供給している	jコンセントグループ Outlet Group 1 の電源ポ	1
電源が復旧したときには	:			_
続いて:		「合計」	として表示されている	値が「ローランタイム
0 秒	PowerChute2 > 1>	トレビ しきい値	」に該当します。	
は、電源障害設定 の選抜 の合計(180 秒)を下回	こかかわらず、残りのUPS た場合、安全なシャットタ	ランタイムがアプリク プウンに十分な時間を	rーションおよびオペレーティングシ 確保するため、即時シャットダウンた	ステムのシャットダウンに設定された時間 が実行されます。
			適用	

⑦ 「コンセントシーケンス」に関する設定を確認します。
 「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]ー[コンセントシーケンス]を選択します。

「PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループ」(A) → 緑のアイコンがついているコンセントグループが「PowerChute Business Edition エージェントがイ ンストールされているコンセントグループ」になります。

「AC 商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン」(B)

次に、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループの下記設 定値を確認します。

「OS がシャットダウンする時間」

「コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間」

「コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム」

「この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンシーケンスを決めます」

http://s-fyス inter Group inter inter Group inter inter inter Group inter Group inter G	40
	(A)
Could Group 1 Could Group 2 Could Group 2 Could Group 1 Could Group 2 Could Group 1 Could Group 2 Could	p 1
AC商用電源復旧時にすべてのJ>セ>トヴループを自動的に電源オン (B) Outlet Group 1 Outlet Group 2 COJンセントヴループは電源オフシーケンスに含まれています Jンセントヴループは電源オフシーケンスに含まれています Oが OSがシャットジウンする時間: 180 秒 Jンセントグループ電源オンまでの時間	2
AC商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源 か (B) Outlet Group 1 Outlet Group 2 C Cのコンセントグループは電源スフシークンスに含まれています Dvとンドループの電源スフ時間 MOのフプリケーションカシャットダかシする時間: O N O Sがシャットダかjする時間: 180 秒 12/セント/゙ループがシャットダかjする合計時間: 180 秒 2)セントゲループ電源スフまでの時間	コンセントオフ
AC商用電源復旧時にすべてのJyDyPy ループを目動的に電源オン (D) Outlet Group 1 (O) Outlet Group 2 (D) このコンセントゲ ループ は電源オフラーケンスに含まれています (D) 10セントゲ ループ は電源オフラーケンスに含まれています (D) 10セントゲ ループ は電源オフラーケンスに含まれています (D) 0の7プ リケーションが ジャットゲ かりする時間: 0秒 0Sが ジャットゲ かりする時間: 180秒 12セントゲ ループ が ジャットゲ かりする合計時間: 180秒 12セントゲ ループ 電源れまでの時間 (D)	
Outlet Group 1 Outlet Group 2 ごのコンセントゲートープ は電源オジーケンスに含まれています ンセントゲートープ は電源オジーケンスに含まれています ひとり、クートープ は電源オジーケンスに含まれています ひとり、ケートープ いうマットゲーションジン・ケーシー ひ ジャット ケーシ う ひ う う ひ ち う 一 い す ふ う か く う ま い き い き い き い き い き い き い き い き い き い	ì
コンセントゲート-プの電源れ7時間 他のアプリケーションがジャットゲックする時間: OSがジャットゲックする時間: コンセントゲート-プ・電源れまでの時間	
コンセントゲル-プの電源の時間 他のアプリンーションがシャットジウンする時間: OSがシャットジウンする時間: コンセントゲル-プのがシャットジウンする合計時間: 180 秒 コンセントゲル-プの電源わまでの時間	
他のアプリケーションがシャットダウンする時間: 0 秒 OSがシャットダウンする時間: 180 秒 コンセントグループ電源/ンまでの時間 180 秒	
OSがシャットジウンする時間: 180 秒 Jンセントグループ転源れまでの時間 180	
コンセントゲループのがシャャットゲがりする合計時間: 180 秒 コンセントゲループの電源わまでの時間 180 秒	
コンセントゲーーフ。電源れまでの時間	
☆ [#] コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間: 8秒	
コンセントグッルーフ の電源をわにする前に必要な最小パッパリランタイム: 0秒	
この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます: 0秒	

同様に、その他のコンセントグループの下記設定値を確認します。

「このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める」

「経過後コンセントグループの電源オフ」

「コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間」

「コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム」

「この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます」

Smart-UPS 1200	PowerChute	<u>ን</u> የ ፇ Ւ ቓ ፝ባን	I\$N‡'	*-管理	<u>ס</u> לם	
1ンセントシーケンス						
		//	 	Outlet Gro	oup 1	
		3:00	0	+++ 3262142	3>2>1>17	
✓ AC商用電源復旧時に	すべてのコンセントグループを自動的	こ電源わ				***
Outlet Group 1	Outlet Group 2					
() このコンセントグループ	。を電源オフシーケンスに含める:		\checkmark			
コンセントクッルーフ。の電源わり	時間					
経過後コンセントグリ	レープの電源オフ:		90	秒		
コンセントグットーフ。電源わまて	での時間					
·····································	わの状態を続ける最小時間:		8	砂		
☆― 他のコンセントグルーフ	プを待機:		90) 秒		
コンセントクベルーフペ のす	電源をわにする前に必要な最小	いい ッテリランタイム :	0	砂		
この追加待機時	問を使用してコンセントグループの言	፤源わのシーケンスを決めます:	0	秒		

(5) Summary 情報の採取(LCD パネル付き Smart-UPS のみ)

Internet Explorer より「https://<対象サーバの IP アドレス>:6547/summary」と入力し表示された画面情報 を採取してください。

PCBE Summary	
UPS Manufacturing Information SKU=NMM1200RMJ1U model=Smart-UPS 1200	FW = UPS 09.5 / MCU 09.5 SeriesFile = (20 - 8) S/N=AS1248238178 UPS_manufacture_date=2012/11
UPS Information	UPS_load=9.2
UPS LCDは読み取り専用です	いいえ
Battery Information	Runtime=2399 battery_charge=100.0 batt_temp=34.6 install_date=2012/11
UPS Status	Upsstatus=DeviceState.HighEfficiency hsm=UPS_HIGH_EFFICIENCY_STATE
PCBE Settings	pcbe=9.1.1.404 os=Windows Server 2012 R2 Datacenter Evaluation comPort=USB
Shutdown Settings	powerFail=timed app_os_duration=180 os_duration=180 app_duration=0 sd_cmd_duration=0
Pcbe Outlet	コンセントグループ 1
Status BitFields	ups_status=0x2002 input_status=0x0001 rtc_status=0x004c self_test_status=0x0104
Settings BitFields	sensitivity_setting=0x0001
Targeted Outlet Groups	targetedOGIndices=[0, 1, 2] targetedOutletGroups=コンセントグループ 1, コンセントグループ 2
Shutdown Schedules	none
Pending PCBE Outlet Group Shutdowns	none
Pending Non-PCBE Outlet Group Shutdowns	none
]ンセントグループ 1 (Outlet Group 1)	
Delays	Toff = 180, TstayOff = 8, Ton = 0
Load Shedding	time On Batt=false runtime=false load Thresh=false man Restart=false Toff=false toff
コンセントグループ 2 (Outlet Group 2)	
Delays	Toff = 90, TstayOff = 8, Ton = 0
Load Shedding	timeOnBatt=false runtime=false loadThresh=false manRestart=false Toff=false

(6) 拡張オプション機器の情報

以下に示している拡張オプション機器を使用している場合は、その製品も「障害調査依頼票」に記入してくだ さい。

- ・SNMP カード
- ・UPS インタフェース拡張ボード
- ・マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)

※LCD パネルなし Smart-UPS において「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」を使用されている場合、使用しているモード、およびディップスイッチの設定値についての情報も記入してください。

※LCD パネル付き Smart-UPS に「UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)」を使用している場合、ディ ップスイッチの各設定値も記入してください。

(7) 「障害調査依頼票」に記載されているその他の情報を収集し、記入してください。

20.2 Linux 環境

以下に採取が必要な障害資料を記載します。 コマンドラインから資料を採取してください。 資料採取はすべて root 権限にて作業してください。一般ユーザにてログインしている場合は、「su-」コマンドにて root 権限になり行ってください。

- 20.2.1 PowerChute Business Edition のログ
- PowerChute Business Edition エージェント
 - PowerChute Business Edition エージェント のインストールされているディレクトリへ移動します。
 例)cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent
 - (2) ディレクトリ配下の下記ファイルおよび、ディレクトリを採取してください。
 - ・DataLog
 - EventLog
 - ・m11.cfg (注意:m11の1は数字の1です。)
 - ・m11.bak (注意:m11の1は数字の1です。)
 - data.dat
 - debug.txt
 - pcbeproxy.txt
 - ・cmdfile.log (存在する場合のみ採取してください)
 - ・hs_err_pid*.log (存在する場合のみ採取してください)
 - *は不定な数字です。
 - commkey
 - proclog.txt
 - ・EventLog.txt (存在しない場合は作成してください。作成方法は注1を参照してください)
 - ・「cmdfiles」ディレクトリおよびそのディレクトリ配下のファイル
 - ・「log」ディレクトリ配下のファイル
 - -pcbe.log

energylog

- ーpcbe.log.n (n=1~9) (存在する場合のみ採取してください)
- 「energylog」ディレクトリ配下のファイル ーYYYY-MM.log (YYYY-MM は数字)

※ファイルサイズが大きい場合、tarコマンドなどで圧縮してください。

- 例) tar cvzf ./pcbe_agent.tar.gz DataLog EventLog EventLog.txt m11.cfg m11.bak debug.txt commkey data.dat pcbeproxy.txt cmdfile.log proclog.txt cmdfile.log hs_err_pid*.log cmdfiles log
 - 注1:EventLog.txt はLCD パネル付き Smart-UPS 使用時、"デバイスのプロパティ"画面にて[ログ]ー[イ ベントログ]を選択し、"イベントログ"画面下部にある"エクスポート"を実行した場合に作成されま す。

イヘンントロク 10 V Iンドリの表示 (ページごと) 日付 時刻 17:26:14 17:26:13 17:26:11 17:15:58 16:15:57 16:15:56 13/12/11 オンライン(ク^{*}リーンモート^{*}) - ON 13/12/1 13/12/11 13/12/11 13/12/11 13/12/11 通信確立 13/12/11 13/12/11 16:15:54 監視開始 13/12/11 16:11:06 監視停止 13/12/11 15:11:05 オンライン(グッリーンモート。) - ON 13/12/11 15-11-03 通信確立

1~10/70 1)りの表示		最初	前へ	1	2	3	4	5	次へ	最後
	エクスポート ゆの消去 再読込									

LCDパネルなしSmart-UPS使用時、EventLog.txtが作成できないため、EventLog.txtの代わりに、" デバイスのプロパティ"画面にて[ログ]ー[イベントログ]を表示し、画面のスクリーンコピーを採取 してください。なお、障害調査に必要なイベントのスクリーンコピーを全部含むように採取して ください。

20.2.2 シスログの採取

以下の手順にて、シスログを採取してください。

- (1) /var/log フォルダへ移動します。
- cd /var/log
- (2) その中にある「messages」ファイルを採取してください。
 使用している環境によっては messages、messages.1、messages.2、…または、messages-20150602 や
 messages-20150525.gz などのファイル名で複数の message ファイルが存在します。全ての messages フ
 ァイルを採取してください。
 ※ファイルサイズが大きい場合は、tar コマンド等で圧縮してください。
 - 例) tar cvzf ./logfile1.tar.gz messages*

20.2.3 確認事項

確認事項および確認方法はWindows版と同じです。「20.1.5確認事項」を参照して情報の採取を行ってください。

20.2.4 Collect ログの採取

PCBE に必要な Collect ログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリ ティは使用しているサーバ装置の EXPRESSBUILDER または Starter Pack に格納されています。または、下記サイ トからもダウンロード可能です。

・装置情報収集ユーティリティ (Linux 版 Ver 2.8.5)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010110046>

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にて Collect ログを採取してください。

・ESMPRO/ServerAgentService またはESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログ は、ESMPRO/ServerAgentService またはESMPRO/ServerAgent の「collect.sh」で採取します。collect.sh は ESMPRO/ServerAgentService 、 ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ(デフォルトは /opt/nec/esmpro_sa)の tools ディレクトリ配下にあります。collectsa.sh を実行したカレントディレクトリ下 に「collectsa.tgz」というファイルが生成されます。

・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合は、装置情報 収集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「/stdclct/collectsa.sh」を実行してください。collectsa.sh を 実行したカレントディレクトリ下に「collectsa.tgz」というファイルが生成されます。

20.3 VMware 環境

以下に採取が必要な障害資料を記載します。

20.3.1 PowerChute Business Edition のログ

```
コマンドラインから以下の資料を採取してください。
```

資料採取は、VMware サーバの vMA へ、vi-admin ユーザでログインし、作業してください。

■ PowerChute Business Edition エージェント

- PowerChute Business Edition エージェント のインストールされているディレクトリへ移動します。
 例)cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent
- (2) ディレクトリ配下の下記ファイルおよび、ディレクトリを採取してください。
 - ・DataLog
 - EventLog
 - ・m11.cfg (注意:m11の1は数字の1です。)
 - ・m11.bak (注意:m11の1は数字の1です。)
 - data.dat
 - debug.txt
 - pcbeproxy.txt
 - ・cmdfile.log (存在する場合のみ採取してください)
 - hs_err_pid*.log (存在する場合のみ採取してください)
 - *は不定な数字です。
 - commkey
 - proclog.txt
 - ・EventLog.txt (存在しない場合は作成してください。作成方法は注1を参照してください)
 - ・「cmdfiles」ディレクトリおよびそのディレクトリ配下のファイル
 - ・「log」ディレクトリ配下のファイル
 - -pcbe.log
 - ーpcbe.log.n (n=1~9) (存在する場合のみ採取してください)
 - 「energylog」ディレクトリ配下のファイル
 —YYYY-MM.log (YYYY-MM は数字)

※ファイルサイズが大きい場合、tarコマンドなどで圧縮してください。

例) sudo tar cvzf ./pcbe_agent.tar.gz DataLog EventLog EventLog.txt m11.cfg m11.bak debug.txt commkey data.dat pcbeproxy.txt proclog.txt cmdfile.log hs_err_pid*.log cmdfiles log energylog

注1:20.2 Linux 環境の注1を参照してください。

20.3.2 シスログの採取

以下の手順にて、システム ログを採取してください。

- (1) VMware vSphere client にて VMware サーバへ root 権限でログインします。
- (2) VMware vSphere client のメニューより[表示]-[管理]-[システム ログ]を選択します。

	🖉 esxi ~ vSphere Cli	ient								⊐ ×
- 1	ファイル (E) 編集 (E)	表示	· (₩) インベントリ (N) 管理 (A) ブラ	ヴイン (E	$^{\circ}$ $^{\circ}$	リプ(出)				
			戻る (B) Alt+Le	ft				_		
)次へ (<u>F</u>) Alt+Rig	nt						
	6 6		ホーム(<u>H</u>) Alt+Hon	ne						
	+ esxi	~	ナビゲーション バー (<u>N</u>)		ESXi	, 5.1.0, 799733				
- 1		~	ツールバー ①		削り当	て、「パフォーマンス	構成して力	IJλ	ユーザーおよびグループ イベント 権限	
		~	ステータス バー (<u>S</u>)					Ļ	リソース	-
		~	インベンドル内の仮想マシンを表示 Ѵ)		NEC			CPII使用量: 198 MHz 容量	
			インベントリ内のテンプレートを表示(E)		Express5800/R	120d-1E [N8		8 × 1.795 GHz	
		8	インベンドリ Φ	•		8 CPUs × 1.795	GHz		メモリ使用量: 4524.00 MB 容量	
		8	管理 (<u>A</u>)	•	88	ロール(图)	Ctrl+Shift+R		16335.38 MB	
			74ルタ (1)			システム ログ (<u>O</u>)	Ctrl+Shift+O		ストレージ ヘ ドライブのタイプ 容量 空	
- 1						Plus - 2 (川初埋	CPU のライ		detectore1 #ESSD 131.00 GB 81	

(3) 画面左上にある「システム ログのエクスポート」を選択し採取してください。



20.3.3 確認事項

確認事項および確認方法はWindows版と同じです。「20.1.5確認事項」を参照して情報の採取を行ってください。

20.4 障害調査依頼票

「20.1.5 確認事項」にて確認した内容を、下記の該当箇所に記入してください。 《環境情報》

◆ソフトウェア情報◆

○ 製品

- □ PowerChute Business Edition バージョン () 型番 (UL ・PowerChute Business Edition エージェント バージョン() ・PowerChute Business Edition サーバ バージョン ()
 - ・PowerChute Business Edition コンソール バージョン()

)

- インストールされているアンチウィルスソフトの製品名
- その他の製品
- ネットワークプロトコル ※全て記入してください (例) TCP/IP、NetBIOS プロトコル(LANManager)
- UPS の設定値

バッテリ切り替え値(上限) () VAC
バッテリ切り替え値(下限) () VAC
感度()		
ローバッテリ信 号時 間	()分
ローランタイムしきい値	()分

以降は、使用している UPS に従い採取してください。

<LCD パネルなし Smart-UPS を使用している場合>

	\ 无\
UPS 再起動待機(時間):() ry
UPS 再起動待機(容量):()%
電源回復時の UPS 再起動 : ()

注意 :「OS シャットダウン期間」は WebUI では「OS シャットダウン時間」と表現されています。

<LCD パネル付き Smart-UPS を使用している場合>

PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループ:)

AC 商用電源復旧時にすべてのコンセントグループを自動的に電源オン: □ チェックあり □チェックなし 【PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループの設定】

- OS がシャットダウンする時間:()秒

コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間:()秒

- コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム:()秒
- この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます : ()秒

【その他のコンセントグループの設定】

- このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める: ロチェックあり ロチェックなし
- 経過後コンセントグループの電源オフ:()秒
- コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間:(
- コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム:()秒

)秒

- この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます:()秒
- インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

【その他のコンセントグループの設定】 このコンセントグループを電源オフシーケンスに含める: ロチェックあり ロチェックなし 経過後コンセントグループの電源オフ:()秒 コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間:()秒 コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム:()秒 この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます:()秒 ○ PowerChute Business Edition で使用しているユーザ名、パスワード ユーザ名() パスワード() ◆ハードウェア情報◆ O UPS □ Smart-UPS () 型番(N) ・接続形態: ロシリアル接続 ロUSB 接続 ・シグナリングタイプ: D スマート D シンプル ・通信ケーブル: ロ K410-313(1A) シリアルケーブル (940-0024E) UPSに添付のシリアルケーブル(940-0625A) □ UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)に添付のシリアルケーブル(940-0020E) □ K410-283(4A) シリアルケーブル (940-1525A) □ N8580-04 シリアルケーブル (940-0020E) □ K410-248(1A) USB ケーブル ・拡張オプション機器 : □ SNMP カード N型番() □ UPS インタフェース拡張ボード N型番() ロマルチサーバ接続 BOX(Share UPS) N型番() ※LCD パネルなし Smart-UPS に『UPS インタフェース拡張ボード』または『マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)』を使用している場合、以下のモード設定についての情報も記入してください。また、その際にデ ィップスイッチの各設定値も記入してください。 □ コンファームモード □ ローバッテリモード □ タイマーモード ディップスイッチの各設定値() ※LCD パネル付き Smart-UPS に『UPS インタフェース拡張ボード(N8180-80)』を使用している場合、デ ィップスイッチの各設定値も記入してください。 ディップスイッチの各設定値() ○ サーバ本体機種 ※OS(SP 含む)も含めて全て記入してください ・機種 Express5800/ () ※51Ma、R120b-2など 型番 (N) iStorage NS シリーズ() 型番(N) BIOS: AC-LINK の設定値() 以下機種の場合、 Express5800/R120h-1E Express5800/R120h-2E Express5800/R120h-1M Express5800/R120h-2M インストールガイド/リリースノート: PowerChute Business Edition Basic v9.1.1

Express5800/T120h BIOS: BIOS Serial Console Port(*1)と Serial CLI Status(*2)の値()

(*1)System Utilities(F9) > System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port
 (*2) System Utilities(F9) > System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status

```
    OS
    Windows : ( ) ※Windows Server 20012 R2、Windows Server 2012、Windows 8.1 など
ServicePack ( )
    Linux : ※RHEL6.4、RHEL5.9 など
バージョン : ( )
    ※Linux の場合はターミナルより、コマンド uname -a で出力される情報も記載してください。
( )
    VMware : ※update やvMAのバージョンも記入してください。
バージョン : ( )
    update : ( )
    vMA バージョン : ( )
```

○ その他関連ハードウェア (N 型番も記載してください。)

《構成図》

各サーバに接続しているケーブルの型番も明記してください。

《お問い合わせ内容》

《添付ログファイルの有無》

□ 有 □ 無

21 UPS 交換後の設定

21.1 同一型番の UPS に交換する場合(LCD パネルなし Smart-UPS)

以下の手順は、交換前と交換後が同じ UPS で、同じ COM ポートに接続する場合の手順です。 ※UPS の操作につきましては、UPS の取扱説明書を参照してください。

① UPS の交換をする前に以下の設定値を控えておく。

※以下の設定値はSmart-UPSのRAMに保持されているもの、および作業により変更される設定項目ですので、 必ずメモをとっておいてください。

確認方法は、「21.4 UPS の各種設定項目の確認および設定方法」を参照してください。

UPS 名	()
バッテリ切り替え値(上限)	()VAC
バッテリ切り替え値(下限)	()VAC
感度	()
警告音	()
OS シャットダウン期間	()秒
電源回復時の UPS 再起動	()
UPS 再起動待機(時間)	()秒
UPS 再起動待機(容量)	() %
ローバッテリ信号 時 間	()分
UPS によるセルフテストの実行頻度	()
ローランタイムしきい値	()分

- ② サーバをシャットダウン後、UPS 前面の OFF スイッチを押して、電源を OFF する。
- Smart-UPS を交換します。 右図のように接続します。



④ UPS 前面の On/Test スイッチを押して、サーバを起動します。



⑤ PowerChute Business Edition コンソールまたは WebUI を使用して、①で控えた設定値に設定し直してください。
21.2 同一型番の UPS に交換する場合(LCD パネル付き Smart-UPS)

以下の手順は、交換前と交換後が同じ UPS で、同じポートに接続する場合の手順です。

※説明はPowerChute Business Edition エージェントがインストールされているコンセントグループをコンセントグループ1として設定した内容になっています。他のコンセントグループに設定している場合は読み替えてください。

※UPSの操作につきましては、UPSの取扱説明書を参照してください。

① UPS の交換をする前に以下の設定値を控えておく。

※以下の設定値はSmart-UPSのRAMに保持されているもの、および作業により変更される設定項目 ですので、必ずメモをとっておいてください。

確認方法は、「21.4 UPS の各種設定項目の確認および設定方法」を参照してください。

UPS 名) 切り替え電圧上限)VAC 切り替え電圧下限)VAC 電力品質感度) 警告音) LCD 読み取り専用) コンセントグループの名前 コンセントグループ1() コンセントグループ2() コンセントグループ3() メインコンセントグループ() コンセントシーケンス コンセントグループ1: コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間()秒 コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム()秒 この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます)秒 (コンセントグループ2: 経過後コンセントグループの電源オフ()秒 コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間()秒 コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム()秒 この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます)秒 (コンセントグループ3: 経過後コンセントグループの電源オフ()秒 コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間()秒 コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム()秒 この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます)秒 メインコンセントグループ: 経過後コンセントグループの電源オフ()秒 コンセントグループがオフの状態を続ける最小時間()秒 コンセントグループの電源をオンにする前に必要な最小バッテリランタイム()秒 この追加待機時間を使用してコンセントグループの電源オンのシーケンスを決めます)秒 (

コンセントグループ1:	
バッテリ運転時間が次を超過 (有/無) (のうちょう)秒	
バッテリ運転が次を下回った場合のランタイム残り時間 (有/無) ()秒
UPS 過負荷状態あり (有/無)	
電源オフ待機時間の使用 (有/無)	
AC 商用電源復旧時にコンセントグループを自動的にオン (有/無)	
コンセントグループ2:	
バッテリ運転時間が次を超過 (有/無) ()秒	
バッテリ運転が次を下回った場合のランタイム残り時間 (有/無) ()秒
UPS 過負荷状態あり (有/無)	
電源オフ待機時間の使用 (有/無)	
AC 商用電源復旧時にコンセントグループを自動的にオン (有/無)	
コンセントグループ3:	
バッテリ運転時間が次を超過 (有/無) (
バッテリ運転が次を下回った場合のランタイム残り時間 (有/無) ()秒
UPS 過負荷状態あり (有/無)	
電源オフ待機時間の使用 (有/無)	
AC 商用電源復旧時にコンセントグループを自動的にオン (有/無)	
ランタイム制限で(ローバッテリ信号時間) ())秒	
UPS によるセルフテストの実行頻度 ()	
バッテリ設置日付 ()	

② サーバをシャットダウンし、UPS 前面の On/Off ボタンを押して電源を OFF する。



⑤ PowerChute Business Edition コンソールまたは WebUI を使用して、①で控えた設定値に設定し直してください。

21.3 異なる型番の UPS に交換する場合

これまで使用していた UPS と異なる型番の UPS に交換する場合、UPS を交換した後に以下の情報を使用している環境に適した値へ再設定する必要があります。

- ※ UPSの操作につきましては、UPSの取扱説明書を参照してください。
 - ・ UPS 名
 - ・ バッテリ切り替え値(上限)
 - ・ バッテリ切り替え値(下限)
 - ・感度
 - ・ 警告音
 - ・ OS シャットダウン期間(WebUI では「OS シャットダウン待機時間」と表現されています)
 - ・ 電源回復時の UPS 自動起動
 - ・ UPS 再起動待機(時間)
 - UPS 再起動待機(容量)
 - ローバッテリ信号時間(WebUl でのみ設定することができます)
 - ・ UPS によるセルフテストの実行頻度(WebUI でのみ設定することができます)
 - ・ ローランタイムしきい値 (WebUI でのみ設定することができます)
- 重要:特に「OS シャットダウン期間」は実環境のサーバを使用して OS のシャットダウンに必要な時間を 複数回測定し、その結果を十分に超える時間を設定してください。 この設定値が短い場合、シャットダウン途中に UPS からの電源供給が停止され、システムに重大な 障害が発生する可能性があります。
- 注意:上記作業は、LCDパネルなしSmart-UPSのみが該当します。

異なる型番の LCD パネル付き Smart-UPS へ交換する場合は、PowerChute Business Edition エー ジェントを再インストールする必要があります。

また、LCD パネル付き Smart-UPS から LCD パネルなし Smart-UPS、あるいは、LCD パネルなし Smart-UPS から LCD パネル付き Smart-UPS へ交換する場合も、PowerChute Business Edition エージェントを再インストールする必要があります。

UPS 交換後に各項目を使用している環境に適した値へ設定してください。

21.4 UPS の各種設定項目の確認および設定方法

UPS の各種設定情報の確認および設定方法は以下の通りです。

(1) UPS 名

<LCD パネルなし Smart-UPS>

PowerChute Business Edition コンソールを起動し[デバイスのプロパティ]-[全般]--[UPS の ID 情報]の "UPS 名"より確認および設定してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS>

PowerChute Business Edition コンソールを起動し[デバイスのプロパティ]ー["UPS 機種"]--[UPS 設定] --[全般設定]の"UPS 名"より確認および設定してください。

- (2) 警告音
 - <LCD パネルなし Smart-UPS>

PowerChute Business Edition コンソールより[デバイスのプロパティ]-[全般]-[電源パラメータ]の "警告音"にて確認および設定してください。

- ※ [電源パラメータ]を表示するにはデバイスのプロパティ画面の左下にある「詳細項目の表示」に チェックを入れてください。
- <LCD パネル付き Smart-UPS>

PowerChute Business Edition コンソールを起動し[デバイスのプロパティ]-["UPS 機種"]--[UPS 設定] -[全般設定]の"警告音"より確認および設定してください。

- (3) UPS によるセルフテストの実行頻度
 - <LCD パネルなし Smart-UPS>

本設定値の確認および設定はWebUIより行います。

WebUI より PowerChute Business Edition エージェントにアクセスします。

[デバイスモデル]-[診断]を選択し、「診断スケジュール」の"セルフテストの実行"より確認および設定してください。

※ WebUI でのアクセス方法は、「II 運用編 3 WebUI での操作」を参照してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS>

PowerChute Business Edition コンソールを起動し[デバイスのプロパティ]ー["UPS 機種"]---[診断]--[セル フテストのスケジュール]の"セルフテストの実行"より確認および設定してください。

(4) コンセントグループ名

(5) 負荷制限機能

PowerChute Business Edition コンソールより[デバイスのプロパティ]-[シャットダウン]-[負荷制限機能]の"負荷制限機能"より確認および設定してください。

(6) UPS LCD 読み取り専用

PowerChute Business Edition コンソールを起動し[デバイスのプロパティ]ー["UPS 機種"]--[UPS 設定]--[全般設定]の"UPS LCD は読み取り専用です"より確認および設定してください。

(7) バッテリ設置日付

PowerChute Business Edition コンソールより[デバイスのプロパティ] -["UPS 機種"]--[バッテリ管理]-[予想バッテリ交換]の"バッテリ設置日付"より確認および設定してください。

(8) その他の項目

その他の項目につきましては「20.1.5 確認事項」と同じようにして行うことができますので、

- そちらを参照してください。
- ※「ローバッテリ信号時間」「ローランタイムしきい値」はWebUI でのみ確認および設定を行うことができます。
- ※「OS シャットダウン期間」はWebUI では「OS シャットダウン待機時間」と表現されています。